

令和 3 年 度
(2 0 2 1)

病 院 年 報

市 立 敦 賀 病 院

病 院 理 念

市立敦賀病院は、地域の医療をささえ、
信頼され、温もりのある病院をめざします。

基 本 方 針

- ・ 嶺南の中核病院として、地域の医療介護福祉施設との連携を深め、地域の医療の発展に努めます。
- ・ 患者さん中心の安全、安心な医療を行います。
- ・ 患者さんにやさしい、開かれた病院をつくります。
- ・ 質の高い効率的な医療をわかりやすく提供します。
- ・ やりがいと誇りをもった職員を育成し、チーム医療を推進します。

事業管理者あいさつ

市立敦賀病院 敦賀市病院事業管理者 兼 病院長 太田 肇

市立敦賀病院の令和3年度の年報をお届けします。

令和3年度もCOVID-19感染症に翻弄された1年でした。当院では令和3年度1年間の入院患者は193名、発熱外来件数は1755件、行政検査を含めたドライブスルー方式でのPCR検査は4468件、オンライン面会は322件、ワクチン接種業務は16988件とCOVID-19感染症に関係する業務が職員を疲弊させました。コロナ患者専用病床は最大12床まで増床し対応にあたりましたが二州地区の感染状況が悪化した際にはさらに多くの患者様を受け入れることになりました。入院コーディネートセンターにも設置当初から当院DMAT隊員を派遣していて、令和3年度も、のべ56名のスタッフを派遣しています。職員の行動指針については、福井県の行動指針より一段階厳しい状態とし、職員および院内感染予防に努めました。厳しい制限のなかでCOVID-19対策に携わったすべての職員の皆さんに深甚なる敬意を表します。また多くの励ましのお言葉やご支援を賜りました方々に心より感謝を申し上げます。今後も職員一丸となって二州地区の地域医療に貢献できま しょう、さらに努力していく所存でございます。

一方で二州地区においては地域医療構想の核となる地域医療調整会議は残念ながら令和3年度は一度も開催されませんでした。この原稿を書いている令和5年2月の段階で、COVID-19感染症は 2類相当以上の扱いを令和5年5月8日から5類に引き下げることとなり、これに伴い呼び方が「新 型」から、「コロナウイルス感染症2019」になりました。医療においては平時の体制へ移行しつ つあります。地域医療調整会議も3月に予定されることとなり、病院間の役割分担や、医師の働 き方改革やチーム医療、人材育成については少しずつ前進しています。ポストコロナには程遠い 状況ですが、ウィズコロナの時代となり、病院も今までの医療体制を見直して変わらなくてはな りません。住民の受診形態の変化や病気に対する考え方に俊敏に対応することこそが当院が生 き残っていき たく上で大切であると思われま

本報告書において、各部門からの令和3年度の活動報告をとりまとめています。ご一読いただき、今後とも皆様のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年2月

目 次

I	病院の沿革及び現況	
1	病院の沿革	1
2	病院の概要	3
3	施設の概要	4
4	設備の概要	4
5	設備基準等届出一覧	5
6	組織図	6
7	職員の現況	7
8	入院部屋数	8
9	経営の概要	9
10	経営分析	10
11	委員会等一覧	12
12	対外活動	13
II	決算概要	
1	収益的収入及び支出	15
2	資本的収入及び支出	18
3	貸借対照表	18
4	診療行為別診療収入の状況	19
5	診療科別診療収入の状況	20
III	固定資産状況	
1	有形固定資産の取得状況	23
2	主要医療機器の設置状況	24
3	企業債・減価償却の状況	25
(1)	企業債の年度別状況	25
(2)	減価償却額の年度別状況	25
IV	各部署の活動状況	
1	診療部	27
2	医療安全管理室	27
3	感染制御センター	28
4	医療支援部	31
(1)	人材確保育成室	31
(2)	地域医療連携室	31

(3) 患者相談室・がん相談支援センター	33
(4) 入退院支援室	35
5 医療技術部	37
(1) 検査室	37
(2) 放射線室	39
(3) リハビリテーション室	41
(4) 臨床工学技術室	43
(5) 栄養管理室	44
(6) 歯科衛生室	45
6 薬剤部	46
7 看護部	47
8 事務局	49
(1) 総務企画課	49
(2) 医療サービス課	50
9 訪問看護ステーションつなぐ	51
10 各委員会の活動状況	52

V 業務の概要

1 患者の状況	69
(1) 入院・外来別患者数	69
(2) 患者数の推移	69
(3) 診療科別患者数	70
(4) 市町村別患者数	71
(5) 月別患者数	72
(6) 救急患者の取扱状況	74
(7) 患者搬送の状況	77
2 人間ドックの状況	78
3 中央手術室業務の状況	79
4 種類別麻酔件数	79
5 内視鏡検査件数	79
6 周産期医療の状況	80
7 薬剤室業務の状況	81
(1) 調剤業務の状況	81
(2) 服薬指導の状況	81
(3) 注射剤調製の状況	81
(4) 後発医薬品採用率	81
8 人工透析の状況	81

9	放射線科(室)の状況	82
(1)	撮影の状況	82
(2)	紹介患者の取り組み	82
(3)	血管撮影検査の状況	82
(4)	MRI検査の状況	82
(5)	CT検査の状況	82
(6)	核医学検査の状況	83
(7)	放射線治療の状況	83
(8)	マンモグラフィーの状況	84
(9)	骨密度検査の状況	84
(10)	エコー検査の状況	84
(11)	透視検査の状況	84
(12)	血管造影の状況	85
10	臨床検査の状況	86
(1)	各種検査件数	86
(2)	生理機能検査件数	86
(3)	血液製剤使用量	87
11	リハビリテーションの状況	87
12	患者給食及び栄養指導の状況	88
13	死亡患者数及び病理解剖件数	88
14	医療福祉相談の状況	89
(1)	患者相談の状況	89
(2)	病院に対するご要望の状況	89
(3)	入院説明・案内の状況	89
(4)	ボランティアの活動状況	89
15	地域医療連携の状況	89
(1)	紹介及び逆紹介の状況	89
(2)	開放型病床の状況	90
(3)	地域包括ケア病棟の状況	90
(4)	退院支援の状況	90
(5)	地域連携パスの状況	90
(6)	ふくいメディカルネット運用件数	90
16	医療安全の状況	90
(1)	インシデント・アクシデントレポートの提出状況	90
17	院内がん登録の状況	91
(1)	部位別院内がん登録の状況	91
(2)	経緯別院内がん登録の状況	92

VI D P Cの概要	
1 DPC係数の状況.....	93
2 DPC／PDPSにおけるMDC2桁分類.....	94
VII 研究業績	
1 診療部	95
2 医療支援部	102
3 医療技術部	103
4 看護部	107
VIII 臨床研修プログラム概要	
令和3年度 市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績	111
参考資料	
○ 第2次市立敦賀病院中期経営計画(改訂版)の概要.....	115
○ 市立敦賀病院の患者権利章典	120
○ 市立敦賀病院職業倫理規程.....	122
○ 医療事故防止のための8カ条	123

I 病院の沿革及び現況

1 病院の沿革

明治15年 2月	県立敦賀病院開設
明治24年 4月	郡制施行に伴い郡立敦賀病院に改称
大正12年 4月	郡制廃止により敦賀郡町村組合立病院に改称
昭和18年 4月	日本医療団へ現物出資
昭和24年 2月	病院開設許可(昭和24年2月1日 福井県指令医第462号)
昭和24年 4月	日本医療団より全施設組合に返還
昭和30年 1月	町村合併により市立敦賀病院に改称
昭和38年 3月	2ヵ年度継続事業で病院本館、鉄筋コンクリート造・4階建 全面改築(4,487㎡)完成 (一般172床、伝病20床、結核40床)
昭和44年10月	2ヵ年度継続事業で救急診療棟、鉄筋コンクリート造・4階建 増設(2,190㎡)完成 (一般232床、伝病25床、結核40床)
昭和48年 4月	医師住宅1号棟、鉄筋コンクリート造・2階建(7戸)完成
昭和49年 4月	医師住宅2号棟、鉄筋コンクリート造・2階建(8戸)完成
昭和54年 5月	木造病棟を取り壊し、中央診療棟(放射線部門・手術部門病棟) 鉄筋コンクリート造・4階建増改築(3,223㎡ ^①)完成 (一般276床、伝病25床、結核28床)
昭和62年10月	3ヵ年度継続事業で本館診療棟、鉄筋コンクリート造・7階建 増改築(12,068㎡ ^②)完成 (合計床面積 18,454㎡) (一般276床、伝病25床)
平成元年10月	神経科精神科(外来)開設
平成 5年 4月	循環器科・消化器科・麻酔科開設
平成 6年10月	3ヵ年度継続事業で東診療棟、救急診療棟、鉄筋コンクリート造 5階建増改築(6,486㎡ ^③)完成 (東病棟…完成・同年4月、運用開始・同年6月) (合計床面積 ^{①②③} 21,777㎡) (一般348床、伝病10床)
平成 7年 1月	土曜閉院完全実施
平成 7年12月	3ヵ年度継続事業で電算情報トータルシステム整備完了
平成 9年 3月	医師住宅及び駐車場敷地購入(3,906.06㎡)
平成10年11月	医師住宅新築工事竣工 鉄筋コンクリート造・5階建(2,520.96㎡) 妻帯用12戸、単身用8戸
平成11年 1月	旧医師住宅解体
平成11年 4月	第二種感染症指定医療機関に指定(一般348床、感染症2床)
平成12年 3月	立体駐車場完成 鉄骨造2階建(4,273.18㎡)(253台収容)
平成14年 9月	神経内科開設
平成15年 9月	第3次整備建設着工(平成15年度～平成18年度継続事業)
平成15年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43号取得
平成15年11月	厚生労働省管理型臨床研修病院指定 第030944号
平成17年 3月	第3次整備建設工事のうち北診療棟(7,815㎡)完成 平
成18年 7月	リハビリテーション科開設
平成18年10月	病床数変更(一般373床、感染症2床)
平成18年12月	第3次整備建設工事完成
平成20年10月	財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-2号取得(更新)

平成20年12月	中期経営計画策定(第1次)
平成21年 1月	電子カルテ導入
平成21年 5月	病床数変更(一般330床、感染症2床)
平成22年 4月	給食業務全面委託開始
平成23年 2月	DMAT隊編成
平成23年 4月	DPC請求病院開始
平成23年 6月	DMAT指定医療機関
平成23年 7月	DMAT隊第2班編成
平成23年10月	救急科開設
平成24年 7月	リハビリ棟耐震補強工事完成(全棟耐震化完了) 平
成24年 8月	院内保育所開設
平成25年10月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-3号取得(更新)
平成26年 2月	第2次中期経営計画策定
平成26年 3月	医薬品SPD導入
平成26年10月	地域包括ケア病棟開設
平成27年10月	原子力災害対策施設整備工事完成
平成27年10月	地域包括ケア病棟増設(2病棟71床体制)
平成28年 4月	地方公営企業法の全部適用へ移行
平成28年 6月	自治体立優良病院表彰受賞
平成29年 3月	第2次中期経営計画改訂
平成29年 4月	形成外科、心臓血管外科を増設 消化器内科(元消化器科)循環器内科(元循環器科・心臓血管外科)へ 名称変更
平成30年 4月	訪問診療開始
平成30年 4月	特定行為指定研修機関に認定
平成30年10月	市立敦賀病院訪問看護ステーション「つなぐ」開設
平成30年10月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定第JC43-4号取得(更新)
平成31年 4月	人材確保育成室・在宅医療推進室・入退院支援室の設置
令和2年11月	発熱外来を設置
令和3年 1月	乳腺外科を増設
令和3年 1月	がん相談支援センターを設置

2 病院の概要（令和4年4月1日現在）

- 名 称 市立敦賀病院(昭和24年2月1日 福井県指令医第462号)
- 所在地 福井県敦賀市三島町1丁目6番60号
- 開設者 敦賀市 敦賀市長 淵上隆信
- 管理者 敦賀市病院事業管理者 太田 肇
- 院長 太田 肇
- 敷地面積 17,965.18 m²
- 建物延面積 30,091.96 m²
- 診療科目 内科／神経内科／消化器内科／循環器内科／小児科／外科
心臓血管外科／乳腺外科／整形外科／脳神経外科／皮膚科
形成外科／泌尿器科／産婦人科／眼科／耳鼻いんこう科／放射線科 神
経科精神科／歯科口腔外科／麻酔科／リハビリテーション科
救急科（22診療科）
- 特殊診療部門 救急医療、人工透析、生活習慣病健診、人間ドック
- 許可病床数 一般病床 330床・感染症病床 2床 計332床
- 診療指定 保険医療機関、労災保険指定医療機関、国保療養取扱機関
指定自立支援医療機関（更生医療・育成医療・精神通院医療）
身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関
生活保護法指定医療機関、児童福祉法指定療育育成機関
結核指定医療機関、指定養育医療機関、災害拠点病院
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関、公害医療機関
第二種感染症指定医療機関、原子力災害医療協力機関
母体保護法指定医の配置されている医療機関
救急告示病院、第二次救急病院群輪番制病院
エイズ治療拠点病院、特定疾患治療研究事業委託医療機関
指定療育機関、小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関
地域周産期母子医療センター、洋上救急協力機関
労働者災害補償保険法に基づくアフターケア指定医療機関
DPC指定病院、日本赤十字常備救護班
- 研修等施設指定 日本内科学会教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会指導施設
日本肝臓学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本呼吸器学会認定施設
日本整形外科学会研修施設、日本医学放射線学会修練機関
日本脳神経外科学会専門医制度関連施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本臨床細胞学会施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設、マンモグラフィ検診施設
 日本眼科学会専門医制度研修施設、日本麻酔科学会麻酔科認定病院
 日本産科婦人科学会専門研修連携施設
 日本周産期・新生児医学会暫定研修施設(補完研修施設)
 日本静脈経腸栄養学会・NST(栄養サポートチーム)稼働施設
 日本医療機能評価機構認定病院、基幹型臨床研修病院
 日本透析医学会教育関連施設、腹部ステントグラフト実施施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本救急医学会専門指導医施設
 日本脳卒中学会認定研修教育施設、DMAT指定医療機関
 日本口腔外科学会認定准研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設
 日本腎臓学会認定施設

3 施設の概要

敷地面積	17,965.18 m ²
建物延面積	30,091.96 m ²
	本館診療棟 12,067.92 m ²
	中央診療棟 3,223.29 m ²
	東診療棟 6,486.02 m ²
	北診療棟 8,314.73 m ²
	計 30,091.96 m ²

4 設備の概要

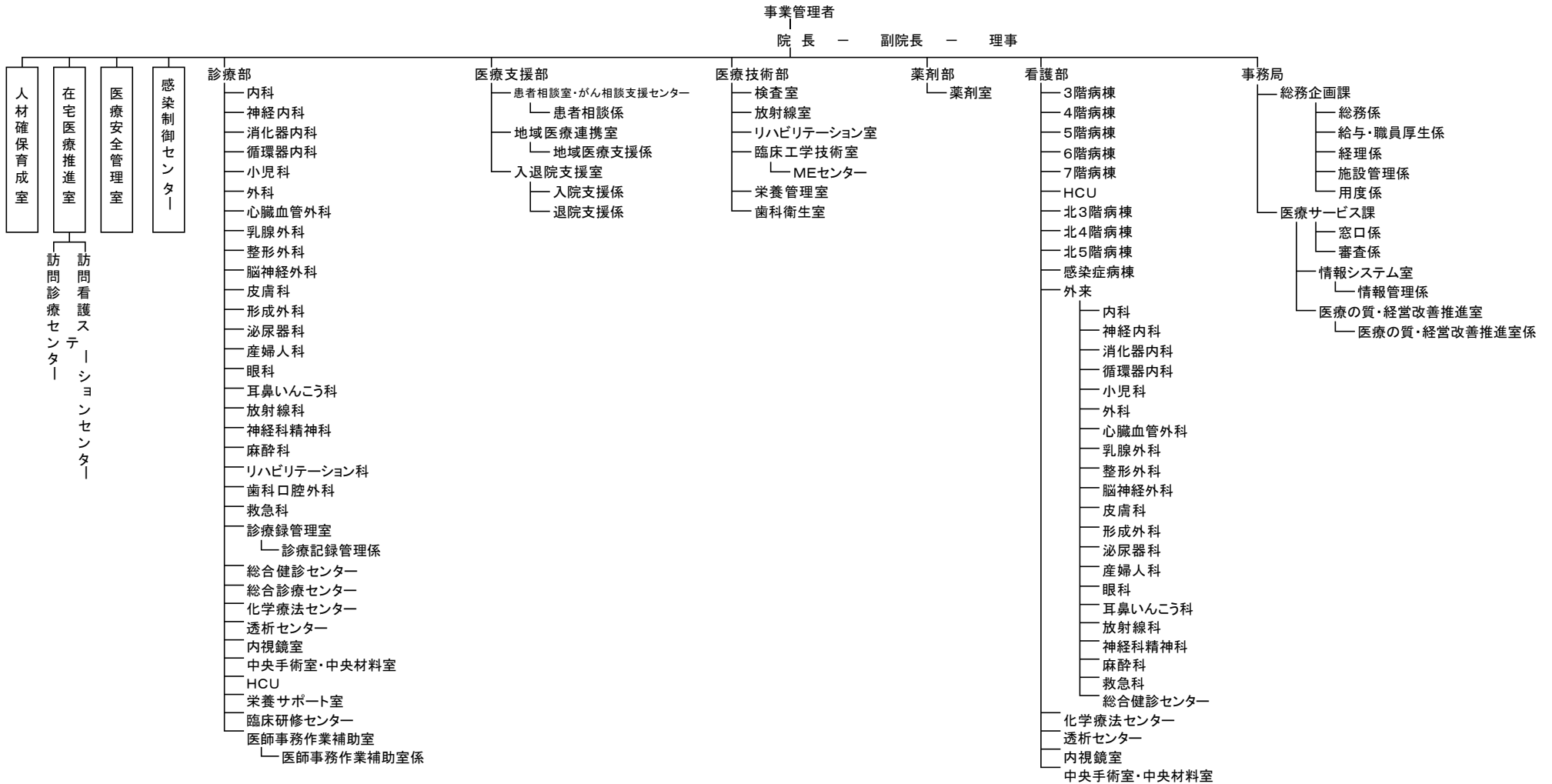
受変電	設備容量:6,500KVA 契約電力:1,150KW 受電電圧:6,600V(2系統受電)
非常用電源設備 無停電電源装置 太陽光発電設備	発電機容量:625KVA×2・200KVA×2・105KVA×1 50KVA×4 太陽電池アレイ×90 最大出力 10KW
弱電設備	構内電話・コードレス電話設備 インターホン設備 ナースコール設備 電気時計設備 TV共聴設備
消防設備	自動火災報知設備 排煙設備 誘導灯 スプリンクラー設備 非常放送設備 非常通報設備 屋内消火栓設備
熱源設備	炉筒煙管蒸気ボイラー:1.5t/h 2基 貫流蒸気ボイラー:0.75t/h 2基 スチームアキュムレーター:30 m ² 1基
空調設備	吸収式冷温水機:5基 (330RT×2・240RT×1・50RT×2) 水冷チラーユニット:1基 エアハンドリング空調機 ガスエンジンヒートポンプマルチエアコン 電気式ヒートポンプマルチエアコン ファンコイルユニット
給水設備	受水槽:SUSパネル 55t×2 SUSパネル 25t×2 高架水槽:SUSパネル 16t×2 SUSパネル 7t×1 雑水高架水槽:SUSパネル 13t×2 SUSパネル 7t×1
排水設備	一般排水系統 RI排水系統 特殊排水系統
給湯設備 浄化槽設備	貯湯槽:SUS4.5t×2 SUS3.0t×2 RI処理槽
医療ガス設備	液体酸素設備 圧縮空気供給設備 亜酸化窒素供給設備 窒素供給設備 吸引設備
昇降機設備	寝台用エレベーター:10基 一般エレベーター:2基 ダムウエーター:2基
搬送設備	気送管設備:85φ14ST1系統・15φ4ST1系統

5 施設基準等届出一覧

(令和4年12月現在)

No.	施設基準名称	No.	施設基準名称
1	一般病棟入院基本料 急性期一般入院基本料 入院料4	48	BRCA1/2遺伝子検査
2	救急医療管理加算	49	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
3	超急性期脳卒中加算	50	検体検査管理加算(IV)
4	診療録管理体制加算1	51	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
5	医師事務作業補助体制加算1(15対1)	52	ヘッドアップティルト試験
6	急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割以上)	53	神経学的検査
7	看護職員夜間16対1配置加算1	54	コンタクトレンズ検査料1
8	療養環境加算	55	小児食物アレルギー負荷検査
9	重傷者等療養環境特別加算	56	CT透視下気管支鏡検査加算
10	栄養サポートチーム加算	57	画像診断管理加算2
11	医療安全対策加算1 (医療安全対策地域連携加算有)	58	CT撮影及びMRI撮影
12	感染対策向上加算1 (指導強化加算有)	59	冠動脈CT撮影加算
13	患者サポート体制充実加算	60	心臓MRI撮影加算
14	ハイリスク妊娠管理加算	61	小児鎮静下MRI撮影加算
15	ハイリスク分娩管理加算	62	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
16	後発医薬品使用体制加算2	63	外来腫瘍化学療法診療料2
17	データ提出加算2	64	外来化学療法加算2
18	入退院支援加算1(入院時支援加算、総合機能評価加算、地域連携診療計画加算有)	65	無菌製剤処理料
19	認知症ケア加算1	66	心大血管疾患リハビリテーション料(I) 初期加算有
20	せん妄ハイリスク患者ケア加算	67	脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 初期加算有
21	地域医療体制確保加算	68	運動器リハビリテーション料(I) 初期加算有
22	ハイケアユニット入院医療管理料1	69	呼吸器リハビリテーション料(I) 初期加算有
23	小児入院医療管理料4(北3階、北5階)	70	がん患者リハビリテーション料
24	地域包括ケア病棟入院料2(看護職員配置加算、看護補助者配置加算有)	71	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
25	看護職員処遇改善評価料	72	導入期加算1
26	糖尿病合併症管理料	73	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
27	心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	74	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
28	がん性疼痛緩和指導管理料	75	緊急整備固定加算及び緊急挿入加算
29	がん患者指導管理料イ	76	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
30	がん患者指導管理料ロ	77	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
31	糖尿病透析予防指導管理料	78	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
32	乳腺炎重症化予防・ケア指導料	79	体外衝撃波胆石破砕術
33	二次性骨折予防継続管理料1及び3	80	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
34	一般不妊治療管理料	81	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
35	救急搬送看護体制加算1	82	内視鏡的小腸ポリープ切除術
36	ニコチン依存症管理料(減算中)	83	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
37	開放型病院共同指導料	84	輸血管理料II
38	ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	85	輸血適正使用加算
39	肝炎インターフェロン治療計画料	86	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
40	ハイリスク妊産婦連携指導料1	87	胃瘻造設時嚥下機能評価加算

組織図(令和4年4月1日現在)



7 職員の現況

年度末現在 単位：人

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	合計	臨時嘱託 (再掲)	合計	パートタイム 会計年度職員 (再掲)	合計	パートタイム 会計年度職員 (再掲)
医 師	59	11	65		66	
薬 剤 師	12		12		13	
診療放射線技師	14		16	1	16	1
臨床検査技師	16		20	6	20	6
臨床工学技士	6		8		7	
理学療法士	15		15		16	
作業療法士	7		10		10	
言語聴覚士	5		6		4	
歯科衛生士	4	1	5	1	6	1
管理栄養士	5		6		8	
栄 養 士			1	1		
臨床心理士			1	1	1	1
保 健 師	2		3	1	3	1
助 産 師	16		17	1	14	
看 護 師	255	4	286	24	296	29
准 看 護 師	8	1	10	1	10	2
事 務 職 員	26	7	30	3	33	5
電 気 技 師	2		3		2	
施 設 管 理 員	2	2	2		2	
事 務 員	25	17	34	11	32	14
看 護 補 助 者	15	15	25	11	23	11
医師事務作業補助者	13	13	36	21	36	21
そ の 他			12	7	20	7
合 計	507	71	623	90	638	99

8 入院部屋数（令和4年4月1日現在）

	本館3階		本館4階	本館5階	本館6階	本館7階		北館2階	北館3階			北館4階	北館5階	合計
		ドック					無菌室		HCU		小児入院			
特 室	(1) 1		(1) 1		(1) 1				(1) 1			(1) 1		(5) 5
1 人 部 屋	(6) 6	(6) 6	(5) 5	(9) 9	(5) 5	(4) 4	(1) 1		(2) 2	(6) 6	(2) 2	(8) 8	(6) 6	(60) 60
重 症 1 人 部 屋								(4) 4	(2) 2					(6) 6
2 人 部 屋	(2) 1			(4) 2	(4) 2	(6) 3		(2) 1						(18) 9
重 症 2 人 部 屋	(2) 1		(2) 1	(2) 1	(2) 1							(2) 1		(10) 5
4 人 部 屋	(32) 8		(32) 8	(20) 5	(24) 6	(24) 6			(32) 8	(4) 1		(36) 9	(24) 6	(228) 57
5 人 部 屋													(5) 1	(5) 1
合 計	(43) 17	(6) 6	(40) 15	(35) 17	(36) 15	(34) 13	(1) 1	(6) 5	(37) 13	(10) 7	(2) 2	(47) 19	(35) 13	(332) 143

上段:病床数()

下段:病室数

9 経営の概要

年度	収益的収支(単位:千円)			資本的収支(単位:千円)			一般会計繰入金(単位:千円)			医療収支比率 医療収入 医療費用 (単位:%)	職員給与比率 職員給与費 医療収入 (単位:%)	年度末 職員数 (臨時嘱 託再掲) ※令和2年度 ～(パートタ イム会計年度)	病床 利用率 (単位:%)	病床数 (単位:床)
	収入	支出	純損益	収入	支出	差引	収益勘定	資本勘定	合計					
25	7,369,227	7,282,485	86,742	342,618	705,979	△ 363,361	633,747	258,817	892,564	94.1	53.2	(65) 424	82.0	332
26	7,572,989	7,493,034	79,955	406,186	1,235,195	△ 829,009	615,612	269,489	885,101	89.9	58.4	(61) 447	78.1	332
27	7,707,144	7,455,378	251,766	639,612	1,122,653	△ 483,041	609,739	281,245	890,984	91.9	56.1	(61) 458	78.0	332
28	7,582,663	7,288,098	294,565	510,322	1,002,325	△ 492,003	627,195	326,072	953,267	93.3	56.8	(70) 472	79.0	332
29	7,787,414	7,667,091	120,323	376,123	770,376	△ 394,253	703,398	234,503	937,901	92.9	58.3	(67) 483	79.0	332
30	7,800,754	7,773,986	26,768	427,990	685,315	△ 257,325	765,210	251,554	1,016,764	86.9	61.0	(64) 497	72.5	332
元	8,221,583	7,928,962	292,621	437,975	700,630	△ 262,655	777,571	268,775	1,046,346	92.9	60.0	(71) 507	74.9	332
2	8,688,212	8,174,171	514,041	763,808	1,020,085	△ 256,277	826,638	256,516	1,083,154	87.3	62.2	(90) 623	69.7	332
3	9,362,507	8,404,024	958,483	631,535	876,829	△ 245,294	805,713	261,542	1,067,255	89.1	60.8	(99) 638	69.5	332

10 経営分析

分析項目		算出	単位	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
1日当り患者数	入院	入院患者数 入院診療日数	人	365日 262	365日 268	365日 256	366日 249	365日 232	365日 231
	外来	外来患者数 外来診療日数	人	243日 697	244日 699	244日 700	240日 699	243日 628	242日 686
	合計		人	959	967	956	948	860	917
医師1人1日当り患者数	入院	$\frac{\text{1日当り入院患者数}}{\text{医師数}}$	人	5.14	5.25	5.02	4.22	3.57	3.50
	外来	$\frac{\text{1日当り外来患者数}}{\text{医師数}}$	人	13.67	13.71	13.73	11.85	9.66	10.39
	合計		人	18.80	18.96	18.75	16.07	13.23	13.89
医業収支対前年度比率	医業収益の対前年度比	$\frac{\text{当年度医業収益}}{\text{前年度医業収益}}$	%	97.45	103.31	100.42	105.71	95.05	106.77
	医業費用の対前年度比	$\frac{\text{当年度医業費用}}{\text{前年度医業費用}}$	%	96.04	103.70	107.38	101.54	101.13	104.67
患者1人1日当り診療収入	入院	$\frac{\text{入院収益}}{\text{入院患者数}}$	円	41,216	41,785	43,111	48,032	49,174	50,549
	外来	$\frac{\text{外来収益}}{\text{外来患者数}}$	円	11,880	12,174	12,710	12,994	13,858	14,416

分析項目		算出	単位	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
医業収益に対する医業費用の割合	給与費	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}}$	%	56.84	58.30	61.14	59.97	62.20	60.77	
	材料費	薬品費	$\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}}$	%	14.27	15.01	16.06	14.24	14.75	15.38
		診療材料費	$\frac{\text{診療材料費}}{\text{医業収益}}$	%	8.97	8.42	8.11	8.20	8.69	8.25
		給食材料費	$\frac{\text{給食材料費}}{\text{医業収益}}$	%	0.13	0.11	0.10	0.10	0.11	0.11
		医療消耗備品費	$\frac{\text{医療消耗備品費}}{\text{医業収益}}$	%	0.08	0.08	0.13	0.13	0.21	0.17
		小計		%	23.45	23.62	24.41	22.68	23.76	23.91
	経費	$\frac{\text{経費}}{\text{医業収益}}$	%	16.60	16.53	17.48	16.46	20.52	19.33	
	減価償却費	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{医業収益}}$	%	9.44	8.54	8.40	7.80	7.45	7.80	
	資産減耗費	$\frac{\text{資産減耗費}}{\text{医業収益}}$	%	0.33	0.01	0.06	0.12	0.28	0.12	
	研究研修費	$\frac{\text{研究研修費}}{\text{医業収益}}$	%	0.59	0.63	0.59	0.62	0.34	0.36	
	合計	$\frac{\text{医業費用}}{\text{医業収益}}$	%	107.24	107.64	112.08	107.66	114.54	112.29	

1 1 委員会等一覧

(令和3年4月現在)

No.	名称	No.	名称
1	部長会	39	糖尿病診療委員会
2	管理運営・診療委員会	40	透析センター運営委員会
3	防災対策委員会	41	化学療法委員会
4	救急蘇生災害医療部会	42	医療器械・システム購入機種選定委員会
5	DMAT	43	地域包括ケア病棟運営委員会
6	赤十字救護班	44	CS・ES委員会
7	医療安全対策委員会	45	CS部会
8	リスクマネジメント部会	46	ES部会
9	DVT部会	47	聴き上手広め隊
10	アレルギー部会	48	倫理委員会
11	医療安全推進会議	49	臨床研究部会
12	患者サポート相談会議	50	臨床倫理部会
13	医療機器管理委員会	51	臓器移植チーム
14	病棟管理委員会	52	倫理コンサルテーションチーム
15	感染対策委員会	53	治験審査委員会
16	ICT	54	薬事委員会
17	AST	55	教育研修委員会
18	感染リンクスタッフ会	56	病院年報編集委員会
19	放射線安全委員会	57	TQM委員会
20	検体検査適性化委員会	58	DPC委員会
21	血液製剤管理委員会	59	広報委員会
22	医療ガス安全委員会	60	医療従事者修学資金貸与審査委員会
23	勤務環境改善委員会	61	院内スペース効率利用部会
24	電子カルテ委員会	62	医療の質・経営改善推進委員会
25	クリティカルパス委員会	63	認知症サポート委員会
26	診療材料検討委員会	64	臨床研修管理委員会
27	栄養管理委員会	65	臨床研修部会
28	褥瘡サポート委員会	66	心臓リハビリテーション運営委員会
29	栄養サポート委員会	67	診療材料管理業務委託検討委員会
30	地域医療連携委員会	68	医薬品管理業務委託検討委員会
31	在宅医療推進委員会	69	特定行為研修管理委員会
32	訪問診療部会	70	機能評価推進委員会
33	救急室・外来運営委員会	71	がん診療連携拠点病院推進委員会
34	HCU運営委員会	72	研修部会

12 対外活動

令和3年度 地域開放学習会実績

	開催日	テーマ	講師・担当者	人数
1	8月27日	緩和ケア 「疼痛コントロール」	外科医師 林 泰生	26
2	9月24日	「コロナ禍が心に及ぼす影響について」 「COVID-19感染防止について」	精神科医師 松本 日和 感染管理認定看護師 田中 恵実	36
3	10月29日	救急看護 「高齢者のフィジカルアセスメント」	救急看護認定看護師 橋詰 貞美子	22
4	11月19日	意思決定支援 「化学療法を続ける？やめる？～がん治療におけるその人らしさを考える～」	緩和ケア認定看護師 仲間 有希 がん化学療法認定看護師 奥 佐知子	19
5	12月17日	特定行為 「在宅での暮らしを叶える特定看護師による気管カニューレ交換～家族との関わり、ケアのワンポイントアドバイス～」	特定看護師 田辺 里江	9
6	3月18日	エンドオブライフケア 「在宅での看取り」 事例発表 「スプーンが溶けたんですけど・・・」	訪問看護認定看護師 近江谷 未幸 退院支援看護師 中者 香奈	31
参加人数合計				143

令和3年度 出前講座 実績

	開催日	時間	依頼元/開催場所	テーマ	講師	参加人数
1	6月11日	19:00	アイホーム (清水CM)	救急看護AEDの使用法について	救急看護認定看護師 副看護師長 橋詰貞美子	15
2	6月25日	15:00	県立敦賀高等学校 (福田養護教諭)	命の大切さについて	北6階看護師長 看護師長 助産師 上田紀子	225
3	7月9日	19:00	アイホーム (清水CM)	誤嚥性肺炎防止について	摂食嚥下障害看護認定看護師 主任看護師 下町智子	15
4	9月16日	10:00	粟野子育て支援センター (沼野主任保育士)	子どもの急病時の処置	救急看護認定看護師 副看護師長 橋詰貞美子	10
5	10月1日	19:00	アイホーム (清水CM)	褥瘡予防、ケアについて	皮膚排泄ケア認定看護師 看護師長 稲垣香緒里	15
6	10月4日	14:00	舞崎老人会	転倒予防教室/ 自宅のできる運動の紹介	作業療法士 道野将也 理学療法士 濱岡麻衣	16
7	10月22日	18:00	五湖の郷	新型コロナウイルスの基礎知識	感染管理認定看護師 副看護師長 田中恵実	17
8	10月26日	15:00	三方郡養護教諭部会	急病とけがの応急処置	救急看護認定看護師 副看護師長 橋詰貞美子	5
9	10月26日	18:00	美浜町社会福祉協議会	感染症について	感染管理認定看護師 副看護師長 田中恵実	40
10	11月18日	15:00	三方郡養護教諭部会	頭痛・めまいについて	脳神経外科部長 細田哲也	5
参加人数合計						363

健康応援フェスタ・市民公開講座は新型コロナウイルス流行につき開催中止。

Ⅱ 決算概要

1 収益的収入及び支出

収入

単位：千円

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業収益	8,194,327	105.3	8,660,970	105.7	9,329,840	107.7
医業収益	6,906,860	105.7	6,565,216	95.1	7,009,603	106.8
入院収益	4,374,575	108.6	4,154,507	95.0	4,258,844	102.5
外来収益	2,178,431	100.4	2,115,158	97.1	2,392,776	113.1
その他医業収益	353,854	105.2	295,551	83.5	357,983	121.1
医業外収益	1,286,677	103.8	1,940,900	150.8	2,319,351	119.5
受取利息	865	106.4	480	55.5	780	162.5
他会計負担金	777,571	101.6	826,638	106.3	805,713	97.5
補助金	22,841	129.1	651,128	2850.7	1,063,989	163.4
寄附金	5,000	皆増	0	-	1,000	皆増
財産収益	8,830	108.4	8,241	93.3	7,286	88.4
病院事業引当金戻入	23,278	113.6	11,904	51.1	12,959	108.9
院内保育収益	4,112	72.8	2,924	71.1	4,353	148.9
訪問看護ステーション収益	7,822	294.5	9,704	124.1	8,136	83.8
長期前受金戻入	328,025	98.8	333,366	101.6	327,694	98.3
その他医業外収益	108,333	125.4	96,515	89.1	87,441	90.6
特別利益	790	13.9	154,854	19601.8	886	0.6
その他特別利益	790	13.9	154,854	19601.8	886	0.6

支出

単位：千円

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業費用	7,903,170	101.9	8,147,433	103.1	8,371,255	102.7
医業費用	7,435,588	101.5	7,519,957	101.1	7,870,805	104.7
給与費	4,141,980	103.7	4,083,419	98.6	4,259,996	104.3
給料	1,435,831	102.0	1,763,500	122.8	1,824,121	103.4
手当等	1,141,319	103.7	1,267,812	111.1	1,385,920	109.3
賞与引当金繰入額	208,064	102.9	235,145	113.0	197,251	83.9
退職給付費	252,823	109.4	228,057	90.2	246,327	108.0
賃金	543,389	107.4	0	皆減	0	-
法定福利費	521,620	102.5	546,232	104.7	571,027	104.5
法定福利費引当金繰入額	38,934	101.8	42,673	109.6	35,350	82.8
材料費	1,566,417	98.2	1,559,670	99.6	1,675,960	107.5
薬品費	983,771	93.7	968,653	98.5	1,077,792	111.3
診療材料費	566,192	106.8	570,424	100.7	578,003	101.3
給食材料費	7,172	108.9	7,084	98.8	7,969	112.5
医療消耗備品費	9,282	105.9	13,509	145.5	12,196	90.3
経費	1,136,939	99.5	1,347,471	118.5	1,354,707	100.5
厚生福利費	429	123.3	94	21.9	68	72.3
報償費	137	39.8	204,787	149479.6	211,402	103.2
旅費	12,526	99.2	11,952	95.4	11,236	94.0
職員被服費	1,460	122.6	2,246	153.8	1,864	83.0
消耗品費	31,317	94.6	33,632	107.4	32,566	96.8
消耗備品費	6,802	88.7	10,548	155.1	5,941	56.3
光熱水費	106,727	98.2	102,836	96.4	107,339	104.4
燃料費	55,434	106.1	51,430	92.8	64,735	125.9
食糧費	20	133.3	7	35.0	0	0.0
印刷製本費	3,864	112.5	2,469	63.9	2,951	119.5
修繕費	60,242	111.6	67,411	111.9	56,433	83.7

保険料	16,170	101.3	15,050	93.1	15,220	101.1
賃借料	100,923	105.4	109,502	108.5	107,326	98.0
通信運搬費	8,363	105.3	9,356	111.9	10,721	114.6
委託料	716,643	97.7	713,462	99.6	707,017	99.1
交際費	52	67.5	0	0.0	0	-
公課費	40	37.0	92	230.0	32	34.8
諸会費	2,959	97.6	2,909	98.3	2,939	101.0
雑費	12,831	102.6	9,688	75.5	16,917	174.6
減価償却費	538,808	98.2	488,949	90.7	546,885	111.8
建物減価償却費	320,184	99.9	318,635	99.5	338,270	106.2
構築物減価償却費	1,442	2288.9	1,442	100.0	1,442	100.0
器械備品減価償却費	130,214	96.3	116,151	89.2	164,734	141.8
車両減価償却費	577	皆増	1,432	248.2	1,432	100.0
リース資産減価償却費	34,137	79.4	33,319	97.6	24,385	73.2
無形固定資産減価償却費	52,254	105.3	17,970	34.4	16,622	92.5
資産減耗費	8,283	214.3	18,379	221.9	8,243	44.9
固定資産除却費	8,283	214.3	18,379	221.9	8,243	44.9
研究研修費	43,161	112.8	22,069	51.1	25,014	113.3
謝金	233	209.9	25	10.7	0	皆減
図書費	6,556	101.8	7,320	111.7	6,424	87.8
旅費	18,117	114.8	1,415	7.8	1,885	133.2
消耗品費	8,691	104.3	8,596	98.9	8,611	100.2
消耗備品費	0	皆減	0	-	-	-
印刷製本費	152	80.0	164	164.0	180	164.0
委託料	125	112.6	185	185.0	309	185.0
負担金	8,843	135.0	4,168	4168.0	6,637	4168.0
雑費	444	103.3	196	196.0	968	196.0
医業外費用	424,043	112.5	432,987	102.1	437,282	101.0
支払利息	73,020	90.2	65,098	89.2	57,075	87.7
企業債利息	72,669	90.2	64,525	88.8	56,512	87.6
リース利息	351	98.0	573	163.2	563	98.3
長期前払消費税償却	18,070	123.9	14,422	79.8	18,506	128.3
院内保育費	26,269	82.4	25,342	96.5	26,366	104.0
消耗品費	212	65.4	172	81.1	324	188.4
保険料	6	100.0	7	116.7	7	100.0
委託料	26,051	82.6	25,163	96.6	26,035	103.5
訪問看護ステーション費	32,049	311.3	28,582	89.2	28,012	98.0
給料	10,079	614.2	14,178	140.7	12,772	90.1
手当等	8,555	291.4	5,287	61.8	5,077	96.0
賞与引当金繰入額	1,060	100.3	1,514	142.8	1,325	87.5
退職給付費	2,014	671.3	1,626	80.7	3,503	215.4
賃金	4,436	321.4	0	0.0	0	-
法定福利費	4,222	447.2	3,984	94.4	3,813	95.7
法定福利費引当金繰入額	176	132.3	83	47.2	73	88.0
診療材料費	90	1800.0	563	625.6	109	19.4
医療消耗備品費	24	29.3	18	75.0	0	皆減
厚生福利費	3	300.0	3	100.0	0	皆減
図書費	12	37.5	35	291.7	52	148.6
旅費	182	293.5	0	0.0	0	皆減
職員被服費	112	151.4	142	126.8	0	皆減
消耗品費	153	83.2	101	66.0	121	119.8
消耗備品費	0	皆減	0	-	0	-
光熱水費	251	194.6	244	97.2	255	104.5
燃料費	135	43.8	153	113.3	175	114.4
印刷製本費	20	48.8	0	0.0	0	-
保険料	38	172.7	45	118.4	45	100.0
賃借料			90	皆増	90	皆増

通信運搬費	10	333.3	28	280.0	95	339.3
委託料	358	994.4	430	120.1	430	100.0
負担金	63	170.3	23	36.5	41	178.3
諸会費	31	45.6	30	96.8	30	100.0
雑費	25	25.0	5	20.0	6	120.0
病院事業引当金繰入	6,017	541.1	684	11.4	306	44.7
雑支出	268,119	112.6	293,019	109.3	306,771	104.7
賠償金	499	皆増	5,840	皆増	246	4.2
特別損失	43,539	82.9	194,489	446.7	63,168	32.5
過年度損益修正損	3,114	241.0	708	22.7	23,548	3326.0
その他特別損失	40,425	79.0	193,781	479.4	39,620	20.4

2 資本的收入及び支出

単位：千円

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
資本的收入	437,975	102.3	763,808	174.4	631,535	82.7
一般会計繰入金	268,775	106.8	256,516	95.4	261,542	102.0
国・県補助金	0	皆減	193,842	皆増	151,393	78.1
投資返戻金	6,800	69.0	3,850	56.6	7,400	192.2
企業債	162,400	103.2	309,600	190.6	206,200	66.6
寄附金	0	-	0	-	5,000	皆増
資本の支出	700,629	102.2	1,020,085	145.6	876,829	86.0
企業債償還金	444,282	109.7	405,596	91.3	426,468	105.1
建物整備費	0	皆減	62,598	皆増	8,448	13.5
資産購入費	173,238	123.1	460,118	265.6	354,705	77.1
リース資産購入費	40,788	79.0	42,923	105.2	28,858	67.2
基金組入金	6,800	73.5	2,450	36.0	9,500	387.8
返還金	21	91.3	0	皆減	0	-
投資	35,500	91.5	46,400	130.7	48,850	105.3

3 貸借対照表

(資産の部)

単位：千円

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	6,935,948	95.3	6,978,340	100.6	6,777,806	97.1
有形固定資産	6,748,490	95.8	6,745,598	100.0	6,526,851	96.8
土地	683,829	100.0	683,829	100.0	683,829	100.0
建物	13,433,446	100.0	13,490,353	100.4	13,498,033	100.1
建物減価償却累計額	△ 8,192,661	104.1	△ 8,511,296	103.9	△ 8,849,566	104.0
構築物	156,943	100.0	156,943	100.0	156,943	100.0
構築物減価償却累計額	△ 135,791	101.1	△ 137,233	101.1	△ 138,675	101.1
器械備品	5,351,889	100.2	5,580,599	104.3	5,762,172	103.3
器械備品減価償却累計額	△ 4,664,572	100.0	△ 4,613,225	98.9	△ 4,655,162	100.9
車両	9,183	192.3	9,183	100.0	10,366	112.9
車両減価償却累計額	△ 1,745	149.3	△ 3,177	182.1	△ 4,610	145.1
リース資産	328,292	104.3	142,409	43.4	108,145	75.9
リース資産減価償却累計額	△ 220,323	102.0	△ 52,787	24.0	△ 44,624	84.5
無形固定資産	50,522	55.4	52,412	103.7	49,390	94.2
ソフトウェア	50,522	55.4	52,412	103.7	49,390	94.2
投資その他の資産	136,936	96.5	180,330	131.7	201,565	111.8
長期貸付金	121,150	101.4	138,150	114.0	149,700	108.4
貸倒引当金	△ 22,500	97.4	△ 27,250	121.1	△ 30,550	112.1
長期前払消費税	38,286	84.0	69,430	181.3	82,415	118.7
流動資産	4,042,949	109.8	4,561,455	112.8	5,708,816	125.2
現金預金	2,754,725	113.8	2,728,530	99.0	4,145,567	151.9
未収金	1,266,912	102.1	1,809,941	142.9	1,538,671	85.0
貯蔵品	21,312	100.0	22,984	107.8	24,578	106.9
資産合計	10,978,897	100.2	11,539,795	105.1	12,486,622	108.2

(負債の部)

固定負債	4,233,313	95.2	4,259,031	100.6	4,092,029	96.1
企業債	2,842,308	92.1	2,725,439	95.9	2,456,016	90.1
リース債務	59,341	159.5	63,337	106.7	43,663	68.9
引当金	1,331,664	100.4	1,470,255	110.4	1,592,350	108.3
流動負債	1,258,531	100.0	1,164,741	92.5	1,231,375	105.7
企業債	405,596	91.3	426,468	105.1	475,624	111.5
リース債務	41,070	100.9	28,453	69.3	22,820	80.2
未払金	543,703	106.5	410,851	75.6	456,541	111.1
引当金	248,234	102.7	279,415	112.6	233,999	83.7
その他流動負債	19,928	95.9	19,554	98.1	42,391	216.8
繰延収益	3,195,728	97.9	3,299,829	103.3	3,376,848	102.3
長期前受金	10,410,756	101.6	10,572,423	101.6	10,933,879	103.4
長期前受金収益化累計額	△ 7,215,028	103.3	△ 7,272,594	100.8	△ 7,557,031	103.9
負債合計	8,687,572	96.8	8,723,601	100.4	8,700,252	99.7

(資本の部)

資本金	2,433,060	100.0	2,433,060	100.0	2,433,060	100.0
剰余金	△ 141,735	32.0	383,134	-270.3	1,353,310	353.2
資本剰余金	109,448	109.8	120,780	110.4	132,371	109.6
利益剰余金	△ 251,183	46.3	262,354	-104.4	1,220,939	465.4
資本合計	2,291,325	115.1	2,816,194	122.9	3,786,370	134.4

負債・資本合計	10,978,897	100.2	11,539,795	105.1	12,486,622	108.2
---------	------------	-------	------------	-------	------------	-------

4 診療行為別診療収入の状況

単位：千円

		令和元年度			令和2年度			令和3年度		
		金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
入院	基本診療料	3,243,594	74.3	106.6	3,003,478	72.5	92.6	3,073,090	72.2	102.3
	検査料	51,227	1.2	106.1	43,898	1.1	85.7	56,347	1.3	128.4
	画像診断	13,860	0.3	97.2	13,835	0.3	99.8	17,133	0.4	123.8
	投薬	43,826	1.0	99.8	41,911	1.0	95.6	40,626	1.0	96.9
	注射	40,412	0.9	94.1	57,792	1.4	143.0	83,625	2.0	144.7
	理学療法	123,729	2.8	100.9	142,524	3.4	115.2	131,274	3.1	92.1
	処置	64,713	1.5	90.7	52,911	1.3	81.8	53,538	1.3	101.2
	手術	693,128	15.8	109.1	705,111	17.0	101.7	709,639	16.7	100.6
	麻酔	95,549	2.2	1425.5	91,905	2.2	96.2	93,569	2.2	101.8
	合計	4,374,575	100.0	108.6	4,154,507	100.0	95.0	4,258,844	100.0	102.5
	患者1人当り収入(円)	48,032	—	104.8	49,174	—	102.4	50,549	—	102.8
外来	基本診療料	356,980	16.4	106.1	350,198	16.6	98.1	417,684	17.5	119.3
	検査料	509,963	23.1	99.9	481,036	22.4	94.3	562,183	23.5	116.9
	画像診断	320,387	14.7	103.0	308,822	14.6	96.4	338,749	14.2	109.7
	投薬	63,752	2.9	51.6	50,459	2.4	79.1	50,436	2.1	100.0
	注射	495,466	22.4	102.9	491,145	22.9	99.1	613,107	25.6	124.8
	理学療法	38,178	1.8	93.8	27,836	1.3	72.9	313,190	13.1	1125.1
	処置	315,136	14.5	113.1	316,103	14.9	100.3	34,259	1.4	10.8
	手術	30,484	1.4	116.9	32,818	1.6	107.7	1,241	0.1	3.8
	麻酔	1,767	0.1	119.4	1,726	0.1	97.7	4,356	0.2	252.4
	精神療法	2,595	0.1	95.5	2,231	0.1	86.0	2,279	0.1	102.2
	処方せん料	56,871	2.6	99.8	52,780	2.5	92.8	55,292	2.3	104.8
	合計	2,178,431	100.0	100.4	2,115,158	100.0	97.1	2,392,776	100.0	113.1
患者1人当り収入(円)	12,994	—	102.2	13,858	—	106.7	14,416	—	104.0	

5 診療科別診療収入の状況

(1) 入院・外来合計

単位:千円

区分	令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科 (*1)	1,990,578	30.5	107.4	1,861,456	29.8	93.5	2,022,669	30.3	108.7
神経内科 (*2)	23,046	0.4	100.7	28,487	0.5	123.6	32,012	0.5	112.4
消化器内科 (*3)	411,688	6.3	104.0	507,249	8.1	123.2	548,448	8.2	108.1
循環器内科 (*3)	640,932	9.8	95.5	461,961	7.4	72.1	484,745	7.3	104.9
小児科	171,122	2.6	107.4	126,187	2.0	73.7	209,562	3.2	166.1
外科	1,106,533	16.9	116.3	978,087	15.6	88.4	855,948	12.9	87.5
乳腺外科	-	-	-	12,757	0.2	皆増	130,178	2.0	1020.4
整形外科	794,388	12.1	113.3	860,548	13.7	108.3	887,555	13.3	103.1
脳神経外科	429,559	6.6	105.3	450,238	7.2	104.8	511,011	7.7	113.5
皮膚科	107,253	1.6	95.5	99,769	1.6	93.0	86,583	1.3	86.8
形成外科	4,228	5.7	158.1	3,985	7.3	94.3	3,229	0.0	81.0
泌尿器科	375,931	5.7	81.0	458,169	7.3	121.9	441,458	6.6	96.4
産婦人科	317,542	4.8	111.3	241,390	3.9	76.0	241,739	3.6	100.1
眼科	40,698	0.6	98.1	32,507	0.5	79.9	36,127	0.5	111.1
耳鼻いんこう科	14,972	0.2	111.4	41,682	0.7	278.4	41,875	0.6	100.5
放射線科	28,483	0.4	114.2	25,184	0.4	88.4	28,280	0.4	112.3
神経科精神科	4,143	0.1	93.0	3,750	0.1	90.5	3,569	0.1	95.2
麻酔科	2,275	0.1	85.9	1,845	0.1	81.1	1,747	0.1	94.7
リハビリテーション科	22,634	0.3	86.8	14,277	0.2	63.1	11,129	0.2	78.0
歯科口腔外科	67,000	1.0	115.8	60,137	1.0	89.8	73,754	1.1	122.6
合計	6,553,006	100.0	105.7	6,269,665	100.0	95.7	6,651,620	100.0	106.1

(*1)は、血液浄化を含む (*2)は、非常勤医師 (*3)は、一般内科(呼吸器内科、血液内科、糖尿病)を含む

救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

(2) 入院

単位:千円

区分	令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内 科 (*1)	1,130,053	25.5	110.2	1,031,097	24.5	91.2	1,090,910	25.6	105.8
神 経 内 科 (*2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
消 化 器 内 科 (*3)	306,468	7.0	121.2	385,791	9.3	125.9	404,795	9.5	104.9
循 環 器 内 科 (*3)	483,653	11.1	94.5	330,807	8.0	68.4	343,471	8.1	103.8
小 児 科	95,046	2.2	113.8	67,542	1.6	71.1	98,470	2.3	145.8
外 科	819,533	18.7	120.5	692,063	16.7	84.4	580,242	13.6	83.8
乳 腺 外 科	-	-	-	7209.5	0.2	皆増	71,029	1.7	985.2
整 形 外 科	632,978	14.5	116.0	707,558	17.0	111.8	727,043	17.1	102.8
脳 神 経 外 科	361,271	8.3	107.3	388,603	9.4	107.6	443,767	10.4	114.2
皮 膚 科	46,604	1.1	97.1	44,338	1.1	95.1	32,265	0.8	72.8
形 成 外 科	214	0	皆増	0	0.0	-	0	0.0	-
泌 尿 器 科	192,779	4.4	69.8	253,438	6.1	131.5	213,792	5.0	84.4
産 婦 人 科	279,095	6.4	114.3	205,203	4.9	73.5	204,996	4.8	99.9
眼 科	15,290	0.3	104.4	10,793	0.3	70.6	13,961	0.3	129.3
耳 鼻 い ん こ う 科	232	0.1	89.4	19,086	0.6	8211.6	15,598	0.4	81.7
放 射 線 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神 経 科 精 神 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻 酔 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯 科 口 腔 外 科	11,572	0.3	132.9	10,980	0.3	94.9	18,504	0.4	168.5
合 計	4,374,575	100.0	108.6	4,154,507	100.0	95.0	4,258,844	100.0	102.5

(*1)は、血液浄化を含む (*2)は、非常勤医師 (*3)は、一般内科(呼吸器内科、血液内科、糖尿病)を含む
救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

(3) 外来

単位:千円

区分	令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比	金額	構成比	前年度比
内科 (*1)	860,525	39.5	104.0	830,360	39.3	96.5	931,759	38.9	112.2
神経内科 (*2)	23,046	1.1	100.7	28,487	1.3	123.6	32,012	1.3	112.4
消化器内科 (*3)	105,220	4.8	73.4	121,458	5.7	115.4	143,653	6.0	118.3
循環器内科 (*3)	157,279	7.2	99.1	131,154	6.2	83.4	141,273	5.9	107.7
小児科	76,076	3.5	100.3	58,645	2.8	77.1	111,093	4.6	189.4
外科	287,001	13.2	105.6	286,024	13.5	99.7	275,706	11.5	96.4
乳腺外科	-	-	-	5547.8	0.3	皆増	59,148	2.5	1066.2
整形外科	161,409	7.4	103.8	152,990	7.2	94.8	160,512	6.7	104.9
脳神経外科	68,288	3.1	95.8	61,635	2.9	90.3	67,243	2.8	109.1
皮膚科	60,649	2.8	94.3	55,431	2.6	91.4	54,318	2.3	98.0
形成外科	4,228	0.2	158	3,985	0.2	94.3	3,229	0.1	81.0
泌尿器科	183,151	8.4	97.5	204,731	9.7	111.8	227,666	9.5	111.2
産婦人科	38,447	1.8	93.3	36,188	1.7	94.1	36,743	1.5	101.5
眼科	25,408	1.2	94.6	21,713	1.0	85.5	22,167	0.9	102.1
耳鼻いんこう科	14,740	0.7	111.9	22,596	1.1	153.3	26,277	1.1	116.3
放射線科	28,483	1.3	114.2	25,184	1.2	88.4	28,280	1.2	112.3
神経科精神科	4,143	0.2	93.0	3,750	0.2	90.5	3,569	0.1	95.2
麻酔科	2,275	0.1	85.9	1,845	0.1	81.1	1,747	0.1	94.7
リハビリテーション科	22,634	1.0	86.8	14,277	0.7	63.1	11,129	0.5	78.0
歯科口腔外科	55,428	2.5	112.7	49,157	2.3	88.7	55,250	2.3	112.4
合計	2,178,431	100.0	100.4	2,115,158	100.0	97.1	2,392,776	100.0	113.1

(*1)は、血液浄化を含む (*2)は、非常勤医師 (*3)は、一般内科(呼吸器内科、血液内科、糖尿病)を含む
救急科の診療収入については、傷病に応じ、他科で算定

Ⅲ 固定資産状況

1 有形固定資産の取得状況（100万円以上の機器）

平成28年度

循環器撮影装置(シングルプレーン)	東芝メディカルシステムズ(株)	放射線科
循環器撮影装置(バイプレーン)	(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン	放射線科
ベッドパンウォッシャー	小川医理器(株)	本館診療棟
人工呼吸器	フクダ電子(株)	MEセンター
超音波診断装置	シーメンス	産婦人科
電動ベッド	パラマウントベッド(株)	各病棟

平成29年度

内視鏡業務支援システム	オリンパスメディカルシステムズ(株)	内視鏡室
全身麻酔装置	GEヘルスケアジャパン(株)	手術室
人工呼吸器	フクダ電子(株)	MEセンター
搬送用保育器	ドレーゲルメディカルジャパン(株)	北診療棟
電動ベッド	パラマウントベッド(株)	各病棟
遠隔病理診断支援システム	(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン	検査室
適温配膳車	パナソニックヘルスケア(株)	栄養管理室
生理検査システム	フクダ電子(株)	検査室
全身麻酔装置	フクダ電子(株)	手術室

平成30年度

密閉式自動固定包埋装置	サーモフィッシャーサイエンティフィック(株)	検査室
超音波観測装置	オリンパスメディカルシステムズ(株)	内科
母体胎児監視セントラルモニタ	アトムメディカル(株)	北診療棟
自動ジェット式洗浄装置	村中医療器(株)	手術室
電動ベッド	パラマウントベッド(株)	各病棟
超音波診断装置	キャノンメディカルシステムズ(株)	産婦人科
歯科用診療ユニット	長田電機工業(株)	歯科口腔外科
除細動器	日本光電工業(株)	MEセンター
セントラルモニタ増設	フクダ電子(株)	各病棟
セントラルモニタシステム	フクダ電子(株)	各病棟
白内障手術装置	日本アルコン(株)	手術室
高周波凝固切開装置	コヴィディエンジャパン(株)	手術室
凍結組織切片作成装置	サーモフィッシャーサイエンティフィック(株)	検査室
血管穿刺用ポータブル超音波診断装置	(株)メディコン	手術室
ICUベッド	パラマウントベッド(株)	HCU

2 主要医療機器の設置状況 (20,000千円以上の機器)

設置場所	品名	取得年月
中央手術室・中央材料室	手術顕微鏡	平成 6年 8月
	心拍変動スペクトラシステム	平成 7年 6月
本館6階病棟	患者監視システム(16人用)	平成 8年 5月
	X線骨密度測定器	平成 9年11月
	核医学診断装置 (デジタルガンマカメラシステム)	平成 9年12月
薬剤室	全自動錠剤分包機・葉袋印字機	平成11年 6月
内科外来	多チャンネル心電図解析記録装置	平成11年 7月
検査室	多項目自動血球分析装置	平成13年12月
放射線科	デジタルガンマカメラ	平成14年11月
放射線科	医用リニアアクセレータ	平成17年 3月
	位置決め用全身用X線CT装置	平成17年 3月
中央手術室・中央材料室	アルファマツケ手術台	平成17年 6月
	高圧蒸気滅菌装置 (クリーン蒸気発生器付)フロアローディングカート	平成17年 6月
	低温プラズマ滅菌システム	平成17年 6月
北診療棟5階	胎児集中監視システム	平成17年 7月
放射線科	多目的オールデジタルX線テレビ装置	平成17年 7月
HCU	患者情報統合システム外	平成17年 7月
	生体情報モニター・ベットサイドモニターシステム	平成17年 7月
	心血管用超音波診断装置	平成17年 7月
放射線科	全身用X線断層撮影装置	平成17年11月
中央手術室・中央材料室	高圧蒸気滅菌装置セミフロアローディングカート	平成17年11月
放射線科	循環器用画像保存装置	平成17年11月
本館7階病棟	無菌病室	平成18年 3月
泌尿器科	体外衝撃波結石破碎装置	平成18年 3月
検査室	採血管準備システム	平成18年 3月
心エコー室	超音波診断装置	平成18年 7月
放射線科	尿路系X線撮影システム外	平成18年 8月
検査室	生理検査・採血患者案内情報システム	平成18年 9月
高気圧酸素治療室	高気圧酸素治療装置	平成18年10月
内視鏡室	内視鏡システム	平成23年11月
放射線科	磁気共鳴断層撮影装置	平成24年 3月
放射線科	全身用X線断層撮影装置	平成24年12月
検査室	超音波画像診断装置	平成25年10月
検査室	臨床化学自動分析装置	平成25年11月
情報システム室等	医療情報システム	平成27年 3月
人工透析室	人工腎臓装置	平成27年 3月
放射線科	放射線医用画像情報システム	平成28年 2月
放射線科	循環器撮影装置(シングルプレーン)	平成28年 7月
放射線科	循環器撮影装置(ハイプレーン)	平成28年 9月
内視鏡室	内視鏡業務支援システム	平成29年 4月
検査室	遠隔病理診断支援システム	平成29年12月
検査室	生理検査システム	平成29年12月
HCU	HCUシステム	平成31年 3月

3 企業債・減価償却の状況

(1) 企業債の年度別状況

単位：千円

	発行総額	当年度償還高	償還高累計	未償還残高	企業債利息
平成24年度	9,330,400	418,245	4,038,681	5,291,719	157,910
平成25年度	9,210,400	458,245	4,367,926	4,842,474	144,392
平成26年度	9,370,300	401,705	4,616,730	4,753,570	129,915
平成27年度	9,482,100	415,858	5,032,588	4,449,512	116,345
平成28年度	9,575,200	510,799	5,543,387	4,031,813	101,708
平成29年度	7,087,200	380,493	3,309,779	3,777,421	88,178
平成30年度	7,052,400	404,935	3,522,615	3,529,785	80,556
令和元年度	7,214,800	444,282	3,966,896	3,247,904	72,669
令和2年度	7,202,600	405,596	4,050,692	3,151,908	64,525
令和3年度	7,297,000	426,468	4,365,360	2,931,640	56,512

(2) 減価償却額の年度別状況

単位：千円

	建物	構築物	器械・備品	車両	リース資産	無形固定資産	減価償却費合計
平成24年度	195,789	1,950	28,329	0			226,068
平成25年度	196,358	1,950	13,967	0			212,275
平成26年度	320,218	1,876	83,141	0	188,123		593,358
平成27年度	322,955	1,783	109,743	0	153,813	36,600	624,894
平成28年度	322,405	986	123,793	0	106,829	41,920	595,933
平成29年度	321,314	63	132,761	0	61,462	41,920	557,520
平成30年度	320,659	63	135,206	0	42,996	49,634	548,558
令和元年度	320,184	1,442	130,214	577	34,137	52,254	538,808
令和2年度	318,635	1,442	116,151	1,432	33,319	17,970	488,949
令和3年度	338,270	1,442	164,734	1,432	24,385	16,622	546,885

IV 各部署の活動状況

診療部

【活動】

- ① 新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、地域医療を死守した。
- ㉟ 新型コロナウイルスの流行に伴い発熱外来を設置し、発熱患者の診療にあたった。
- ㉟ 新型コロナウイルスワクチンの接種業務に積極的にあたり、地域ニーズに応えた。
- ㉟ 入院、外来患者数は前年並みであったが、積極的にコスト削減に取り組んだ。
- ㉟ 平成26年度に開設した地域包括ケア病棟を積極的に利用した。
- ④ 当院は救急医療を担っており、二州地区の基幹病院としての役割を果たしている。

【評価】

- ① 新型コロナウイルス関連業務に積極的に取り組み、地域医療に貢献した。
- ㉟ 積極的にコスト削減に取り組み、平成22年度から12年連続の黒字決算となった。
- ㉟ 地域包括ケア病棟は80%以上の稼働率で収益増に貢献した。
- ④ 救急医療において、地域の救急に貢献した。
- ⑤ 医師不足地域の診療所に医師を派遣し、地域医療に貢献した。

【目標】

- ① 専門医療を充実させる。(最新のガイドラインに準じ、全国水準の治療を行う。)
- ㉟ 各科全ての医師が、common diseaseに対しても、積極的に関与する。
- ㉟ 病状説明書・同意書等を充実させ、患者さんが安心できる環境を整備する。
- ④ カンファランス・チーム活動等を通じて、他科及び他職種とコミュニケーションを図る。
- ⑤ 紹介患者、救急車の積極的受け入れを行う(原則100%受入)
- ⑥ 紹介逆紹介を含め、適切な地域医療連携の推進を行う。
- ⑦ 働き方改革の推進。
- ⑧ チーム主治医制等を検討し、労働時間の適正化に取り組む。

医療安全管理室

【活動】

1. インシデント・アクシデント事例において適切な対策が立案できるために、毎月1回各部署とそれぞれ協議会を開催し要因分析の教育指導状況などを確認した。
2. PDCA を有効に回すため各部署で医療安全カンファレンスを開催し、内容を報告書の形で医療安全管理室で収集している。
3. 組織横断的な医療安全対策で他部署の事故防止にもつながった感謝・気づきのレポートの記載を推奨した。

【評価】

1. 毎月1回各部署とそれぞれ協議会を開催した結果、要因分析の実践的教育2クール目の受講者が昨年の11名から22名に増加した。
2. 医療安全カンファレンスでは、事例の情報共有の他、原因探索・対策立案・評価を行っており、対策改善や改善後の評価も行われている。
3. 組織横断的な医療安全対策で他部署の事故防止にもつながった感謝・気づきのレポートは、感謝のレポートが令和2年196枚から令和3年239枚、気づきのレポートは55枚から194枚と大幅に増加した。

【目標】

- 1.各部署でインシデント・アクシデントレポートを集積し分析を行う
- 2.報告された事例に適切な分析・対策を立案する。
要因分析受講者(2クール目・3クール目)の増員

感染制御センター**【活動】**

(目的)院内感染の発生を未然に防止するとともに、その拡大を最小限にする

(目標)院内感染対策を徹底し、職員・患者・家庭を感染から守る

- ・病院職員が感染対策の重要性を理解し、日常行動の中に感染制御の基本を身に付け、実践できる
- ・地域の医療機関や行政と共に、地域の感染制御を支援する

【活動実績】

1. ICT(感染制御チーム)活動
 - 1)ICT カンファレンス 週1回(毎火曜日) 10:30～11:30
 - 2)ICT ラウンド 週1回(毎火曜日) 14:00～15:30
 - 3) ICT メンバーおよび感染リンクナース・スタッフによる環境ラウンド週1回(部署で決定)
 - 4) 適宜ラウンド(現場介入)
 - 5) 感染防止対策加算 1 相互チェック(カンファレンスおよびラウンド等)
 - ・年2回実施:福井循環器病院
(令和3年7月2日、令和3年10月1日)
 - 6) 感染防止対策地域連携加算(カンファレンスおよびラウンド等)
 - ・年4回実施:泉ヶ丘病院(FICNet による合同カンファレンス含む)
(令和3年6月18日、令和3年9月27日、令和3年10月25日、
令和3年11月19日)

2. 研修・教育

【院内】

1) 全体研修(年2回以上):全職員対象

「新型コロナウイルス感染症に関すること」・・・

①米島學病院事業管理者、②清水和朗腎臓内科部長、③田中恵実感染管理認定看護師
「内服抗菌薬の適正使用」・・・新谷薬剤部主任

① 1回目:3回実施(不参加者はビデオ聴講とレポート提出)

令和3年6月9日～令和3年6月12日

	月日	開催時間
1	6月9日(水)	12:00～
2	6月10日(木)	12:00～
3	6月11日(金)	12:00～

*参加者・参加率 600名/603名・99.5%

*不参加者 3名(再受講要請)

*最終参加率 99.5%

② 2回目:73回実施

「標準予防策について」・・・①米島學病院事業管理者、②田邊こずえ助産師

「抗菌薬の適正使用について」・・・薬剤師 窪田いづみ

令和4年3月3日～令和4年3月8日

	月日	開催時間
1	3月3日(木)	12:00～
2	3月7日(月)	12:00～

*参加者・参加率 591名/597名・98.98%

*不参加者 6名(再受講要請)

*最終参加率 98.98%

【院外活動】

1) 地域での研修会・講習会・ラウンド・その他

6月～12月 看護協会感染管理リーダー育成研修会講師

(6回シリーズ実施)

8月 看護協会社会福祉施設感染対策チーム員研修会講師

9月 福井県理学療法士二州ブロック会感染対策研修会講師

10月 美浜町社会福祉協議会はあとぴあ 感染症合同研修会講師

若桜町社会福祉協議会五湖の里 新型コロナウイルスの基礎知識研修会講師

看護師再就職1日研修会「吸痰と採血」講師

11月 リハぴらす地域看護ステーション 冬季在宅感染予防講師

ビバリヒルズ 高齢者施設等感染対策訪問指導講師

看護協会 福祉施設感染症対策チーム研修(2回)講師

12月 高齢者施設等感染対策訪問指導 眞盛苑 講師

・看護協会 感染管理地域支援委員会(3月、4月、5月、7月、12月、3月)6回

・FICNet 世話人会参加(5月、8月、9月、11月、1月、3月) 6回

・県内 ICN 交流会: 10回参加

上記参加者: 田中恵実

2)施設ラウンド:3 施設(二州健康福祉センター職員と合同で実施)

5/27 五湖の郷・6/3 常盤荘・6/9 ぼっぼ (医療支援部 MSW 同行)田中恵実

【評価】

今年度はMRSA やCD、耐性菌の検出率の低下がみられた。更に手指消毒剤の1患者あたり1日の使用回数は昨年8回だったが、今年度は15回前後で維持が来ている。

また、地域に向けて研修会や施設ラウンドも要望件数が徐々に増加している。地域の中核病院として、感染対策の中心病院となり、嶺南地域全体が関連対策のレベルアップに向けて、二州健康福祉センターと協働した活動の取り組みも継続していく。

また、コロナ対応はある特定の人・部署だけがするものから通常の体制に戻していく。次年度の課題は、通常診療で取り組む体制づくりを強化していくことが必要。

【目標】

- 1) 院内感染・アウトブレイクを起こさないため、平常時からの標準予防策が実践できるよう院内感染対策の教育・指導を徹底する。
- 2) 手指衛生の遵守率、手指消毒剤の使用回数UPにむけた取り組みを継続する。
- 3) 院内の感染対策に関する職員の意識・知識の向上のために、現場実践に即した指導・教育の継続を図る。
- 4) 標準予防策及び経路別予防策を理解し現場の実践モデルとなれるようスタッフを育成する。
- 5) 行政や嶺南地域の医療機関との連携を行い、地域の感染対策に関する知識・技術が向上できる活動を支援する。
- 6) 院内職員全員で新型コロナウイルス感染対策に取り組む体制づくりのさらなる強化

人材確保育成室

【活動】

(人材確保)

医師・看護師等医療従事者の確保対策

- ・医師確保のため、県や関係大学への交渉を継続。
- ・看護師及び薬剤師等を確保するため、学校訪問等を実施。

(人材育成)

目標管理制度(人事考課)の推進。

- ・目標管理制度(人事考課)について、WEB会議での外部講師による集団研修を実施。新規採用職員及びリーダー級研修の企画
- ・令和2年度から引き続き新規採用職員研修を実施。
- ・主任・係長級向けの研修会を実施。

【評価】

目標管理制度(人事考課)については、制度実施により所属での人材育成及び業務改善につなげることができた。また、各職員全体での新規採用職員研修の企画により、入職時から病院職員としての一体感の醸成を図ることができた。新たに看護師長向けの問題解決研修会を実施し、論理的に考えることなど問題解決能力の向上に寄与することができた。

【目標】

- ① 医療従事者の確保
 - ・看護師・薬剤師等の採用困難職種について学校訪問等により情報発信を継続する。
- ② 目標管理制度(人事考課)の推進
 - ・外部講師と連携しながら、円滑な制度運用を図る。
- ③ 医療職等の実習体制の整備
 - ・各部署及び職種における受入体制の整備を図る。
- ④ 教育研修体制の整備
 - ・部署間での人材育成にかかる情報交換や業務改善にかかる研修を実施。

地域医療連携室

【活動】

1.安全・安心で質の高い医療の提供

- ①感染対策に対する意識をもち、各自がスタンダードプリコーションを遵守する
- ②QC レポートの記載を行い、問題点を具体化し業務改善につなげる

2.人材のさらなる育成及び活用

- ①チームミーティングの実施を定期化する

3.つながりのある地域医療の推進

①地域(医療介護福祉従事者)に向けた勉強会の内容と開催方法の検討

②外部医療機関への訪問

4.効率的運用

①マニュアル・業務手順の整備

【評価】

1.安全・安心で質の高い医療の提供

・チェックリストに基づく感染防止について 90%以上に到達しており、スタッフ間でも黙食を遵守することができた。

・QCレポート提出 133 件(2 月末時点)昨年度より 90%増加

対策内訳 情報共有 61 件 ルール確認 47 件

マニュアル作成・変更 20 件 検討中 5 件

対策が必要なもの 25 件中、20 件(80%)を業務改善につなげた。

2.人材のさらなる育成及び活用

・チームミーティング 6 回開催。

問題発生時の周知・意見の集約についてはその都度、実施。ミーティングに対しスタッフが積極的に臨める意味づけが十分にできず、定例化につながらなかった。

3.つながりのある地域医療の推進

・地域開放学習会 10 回実施(内 1 回 ZOOM 開催)

受講生に興味を持ってもらえる、テーマや内容になるよう、講師との打ち合わせも丁寧に行うことができた。最終回は WEB 開催を行い、今後の開催の一手段として活用できることがわかった。

・コロナ禍の合間の年末年始において 22 医療機関訪問。

4.効率的運用

・業務の関連図・フロー・チェックリスト 20 個作成

・業務の引継ぎにおいて、曖昧な部分をフローやチェックリストに落とし込んでいくことで、可視化することができた。

【目標】

1. 質の高い医療支援の提供

- ①感染制御を推進しながら業務の見直しを行う(アフターコロナに向けて)
- ②自院の役割(急性期医療～回復期医療)を踏まえ、全ての顧客(患者・家族、院内外関係者)に納得してもらえる医療支援の提供

2. 人材の確保、育成及び活用

- ①働き方改革を推進しながら患者満足度と職員満足度の向上を目指す
- ②スキルアップ体制を確立する(カンファランス参加等を通じチーム医療を推進する。各種研修会の参加及び企画開催などを行う)

3. 地域医療の推進

- ①地域の医療介護福祉施設との連携を深め、地域が求める、患者中心の医療支援を行う
- ②各種研修会の参加及び企画開催などを行い、地域(市民)とのつながりを意識し、開かれた病院を目指す

4. 効率的運用

- ①タスクシェア、タスクシフティングまた ICT 活用などにより、業務内容の見直し、効率化を促進
- ②求められる業務を実践しながら、費用対効果を考慮し(算定可能業務の見直し等)健全な病院経営に貢献する

患者相談室・がん相談支援センター

【活動】

1. 安全・安心で質の高い医療の提供

①相談業務

- ・相談対応における感染対策を継続
- ・顧客(患者・院内・院外関係者)に満足してもらえる医療支援の提供および体制の見直し

②がん相談支援センター開設

- ・地域に求められる緩和ケア・支援体制の構築

③その他支援

- ・支援活動の可視化・標準化、CS 部会・緩和事務局業務

2. 人材のさらなる育成及び活用

①教育・研修体制の確立、地域に求められる人材育成、スキルアップの体制確立

②ボランティア活動支援

3. つながりのある地域医療の推進

①院内の患者サポート体制における仕組み作り

②相談を通じた地域との連携・協働

4. 効率的運用

①患者相談室業務の可視化・標準化

②算定可能業務の見直し、業務整理、時間外業務の削減

【評価】

1. 安全・安心で質の高い医療(支援・相談)の提供

・4/1～3/31 までの相談対応件数は 395 件。苦情に対する回答依頼方法を見直し周知した結果、事実確認実施率 56 件/56 件(100%)、1 か月後評価までの実施率は 56 件(100%)と依頼部署からの回答がスムーズになり依頼回答率が向上した。

・顧客満足の評価については、395 件中 100 件(25%:前年度 12%)感謝の言葉や態度表出を受けている。

・相談の多い内容については支援部メッセージボードでの情報発信、情報提供に繋げた。

・患者サポート相談会議を 51 回開催。苦情対応報告の他に、気掛かり事例や継続対応事例、ご意見箱の報告をおこなった。資料や事例を提示し、タイムリーに情報共有を行った。

2. 人材のさらなる育成及び活用

・支援部教育ラダー・マネジメントラダー作成。各種研修会・学会参加、研修会の企画開催。

・4～5 月がん相談員研修 1.2 受講、7 月がん相談員研修 3 を受講し資格取得。

・がん相談支援センターを9月設置し以後 11 名のがん相談対応を行った。

・6 月～緩和ケア外来を開設し 18 名(累計)の対応を行った。

「コロナ禍における CS 部会活動」について第 59 回全国自治体病院学会で発表。

・ボランティア交流会開催、ボランティア活動運営方針・運用マニュアル作成し周知。

3. つながりのある地域医療の推進

・患者サポート担当者会 4 回/年 開催し、院内連携の仕組みを構築した。

・対応困難事例に関しては、地域ケア会議を開催し地域の関連機関と協働した。

4. 効率的運用

・患者サポートマニュアル、虐待マニュアルを修正し電子カルテに掲載できた。

・相談室業務、対応進捗状況を可視化・標準化し、院内・部内で共有した。

・患者サポート体制充実加算に係る体制見直し

【目標】

1. 安全・安心で質の高い医療の提供

①感染制御を推進しながら、相談業務、その他支援活動を継続する

②顧客(患者・院内外関係者)に納得してもらえる相談、その他支援の提供を継続する

2. 人材の確保・育成及び活用

①働き方(働きがい)改革の推進

ES 部会と協力し、患者・職員満足度向上に向けたCS 部会活動を継続する

②がん専門相談員・医療対話推進者(施設基準)等資格の取得・更進、院内資格取得者を活用した研修・勉強会の開催

3. 地域医療の推進

① 地域の医療介護福祉施設・行政との連携、相談できる関係づくり

②患者サポート担当者会のブラッシュアップに取り組み、院内連携の仕組みを作る

4. 効率的運用

①電子カルテ更新・病院機能評価受審に向けた準備

②算定可能業務の見直し

③患者相談室業務の可視化・標準化、業務整理、時間外業務の削減

入退院支援室

【活動】

①質の高い医療の提供:QC レポートの活用、業務の質を可視化、感染対策の継続

②人材の育成と活用:在学生の取り組みに参加、有給休暇の自己管理、研修会・学会参加

③ 地域医療の推進:地域の病院訪問、退院支援早期介入、広報誌発行

④効率的運用:入退院支援加算算定数維持、介護支援連携指導料算定数確保、退院カンファレンスの効率化と質向上、多職種との協働

【評価】

・退院支援介入人数は年間 1699 名、入退院支援加算 1 算定数は年間 389 件であった。

・退院前カンファレンスの開催数は、一般病棟 166 件、地域包括ケア病棟で 300 件で、介護支援等連携指導料は 362 件、退院時共同指導料 2 は 16 件の算定を行った。

・MSWのミーティングを定期的を開催し、退院困難な患者について情報共有した。

・退院支援困難患者を確認・分析を行いやすくするために退院支援チェックシートの見直しを行い、困難度合いを色分けして可視化した上で、地域医療連携委員会・病棟管理委員会で報告、共有をはじめた。

・退院前カンファレンスの質向上に向けて、院内多職種にてミーティングを行っている。

・カンファレンスの際に、リハビリ職・管理栄養士が各自作成した患者情報を資料配布し、患者家族・院外参加者に対してより詳しく情報提供できるよう、カンファレンス方法を見直した。

・広報誌『きらめき』にて、医療支援部の特集を掲載頂いた。

・入院案内・入院支援係では、毎月ミーティングを開催し、安心・安全に入院できるよう質の向上に努めた。また、入院時支援患者以外にも入院時支援ナースから MSW に情報提供し退院支援の早期介入につなげた。

・患者サービスの一環としてのオンライン面会では面会者の窓口となり、年度末までに 318 件、月平均 26.5 件に対応した。

【目標】

1.安全・安心で質の高い医療の提供

- ①QC レポートを必要時に記載し前年度より 20%アップを目指す、問題解決率 80%目標
- ②確実に感染対策を継続する
- ③ ICT 活用に向けた取り組みを行う

2.人材の確保、育成及び活用

- ①有給休暇取得の自己管理
- ②研修会・学会参加
- ③院内連携強化に向けて、院内スタッフへの勉強会を開催

3.地域医療の推進

- ①地域の主要施設及び病院を訪問する(アウトリーチ)
- ②入退院支援加算の算定数維持
- ③介護支援連携指導料の算定数(一般病棟)の維持
- ④入院前支援の仕組みを作り、実践する
- ⑤入院案内業務の標準化
- ⑥外来患者からの相談体制の仕組みを作る

4.効率的運用

- ①退院カンファレンスの効率化と質向上のための取り組み
- ②業務内容の見直しを行い、タスクシェア・タスクシフティングを推進
- ③電子カルテ更新に向け、業務マニュアル・手順書などの整理・作成

医療技術部

【活動】

- ①『医療技術部各室との情報共有と協力』を推進し、医療技術部の目標である『他部署の業務負担を軽減し、病院全体の効率化に協力する』ことを目標とする。
- ②医療技術部で協力しつつ、発熱トリアージ、コロナワクチン接種統括等の共通した業務に取り組む。
- ③薬剤部・医療技術部主任会の活動として、感染対策に配慮しつつ多職種共同による院内研修等を開催する。

【評価】

- ①医療技術部の情報共有と協力のため代表者会議を定期的で開催した(10回/年)、各室での取り組みを共有し改善につなげた。
- ②業務の都合で発熱トリアージやワクチン接種統括業務が困難な部署があれば医療技術部内で補い合って実施できた。今後も協力体制を強めていきたい。
- ③薬剤部・医療技術部主任会活動として、感染対策に配慮しつつ薬剤部・医療技術部主催ベーシックレクチャーの開催できた。新人研修会は感染状況が悪化したため開催困難となったため新人紹介を紙面で回覧した。

【目標】

- ①『医療技術部各室との情報共有と協力』を推進するため、日々の状況を共有する。
- ②医療技術部で協力しつつ、発熱トリアージ、コロナワクチン接種統括等の共通した業務に取り組む。
- ③医療技術部各室で可能なタスクシフトを検討し、他部門とともに業務の効率化に取り組む。

検査室

【活動】

病院理念、病院目標を基本とし「安全・安心で質の高い医療の提供」、「人材のさらなる育成及び活用」、「つながりのある地域医療の推進」、「効率的運用」を主眼とした検査室部門目標に基づき取り組みを行った。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う業務増加に対し、検査室内のタスク見直しを行い対応した。

1) 安心・安全で質の高い医療の提供

- ①感染制御を踏まえた業務の標準化、エアシューターの運用変更、検査室内のゾーニングの見直しなどを行った

- ②インシデントレポートやミーティングなど情報共有の仕組みを活かした業務改善を推進し、併せてその記録の充実に取り組んだ
 - ③これまで行ってきたタスクシフト業務の取り組み継続により、他職種支援を行った
- 2) 人材のさらなる育成及び活用
- ①検査室全体で目標管理制度を通じた人材育成に取り組み、個人目標達成に向けた支援を上席だけでなくスタッフ間でも行った
 - ②経験年数に応じたスキル表を基に、院内及び検査室内での立ち位置と役割を明確にした
 - ③職員の退職に向けて業務分掌の見直しと、新しい業務の役割を明確にし、さらに新入職員に向けた教育プログラムの見直しを行った
- 3) つながりのある地域医療の推進
- ①新型コロナウイルス感染症関連業務を他職種及び他部署と連携し対応した
 - ②検査システムや検査機器の更新に伴う運用変更、業務改善に伴う運用変更について、他部署と情報共有を継続して行った
- 4) 効率的運用
- ①検査機器の変更に伴い、ヒトや検体の動線の見直しを提案及び実践した
 - ②生化学分析装置、免疫検査装置、血液検査装置、凝固検査装置の更新に伴い、検査の質を担保した上でコスト削減の提案ができた
 - ③看護部支援の一環として、中央採血室における看護師負担を継続した

【評価】
 上記の活動を通じて、当初の目標は概ね達成するとともに、医療の質、検査室機能および患者サービスの向上につながったと考える。さらに新型コロナウイルス感染症対応として検査室の機能及び業務拡大を図り、特に遺伝子検査の夜間休日対応など臨床検査技師に求められる業務の遂行に注力した。

【目標】
 継続性を重視し、病院理念、病院目標を基本とした「安心・安全で質の高い医療の提供」「人材のさらなる育成及び活用」「つながりのある地域医療の推進」「効率的運用」を主眼とし、新型コロナウイルス感染症対応を含め下記のとおり検査室部門目標の設定と取り組みを行う。

1) 安心・安全で質の高い医療の提供

- ①継続した感染制御と検査室業務の標準化推進 ～遵守するための仕組みづくり～
- ②情報共有の仕組みを活かした業務改善の推進とその記録の充実 ～報連相と記録の充実～
- ③質の高い医療提供に向けた他職種支援 ～相手目線で考える～

2) 人材のさらなる育成及び活用

- ①検査室全体で取り組む目標管理制度と、個人目標達成に向けた支援 ～上司から同僚から～
- ②教育プログラムの見直しと、経験年数に応じた教育プログラムの運用 ～立ち位置と役割～
- ③業務改善の継続と検査室内業務連携 ～組織の進化とすき間業務～

3) つながりのある地域医療の推進

- ①他職種、他部門間のつながりを広げ、業務の連携を進める ～どこの誰と何を～
- ②検査室の特性を活かした、他部門との連携 ～検査担当者から検査責任者へ～
- ③院内外の連携深化にむけて、報連相の実践強化 ～情報の流れ 個人から検査室へ～

4) 効率的運用

- ①既存検査項目および検査機器の有効活用 ～今あるヒト・モノでナニが出来る～
- ②検査の質に重点を置いた上での収入増、コスト削減の提案 ～検査技師ならではの視点～
- ③業務改善の継続と検査室内業務連携 ～組織の進化とすき間業務～

放射線室

【活動】

1、安全・安心で質の高い医療の提供

- 1-① 放射線管理の強化と院内教育の充実
- 1-② 医療機器の有効利用と整備
- 1-③ 画像診断技術の更なる向上
- 1-④ 感染対策を考慮した、救急医療体制の運用と整備を考える

2、人材のさらなる育成及び活用

- 2-① ワクチン接種や感染対策への取り組みを強化し、他部門との協働を考える
- 2-② 深い専門性と豊かな人間性を育むために、教育体制と人材育成を強化する
- 2-③ 各部門のコミュニケーションや情報共有を強化する
- 2-④ 放射線学および放射線学の枠を超えた研究や学会発表を推進し学問のレベルを高める

3、つながりのある地域医療の推進

- 3-① 広報活動を強化し、院内院外へつながりを広げ医療提携の拡大を目指す
- 3-② 院外医療施設への積極的なPRと正確な情報提供
- 3-③ 共同利用率の向上

4、効率的運用

- 4-① 業務内容を見直し、効率のよい働き方と病院全体の効率化に協力する

- 4-② 検査予約枠の設定の再考で、ムダのない効率的な時間づくりと人員配置をはかる
- 4-③ 働き方改革を推進し勤務の平均化をはかる
- 4-④ 使用物品の見直しや節約等の経費削減に対する意識改革
- 4-⑤ 診療報酬の改定に沿って収入の増加を考える

【評価】

- 1、令和3年4月からはじまる改正電離放射線障害防止規則に沿って管理をした
- 2、医療機器の整備について、X線テレビ装置・超音波装置・一般撮影フラットパネルを導入した。
- 3、医療安全の強化においてスタッフ間の情報共有により医療事故防止に取り組めた
- 4、院外のCTやMRIなどの予約情報について丁寧な情報発信に心掛けた
- 5、院内ワクチン接種の協力とコロナ患者の入院、メディカルチェックの業務に全スタッフで取り組んだ
- 6、検査数増加に取り組んだことで、ほとんどすべての部門で件数増加となった
- 7、医療被ばく低減施設認定の取り組みで院内研修会を開催した

【目標】

- 1、安全・安心で質の高い医療の提供
 - 1-① アフターコロナも見据えた感染制御のさらなる推進
 - 1-② 機器の有効利用による急性期・回復期医療への貢献
 - 1-③ 医療安全への積極的な取り組み
 - 1-④ 被ばく低減施設認定取得に向けた取り組み
 - 1-⑤ 認定の保持・取得に関わる取り組み
 - 1-⑥ 画像診断技術の向上
- 2、人材のさらなる育成及び活用
 - 2-① 患者・職員満足度向上への取り組み
 - 2-② チーム医療を意識した取り組み
 - 2-③ 各種学会への参加・発表の推進
 - 2-④ 医療接遇の強化
 - 2-⑤ 室内の人材育成の推進
- 3、地域医療の推進
 - 3-① 科外への情報発信・PR活動
 - 3-② 地域住民が求める医療の提供
- 4、効率的運用
 - 4-① 時間の効率的な運用
 - 4-② タスクシフトを見据えた業務改革
 - 4-③ 病院経営を意識した取り組み

リハビリテーション室

【活動】

- ①カンファレンス参加時にリハビリテーションサマリーを持参したり、動画での説明など分かりやすい伝達に努め地域との連携を強化した(サマリー件数 283 件/年、前年度 184 件)
- ②チーム編成ビジョンにのっとりチーム間の異動を行なった。
- ③インシデント発生時にカンファレンスを行い定期的な評価をし、分析結果を回覧し周知することで安全意識を高めた。
- ④病棟回診、認知症ケアラウンド、緩和ケアチーム会、多職種カンファレンスなどに積極的に参加した。
- ⑤浴室ユニット(入浴動作シミュレーター)を活用し、退院支援を行った。
- ⑥嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査、心肺運動負荷試験の必要性を検討し、医師に積極的に提案した。
- ⑦リハビリテーション室備品配置の変更、各リハビリテーション室最大収容人数の設定、手指消毒など感染対策に取り組んだ。
- ⑧理学・作業療法士のキャリアデザインに基づき、中堅職員(経験 10 年以上)による指導を行った。
- ⑨職員各個人の目標を一覧表にしてスタッフルームに掲示し可視化することで、目標達成支援に取り組んだ。
- ⑩業務連携のためのマニュアル作成に臨んだ。
- ⑪新たな資格取得として循環器認定理学療法士 2 名、脳卒中認定理学療法士 1 名、認知症ケア専門士 1 名、ケアマネージャー 1 名が増えたので、より専門的な知識の向上を目指した。
- ⑫カンファレンスで活用できるよう、複数あるリハビリテーションサマリーの用途を明確にした。
- ⑬リハビリテーション実習生に対し、臨床実習指導者ができる理学療法士を育成した。

【評価】

- ①カンファレンスに参加した在宅スタッフから内容がわかりやすくなったとの評価を得た。
- ②チーム間の異動を行なうことで、多種多様な疾患に対応し適切なリハビリテーションを提供できる人材を育成できた。
- ③リハビリテーション室でのインシデント内容を分析して対応を検討し、職員に周知することで安全・安心なリハビリテーションにつながった。
- ④病棟回診、認知症ケアラウンド、緩和ケアチーム会、多職種カンファレンスなどに積極的に参加することで多職種間の連携を強化できた。
- ⑤浴室ユニット(入浴動作シミュレーター)を活用し、自宅退院へ向けた実際場面での ADL 評

価・練習を行うことで自信を深めて退院される患者が増えた。

⑥必要性の高い患者では嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査、心肺運動負荷試験を医師に積極的に提案することで、より安全で適切なリハビリテーションにつながられた。

⑦備品や電子カルテ端末の再配置、手指消毒液使用量増加、環境整備、マニュアル作成など感染予防策をより強化できた。

⑧理学・作業療法士の中堅職員による若手職員への指導体制が構築できた。

⑨職員各個人の目標を一覧表にしてスタッフルームに掲示し、色別付箋で進捗状況を示すことで可視化でき、全員でその達成を支援する体制が構築できた。

⑩業務連携のためのマニュアル（外来心臓リハビリテーションマニュアル等）を作成できた。

⑪認定理学療法士 3 名、認知症ケア専門士 1 名、ケアマネージャー 1 名が増え、より専門的な知識の向上につながった。

⑫複数あるリハビリテーションサマリーの用途を整理することで、何を伝えるためのものかを明確にできた。カンファレンス参加時にリハビリテーションサマリーをほぼ必ず持参し、紙面、口頭の両方で説明した。しっかり話し合いが終わるまでカンファレンスに参加できた。

⑬都道府県臨床実習指導者講習会に理学療法士 2 名が参加し、指導資格を取得した。

【目標】

①リハ室で可能なタスクシフトを検討し、他部門とともに業務の効率化に取り組む。

②感染状況に応じた適切な人員配置を行い、安全・安心なリハビリテーション提供を行う。

③心臓リハビリテーション指導士の資格取得支援を行う。

④都道府県臨床実習指導者講習会へ積極的に参加し、指導資格取得者をさらに増やす。

⑤言語聴覚士増員により小児言語聴覚療法の予約枠拡大ならびに、患者の安全な食事摂取を支援する。

⑥小児患者のリハビリテーション前診察をリハビリテーション科で行い、患者の利便性を図る。

⑦学会発表支援を行い、開催状況に応じた発表を行う。

⑧がんリハビリテーション指定研修に参加し、がんリハビリテーションの充実を図る

⑨リハビリテーション室内にて職員研修部を設立し、接遇向上、腰痛対策を図る。

⑩新しい電子カルテ導入に際し、リハカルテ、書類、地域包括ケア病棟のリハ単位管理など効率よく業務できるようなシステムにする。

⑪がん診療連携拠点病院事業に広報などの活動に積極的に協力する。

⑫認知症ラウンドに参加し、認知症ケア専門士を中心に認知症への理解を深める。

⑬目標設定等支援・管理料の算定件数を増やし、地域との連携を深める（目標件数 80 件／年、前年度 76 件）。

⑭専門・認定療法士が増え、それぞれの専門分野についての研修会を実施し、リハビリテーション室全体のレベルアップを図る。

臨床工学技術室

【活動】

- ①透析センターにおける業務を円滑に実施した。
- ②病棟透析・急性血液浄化・PCPS等の業務における対応を円滑に実施した。
- ③稼働中の人工呼吸器の動作中点検を、毎日実施した。
- ④稼働中の閉鎖式保育器の動作中点検を、毎日実施した。
- ⑤中央管理化しているME機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器・経腸栄養ポンプ・電動式低圧吸引機）の管理を安定して行った。
- ⑥除細動器及びAEDの日常点検を行い、管理を強化した。
- ⑦手術室に技士を派遣し、当日使用する麻酔器・電気メス・腹腔鏡等の点検を行った。
- ⑧⑦に加え手術室業務として、術中回収式自己血輸血（セルセーバー）を円滑に実施した。
- ⑨透析液水質確保加算に対応した透析液の管理を実施した。
- ⑩看護師を対象に人工呼吸器・輸液ポンプ・除細動器・生体情報モニター等の勉強会を実施した。
- ⑪ペースメーカー外来に参加しペースメーカーのチェック業務を行った。
- ⑫ペースメーカーの遠隔モニタリング業務を円滑に実施した。
- ⑬ペースメーカー植え込み手術の立ち合いを実施した。
- ⑭ペースメーカー植え込み患者のMRI及び内視鏡検査前後でペースメーカーチェックを実施した。
- ⑮その他院内にある様々な医療機器の修理やトラブル対応を行った。

【評価】

- ① 上記活動を通じて、当該年度の目標はほぼ達成できた。今後も安全で効率的なME機器の運用に向け努力していきたい。
- ② ペースメーカーに関する業務はかなり充実できたが、一方で手術室業務に関する新たな人材の育成が進んでいないため、今後の課題としていきたい。

【目標】

- ① 令和3年度の活動の継続と強化を図る。
- ② 手術室業務をさらに充実させるため、引続き人材の育成を行っていきたい。
- ③ 臨床工学技術室の業務マニュアルを作成したい。

栄養管理室

【活動】

質の高い医療の提供

- ・毎月調理室ラウンドを実施し衛生管理を徹底することで、安心して安全な食事を提供した。
- ・毎月医療安全カンファレンスを実施し、インシデント・アクシデントの再発防止に努めた。

人材のさらなる育成及び活用

- ・プリセプター制度の導入、栄養管理業務マニュアルを活用し、新規入職者への業務教育を行った。

つながりのある地域医療の推進

- ・積極的にチーム医療（NST 等）、退院前カンファレンスへ参画した。

効率的運用

- ・給食管理マニュアルの見直し、新規作成を行い業務の効率化を図った。
- ・個々に応じた食事内容を提案し、適切な栄養管理、栄養指導を実施した。

入院栄養食事指導料:1148 件/年

外来栄養食事指導料:249 件/年

【評価】

- ・昨年度に引き続き、調理室ラウンドを実施し、衛生管理の維持に努めることができた。
- ・チーム医療、退院前カンファレンスに参画し、専門性を発揮することができた。
- ・給食管理マニュアルの見直し、新規作成を行い業務の効率化を図った。

【目標】

- ・感染対策、衛生管理、リスク管理の徹底し、安心して安全な食事を提供する
- ・教育プログラムを整備し、人材育成の強化に努める
- ・チーム医療、カンファレンスへの積極的な参画する
- ・個々に応じた食事内容の提案による、適切な栄養管理を実施する

歯科衛生室

【活動】

安心安全で質の高い医療の提供

・コロナ禍に対応した感染予防対策の徹底、環境の改善、環境整備を行うことにより、より安心安全な歯科診療を提供することができた。

つながりある医療の推進

・口腔ケアラウンドに介入する際、患者さんの情報共有の仕組み作り

・退院、転院される患者さんへの情報提供をしやすい仕組み作り

効率的運用

・外科器具の滅菌の期限切れを調査し少なくすることで無駄の削減

・口腔ケアに使用する消耗品の持ち出しを削減する為、口腔ケアオプション加入率を上げる。

・歯科材料の注文システムを構築し、注文頻度を把握することより、効率化を図った。

【評価】

・コロナ禍での歯科診療の対応については、試行錯誤しながら行うことができた。

・口腔ケアラウンドに介入される患者さんへの情報共有や情報提供については、仕組みができ、今後活用することで定着していきたい。

・外科器具の期限切れについては、10%削減できた

・口腔ケアオプションは月平均 77%の人が加入することができ、今後、さらに加入率を上げるよう働きかけていく。

・歯科材料 100 種類以上の注文サイクルが、明らかになり、やりやすくなった。

【目標】

1) 安心安全で質の高い医療の提供

・感染対策として、スタッフの正しい手指消毒、正しい手洗いの実践と患者への手指消毒の促しを工夫する

2) 人材のさらなる育成及び活用

・インシデント、ヒヤリハットを共有し、共に知識、技術の向上を目指す

・習得した知識や情報を室内で共有できるようにする

3) つながりある地域医療の推進

・NST ラウンドへ参加し、口腔領域の改善に繋げる

・他院への紹介患者の紹介状の内容を充実したものにする

4) 効率的運用

・効率的な業務を遂行するため、他部署と協力し助け合う

・効率的な働き方ができるような仕組みを作り、各自が担当する業務改善を 2 項目以上行う

薬剤部

【活動】

①新型コロナ感染症への対応

消毒薬の確保、コロナ治療薬の供給と情報提供、ワクチンの管理、情報提供、調製業務等に対応した。

②調剤関連業務

調剤関連事故防止のため、アシスタントとも協力してIT 機器を用いた安全管理体制を継続して行った。

また、日々の業務の中で、適正使用を推進した。とくに腎機能のチェックおよびハイリクス薬のモニタリングは継続して行った。

③薬剤管理指導業務

入院中だけでなく退院後の患者さんの療養も考えた指導や、薬剤連携シート等を活用し院外施設との情報連携の強化に取り組んだ。

④医薬品情報管理業務

院内の各部署に対し医薬品適正使用のためのタイムリーな情報提供を行った。採用医薬品の整理と見直しを医師の協力と理解を得ながら積極的に行った。

相次ぐ後発医薬品の回収等の事態に際し、情報収集を積極的に行い、医薬品の安定供給に努めた。

⑤医療安全対策業務

業務改善の推進；薬剤部QCレポート用紙の評価を行い業務改善につなげた。

⑥医薬品管理業務

SPDによる在庫管理が定着し、相次ぐ後発品の出荷調整に対し、SPDと協力して卸やメーカーとも交渉し、医薬品の不足を最小限に抑えた。

⑦各種委員会関係

積極的参加；各種委員会へ積極的に参加し薬学的観点から提案した。

感染対策チームでは、AST 活動を積極的に実施し抗菌薬使用の適正化につなげた。

【評価】

前年度からの後発医薬品企業の不祥事等により医薬品の安定供給が大きく揺るぎ、日常の多くの時間を医薬品確保や代替薬の選定、院内外の調整等に費やすこととなった。新型コロナウイルスの流行も収束せず、コロナ関連の業務は継続して実施した。人員体制は、新人3名が入職し、派遣薬剤師も導入したが厳しい状況が続いた。その中で、部内での情報共有、若手の育成にも重点を置き、薬剤部の業務の質の担保に努めた。

昨年に引き続き、調剤薬局との情報連携を積極的に行うとともに、退院カンファレンスへの参加も増やし、地域との連携強化に取り組んだ。

【目標】

① 安全・安心で質の高い医療の提供

薬剤師の専門性を発揮し、安全安心な質の高い薬物治療を提供する。

医薬品の安全使用と適正な管理を推進する。

② 人材確保・育成および活用

個々の能力を尊重し、良好なコミュニケーションが行われる職場環境を推進する。クリニカルラダーと教育研修を確立し、各人のスキルアップとモチベーションの向上につなげる。

③ 地域医療の推進

地域の医療機関と積極的に連携を行い、患者中心の医療を実践する。

地域薬局との業務交流や研修を深め、地域全体で薬の適正使用を推進する。

④ 効率的運用

業務内容の見直し、タスクシェアの拡大、ICT の活用によりルーチン業務の効率化とレベルアップにつなげる。

看護部

【活動】

- 1 地域の皆様に、安心・安全な看護を提供します
- 2 生き活きと働き続けられる職場を目指します
- 3 多職種と連携・協働し、看護の力を最大限に発揮します

【評価】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、各目標の達成というよりは、感染症病棟や一般病棟への勤務者の調整、PCR検査対応、発熱外来等の対応などが中心となり、委員会活動においては年間 4 回から 6 回の開催がほとんどであった。その中でも、教育や働き方改革など業務改善等も行いながら看護の質向上に向けた取り組みを行った。

1. 働き方改革委員会を主に花丸（定時で帰る）企画を実践したが、帰ることができない部署と帰ることができない部署に分かれてしまう現状があったため、次年度は応援体制等も含めた体制を整備する必要がある。
2. 教育委員会では各ステップの研修やe ラーニング等を主に行った。学研サポートナーシングに変更して、教育委員会としての働きかけや、データ分析が少なかったため、次年度は必須研修を 100%受講できるよう働きかけていく。
3. 記録委員会は監査の実施報告をもっとアピールして確実な実施の継続を行っていく必要がある。電子カルテのテンプレート入力が入院時に一体化したことは実施入

力の時間短縮になった。精度や時間能率を次年度分析する必要がある。

4. 業務委員会はPNSグループと看護補助者担当に分かれて活動を行った。特殊部 署のPNSに向けた導入の取り組みを今後検討していく。看護補助者のラ打^について検討、次年度ラダーを取り掛かる方向。
5. 褥瘡委員会は、体圧測定に関する意識を持って雨量に声掛けを継続し、体圧測定時の体位に応じた体圧測定部位を理解して測定できるように働きかける。クッション の数は足りていない現状であり、次年度予算計上していく。テンプレートの記載漏れの確認を今後の継続し定着できるようにする。

【目標】

- 1 看護職の倫理綱領に基づいた、安心・安全・安楽な質の高い看護の提供
- 2 生き生きと働き続けられる職場づくり、職員が働きたいと思える職場づくりの
実践
- 3 多職種と連携・協働し、継続した看護を提供
- 4 看護業務の明確化とタスクシフト・タスクシェアの実施

総務企画課

【活動】

①中期経営計画の推進

- ・経常収支比率100以上を継続でき、黒字経営を継続できた。

②医療器械の効果的配置

- ・必要性や優先度を基準に医療機器機種選定委員会で審議し、補助金の活用を図った結果、当院の診療規模に応じた適切なスペック、数量の医療器械を導入できた(X線撮影装置、生化学・免疫検査分析装置 他)。

③施設設備の計画的補修と円滑な管理

- ・補修、改修の際は、将来の修理、改修の際まで見越して可能な限り汎用品等で対応し、適切な定期点検、日々点検により、不具合の早期発見に努め、経費を節減できた。

【評価】

経営の健全性を示す経常収支比率は、新型コロナウイルス感染症対策事業に関する補助金などの収益の増により、経常収支比率100以上を継続でき、医業収支比率についても、医業収益の回復により改善でき、また、修学資金制度等により、引き続き看護師及び薬剤師の確保に努めた結果、経営改善と安定した医療サービスの提供に努めることができた。

【目標】

①中期経営計画の推進

- ・新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、経営悪化が懸念されるが、健全な病院経営を目指す。

- ・経費削減

②医療器械の効果的配置

- ・機種選定委員会などを開催し、必要性や優先度を基準に予算の範囲内及び各種補助金を活用し新設及び更新を行う。

③施設設備の計画的補修と円滑な管理

- ・経年劣化で修繕が必要な個所を洗い出し、計画的な修繕を行う。

医療サービス課

【活動】

- ① 情報システムの適切な整備・運用
 - ・電子カルテ更新(システム入替え)に対する対応
- ② 2022年診療報酬改定への対応
 - ・施設基準に従った算定及び点数算定取得への取り組み
- ③ 未収金削減に向けた取り組み
 - ・委託弁護士法人へのプロポーザルの実施と未収金削減
- ④ 新型コロナウイルスに関する適正事務
 - ・新型コロナウイルス関連における未収金の防止、適切な公費請求の実施

【評価】

電子カルテ更新(システム入替え)に関してはベンダーとの共同作業を進めるなか、様々の問題解決と運用にあたり協議した。院内各部署においては、電子カルテ更新に対する経験が少ない中、これまでのシステムの問題や効率化に向けて取組んだ。

2022年診療報酬改定においては過去最高となるDPC係数を獲得した。しかしながらコロナ禍の中、地域包括ケア病棟の評価のあり方や必要数値などの診療報酬改定に苦慮する場面も見られたため、アフターコロナにおける病院経営とともに課題がある。

未収金回収に関しては委託弁護士法人との連携により、着実に成果をあげていると市監査からの評価を得た。

コロナ対応に関しては、発熱外来、ワクチン接種、オンライン面会、公費請求と限られた職員数のなかで、課全体の業務として協力をしながら行ってきた。

【目標】

- ① 2024年診療報酬改定への対応
 - ・施設基準に従った算定及び点数算定取得への取り組み
- ② 紹介受診重点医療機関認定への取り組み
 - ・地域のニーズに応え二次医療圏の中心病院としての役割を果たす
- ③ 情報システムの適切な整備・運用
 - ・電子カルテ更新後の有効活用・医療DXの取り組み
- ④ 未収金削減に向けた取り組み
 - ・委託弁護士法人との連携と委託件数の強化
- ⑤ 新型コロナウイルス対応に向けた準備・行動
 - ・ワクチン接種における適正事務の執行、発熱外来及びCOVID-19 陽性患者入院における適正な請求、公費見直し後の対応

訪問看護ステーション つなぐ

【活動】

令和3年度 訪問診療

新規利用者 17名・前年度からの継続利用者 6名・のべ利用者数 46名・

延べ訪問件数 92件・在宅看取り 17件

令和3年度 訪問看護

新規利用者 23名・前年度からの継続利用者 10名・のべ利用者数 109名

延べ訪問件数 782件

新規相談件数:54件

在宅推進委員会 月1回第3火曜日開催

訪問診療・看護部会 毎週水曜日開催

訪問診療患者報告・新規訪問患者紹介・その他

【評価】

- ・病院併設型の訪問看護ステーションとして開設後、訪問診療と共に定着つつある。
在宅看取りの体制維持ができている現状・
- ・今後とも患者、家族の意思を尊重し、安心して在宅療養ができるよう、他職種や地域の医療・介護従事者との連携と協働をさらに強化していく。

【目標】

- 1、安全安心で質の高い医療の提供
→医療依存度が高い重症者(ターミナルを含む)の在宅療養生活を安心・安全に支える。
- 2、人材のさらなる育成及び活用
→互いに高め合い、働き続けたいと思える職場を作る。
- 3、つながりのある地域医療の推進
→利用者・家族を中心に、オーバーラップした看護連携を行う。

10 委員会活動

部長会		
委員長 事業管理者	開催数 12回	掌握する事項 ・病院運営の基本方針に関すること ・重要な施策に関すること ・企画推進に関すること
活動状況等 ・月1回開催 ・毎月の重症度、医療・看護必要度についての報告 ・毎月の診療収入等についての報告 ・毎月の月間運動テーマの決定 ・病院の運営について報告		

管理運営診療委員会		
委員長 事業管理者	開催数 12回	掌握する事項 ・病院管理運営上の基本方針策定及び審議に関すること ・診療業務の検討、連絡に関すること
活動状況等 ・毎月の重症度、医療・看護必要度についての報告 ・毎月の診療収入等についての報告 ・病院の運営について報告		

防災対策委員会		
委員長 事業管理者	開催数 12回	掌握する事項 災害に関すること、防災・避難訓練に関すること
活動状況等 救急蘇生災害医療部会の活動報告をもとに避難訓練、防災訓練(年2回、うち1回は休日夜間を想定した訓練)、原子力防災訓練について話し合い協議し方向性を決定する。		

救急蘇生災害医療部会		
委員長 関節外科部長	開催数 11回	掌握する事項 災害医療及び心肺蘇生法の普及とその意識の向上に関する こと

<p>活動状況等</p> <p>毎月第2木曜日開催</p> <p>【救急部門】</p> <p>救急カート点検、チェックの実施、コードブルー検証会の実施</p> <p>【災害部門】</p> <p>災害対策マニュアルの改定、勉強会の開催(3回)、院内防災訓練、 安否確認メール連絡訓練(3回)、消火訓練の実施</p>
--

DMAT		
委員長 関節外科部長	開催数 11回	掌握する事項 災害医療活動に関すること
<p>活動状況等</p> <p>毎月第2木曜日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMAT隊員養成研修(業務調整員:1名) ・中部ブロックDMAT実動訓練(1チーム) ・技能維持訓練(医師:1名、看護師:2名、業務調整員:2名) ・近畿府県合同防災訓練(1チーム) 		

医療安全対策委員会		
委員長 副院長	開催数 12回	<p>掌握する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療事故やインシデント事例の分析・評価・改善計画に関すること ・医療安全対策委員会での検討事項、改善計画をマニュアルに反映し職員全体への定期的な周知徹底に関すること ・医療安全対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し見直しに関すること ・新聞等から他施設の医療事故の情報を入手し、事故防止の検討に関すること ・医療事故防止のための職員の教育・研修に関すること
<p>活動状況等</p> <p>毎月第3月曜日開催</p> <p>医療機器、医薬品、インシデント・アクシデント事例、対策評価、院内ラウンド、患者相談、医事紛争に関する内容について報告、討議をおこなった。</p>		

リスクマネジメント部会		
委員長 医療安全管理 室 室長補佐	開催数 12回	掌握する事項 ・インシデント・アクシデントの原因を究明し、職員の医療安全に対する意識向上と指導に関すること
活動状況等 毎月第2水曜日開催 インシデント・アクシデントを報告・協議した。 医療安全に係る動画を作成し、医療安全大会で発表した。 他部署の事故を防いだ気づきのレポート・他部署に事故を防いでもらった感謝のレポートを推奨し、優秀レポートを表彰した。		

医療安全推進会議		
委員長 副院長	開催数 52回	掌握する事項 医療安全対策に関わる取り組みの評価。タイムリーなインシデント・アクシデントの情報共有に関すること
活動状況等 毎週月曜日開催 インシデント・アクシデント事例の報告、看護、薬剤、検査、医療事務に関する内容の報告と取り組みについて討議をおこなった。		

医療機器管理委員会		
委員長 副院長	開催数 1回	掌握する事項 ME センター業務及び医療機器の安全かつ効果的な管理
活動状況等 機器点検保守年間計画について検討を行った。 毎月、MEセンター業務状況について報告を行った。		

病棟管理委員会		
委員長 副院長	開催数 12回	掌握する事項 病棟の管理運営に関し必要な事項を定める。
活動状況等 ・月1回開催 ・先月分の実績に基づき、平均在院日数・病床利用率についてや重要度、医療・看護必要度、在宅復帰率、リハビリ単位について等検討したり、病棟の抱えている問題・課題等について話し合いを行った。		

感染対策委員会		
委員長 管理者	開催数 12回	掌握する事項 感染対策に関する事項の調査・審議に関すること
活動状況等		
<ul style="list-style-type: none"> ・月1回開催 ・感染対策マニュアルの作成と改定事項の決定 ・感染防止にかかる施策の提案 ・感染予防にかかる教育に関する報告 ・感染対策に関する方針やコスト面について決定 ・耐性菌や無菌材料から菌の検出状況、各種サーベイランス報告 ・抗菌薬（抗 MRSA 薬、カルバペネム系薬）の使用や届け出状況の報告 ・インフルエンザアウトブレイク時の方針と対策の決定 ・新型コロナウイルス感染症に関する感染管理についての提案と決定 		

放射線安全委員会		
委員長 放射線科部長	開催数 1回	掌握する事項 放射線障害の防止に関すること
活動状況等		
<p>個人被ばく線量測定結果について報告を行った。</p> <p>健康診断問診票について調整を図った。</p>		

検体検査適正化委員会		
委員長 呼吸器内科部長	開催数 3回	掌握する事項 検体検査の適正化に関すること
活動状況等		
<p>日臨技臨床検査精度管理調査について報告を行った。</p> <p>福臨技臨床検査精度管理調査について報告を行った。</p> <p>医師会臨床検査精度管理調査について報告を行った。</p>		

血液製剤管理委員会		
委員長 消化器外科部長	開催数 6回	掌握する事項 輸血用血液製剤の取扱いに関すること
活動状況等		
偶数月の月末に年6回開催しており、血液製剤の使用、廃棄及びアルブミン/RBCの状		

況及び輸血後感染症検査の実施状況について報告を行っている。
 ガイドラインの変更や当院での輸血事例をもとに運用の改善を行い、安全な輸血医療につ
 いて議論している。
 日本輸血細胞治療学会からの提言をうけ、「輸血後感染症検査」の実施について県内の状況
 を確認し、今後の運用変更について協議した。
 また、FFP の緊急使用事例をもとに院内の在庫数について検討を行っている

医療ガス安全委員会		
委員長 麻酔科部長	開催数 1回	掌握する事項 医療ガス設備の取り扱い、安全維持管理に関すること。
活動状況等 病院内で使用している医療ガス設備(酸素、吸引、笑気、圧縮空気、窒素等)の保守点 検、日常点検について、酸素ポンプ使用時の取り扱い、安全維持管理について話し合いを 行う。 医療ガス設備の不具合個所の修繕については計画を立てて委員会で協議する。		

労働安全衛生委員会		
委員長 事務局長	開催数 9回	掌握する事項 院内衛生上の改善に関すること 職員の健康に関すること(健康診断、保持増進の指導等)
活動状況等 育休、育短、部分休業、病休、退職者等の報告 超過勤務時間について毎月検討し、改善の方策を議論 院内ラウンドを定期的実施し、各部署の職場環境の点検を実施		

電子カルテ委員会		
委員長 小児科部長	開催数 12回	掌握する事項 ・医療情報トータルシステムの整備推進に関すること ・入院患者のカルテ管理に関すること ・病歴管理に関すること
活動状況等 毎月第2月曜日開催 診療報酬改定に伴う電子カルテシステム変更の対応を実施。 利用者の操作ログを調査し、不正な閲覧者がいないか監視。 診療録の記載内容を確認し、記載内容が充足されているか確認。		

クリティカルパス委員会		
委員長 脳神経外科部 長	開催数 8回	掌握する事項 1 診療の質の適正化に伴う標準的な治療計画の作成に関する こと 2 治療計画の説明により、患者の満足度の向上に関する こと 3 その他適正な医療プログラム作成に関すること
活動状況等 【活動内容】 毎月第3水曜日に委員会を開催し、クリティカルパスに関する事項を報告・検討。 【活動状況】 2020年06月 新人看護職員向けパス研修会を開催(参加者 20名) 11月 パス見直し大会を開催(参加者 23名) 2021年02月 第20回日本医療マネジメント学会福井県支部学術に参加		

診療材料検討委員会		
委員長 小児科部長	開催数 12回	掌握する事項 ・新規採用診療材料に関すること ・診療材料の統合整理に関すること ・その他診療材料に関すること
活動状況等 毎月第1木曜日に回開催しており、新規診療材料導入についての審議、費用対効果の高い同種同効品への切り替えを行っている。		

栄養管理委員会		
委員長 副院長	開催数 12回	掌握する事項 給食に係るサービス改善等に関すること
活動状況等 ・インシデント・アクシデント報告 ・調理室ラウンド実施、報告 ・食事アンケート調査実施、報告 ・その他栄養管理に関する事項についての報告		

褥瘡サポート部会		
委員長 皮膚科医師	開催数 12回	掌握する事項 ・感染褥瘡源の調査に関する事 ・褥瘡サポートに関する事
活動状況等 毎月第4金曜日に開催 毎月、院内褥瘡患者の発生状況を共有し、発症患者抑制に向けて意見交換を行った。		

栄養サポート委員会		
委員長 外科診療部長	開催数 8回	掌握する事項 栄養サポートに関する事
活動状況等 NST 介入患者について各症例と栄養管理法に関する情報共有・意見交換を行った。		

在宅医療推進委員会		
委員長 診療部長 (外科系)	開催数 8回	掌握する事項 ・訪問診療の運営に関する事 ・訪問看護の運営に関する事
<p>活動状況等</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一時委員会を中止していましたが、訪問診療、訪問看護で協議された内容に関しては、文書で周知していました。訪問看護部会、訪問診療部会も中止していたため、在宅関係の協議内容がなかなか進行せず、文書のみでは十分な周知には至らなかったため、6月に在宅医療推進委員会、訪問診療部会、訪問看護部会の合同委員会を実施しています。それぞれの委員会を9月より本格的に再開しています。</p> <p>昨年度と継続して、訪問診療部会、訪問看護部会での活動報告や運営方針に対する協議などを行っています。部会であがった協議内容を報告し、それに対して、在宅医療推進委員会で決定をしています。</p> <p>委員会の活動自粛期間もあり、新たに取り組みをした内容はありません。来年度は、さらなる在宅支援の充実のため、新たな取り組みが出来るように活動していきたいです。</p>		

訪問診療部会		
委員長 診療部長 (外科系)	開催数 26回	掌握する事項 訪問診療に関すること
<p>活動状況等</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一時委員会を中止していましたが、訪問診療、訪問看護で協議された内容に関しては、文書で周知していました。訪問看護部会、訪問診療部会も中止していたため、在宅関係の協議内容がなかなか進行せず、文書のみでは十分な周知には至らなかったため、6月に在宅医療推進委員会、訪問診療部会、訪問看護部会の合同委員会を実施しています。それぞれの委員会を9月より本格的に再開しています。</p> <p>訪問診療患者情報の共有 新規の訪問診療依頼患者に対する協議 訪問診療の体制作りに対しての協議・評価・再協議 訪問看護利用にあたっての利用者振り分けの協議 訪問看護の体制作りに対しての協議・評価・再協議 訪問看護のマニュアル作り</p>		

訪問看護部会		
委員長 診療部長 (外科系)	開催数 26回	掌握する事項 訪問看護に関すること
<p>活動状況等</p> <p>訪問看護利用にあたっての利用者振り分けの協議 訪問看護の体制作りに対しての協議・評価・再協議 訪問看護のマニュアル作り</p>		

救急室・外来運営委員会		
委員長 消化器外科部長	開催数 4回	掌握する事項 救急室、外来の運営に関すること
<p>活動状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急科医不在時の対応について、救急室の運営体制について調整を図った。 ・ドクターヘリについて調整を行った。 ・救急診療マニュアルについて改定を行った。 		

HCU運営委員会		
委員長 副院長	開催数 1回	掌握する事項 HCUの円滑・適正な管理運営に関すること
活動状況等 HCU入退室基準の見直しを行い、職員に周知した。 ・入退室基準の調整 ・手術後の患者さんの入室について事前予約を行うこと。		

緩和ケア委員会（チーム会）		
委員長 診療部長（外 科系）	開催数 39回	掌握する事項 生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその 家族のQOLを、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピ リチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応 することで、苦痛を予防し和らげる支援を通して向上させる アプローチを行う。
活動状況等 1.がん拠点診療連携拠点病院取得に向けた取組み 1)緩和ケア外来を開設 日時：毎週水曜日 15:00～16:30 30分/人（予約制） ※身体は、15:00～16:00(2枠)、精神は、16:00～16:30(1枠) 場所：外科外来 対象者：当院通院中のがん患者さん、その家族。 2)緩和ケアラウンドを開始 日時：毎週水曜日 16:45～ 栄養指導室集合（事前に患者カンファレンスを実施） 場所：隔週で本館・北館に分けラウンドを行う。 対象者：オピオイド使用中の患者かつチーム依頼があった患者 参加者：身体専門医師、精神専門医師、認定看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシ ヤルワーカー、理学療法士、作業療法士、がん相談員、病棟リンクナース。 実績(令和3年7月～令和4年3月まで) 1)緩和ケア外来：18回実施／受診者数：4人、累計18人 内訳)身体的苦痛の緩和：14人、精神的苦痛の緩和：4人 詳細)身体的苦痛の緩和：疼痛コントロール、治療のドロップアウトフォロー、 疼痛コントロールに伴う単科医師のフォロー 精 神的苦痛の緩和：療養生活における精神的苦痛		

2) 緩和ケアラウンド: 35 回実施 / ラウンド患者数 139 人、オピオイド使用患者数 146 人

苦痛分類による対応者数(延べ数): 身体的苦痛の緩和: 147 人

精神的苦痛の緩和: 14 人

社会的苦痛の緩和: 2 人

緩和ケア介入依頼患者数: 4 件/年

3) 緩和ケアの取り組みを普及し、連携し協働できる体制を整える

① 緩和ケアマニュアルの改訂

- ・疼痛スケール見直し、麻薬自己管理マニュアル作成
- ・これからの過ごし方について～大切な人と寄り添うために～マニュアル作成

② 緩和ケア教育の普及

- ・福井県緩和ケア研修会受講の推奨 講師として参加: 2 名、修了者人数: 13 名
参加職種と参加数: 医師 6 名、薬剤師 4 名、作業療法士 1 名、理学療法士 1 名
- ・福井県 ELNEC-J コアカリキュラム 看護師教育プログラム
- ・地域開放学習会 緩和ケア関連 医師・認定看護師が講師になり 3 回実施
- ・院内緩和ケアチーム主催勉強会 医師・認定看護師、外部講師にて 3 回実施
各病棟で勉強会依頼があり、緩和ケア認定看護師が講師として各病棟へ出張含む

2. 活動状況等

・緩和ケアアンケート実施: 5 月 26 日～6 月 9 日 回収 429 枚 回収率 92%

・緩和ケアチーム会内勉強会を開催

6 月～翌年 3 月まで、毎月 1 回/名が自分の専門分野の講師になり勉強会を開催

・学会・研修会参加

第 26 回日本緩和医療学会学術大会 3 名

第 34 回日本サイコオンコロジー学会 2 名

第 31 回日本緩和医療学会教育セミナー 4 名

第 32 回日本緩和医療学会教育セミナー 4 名

第 3 回東海・北陸支部学術大会 1 名

日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 2 名

福井県がん相談支援センター 相談員研修

2 名

・資格取得

2021 年度がん相談支援センター 相談員研修(1)(2) 知識コース 2 名

2021 年度がん相談支援センター 相談員研修(3) 1 名

糖尿病診療委員会

委員長 内分泌・代謝 内科部長	開催数 3 回	掌握する事項 糖尿病診療の充実化を図ること
-----------------------	------------	--------------------------

活動状況等

医師を中心とし、看護師、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、臨床検査技師、管理栄養士など他職種が協力し、糖尿病診療の充実化を目指し活動しています。

委員会のみでなく、病棟ラウンド、糖尿病教室、学会参加なども行っております。

化学療法委員会

委員長 消化器外科部 長	開催数 3回	掌握する事項 化学療法に関すること
--------------------	-----------	----------------------

活動状況等

調製件数、採用プロトコル数、薬剤部への疑義照会件数等について実績報告、新規レジメンについての審議を中心に行った。また、化学療法に関する説明と同意書の改訂を行った。

院内化学療法マニュアル、化学療法室の運用、抗がん剤の適応拡大に伴う院内の枠組み等について検討を行った。

医療器械購入機種選定委員会

委員長 事業管理者	開催数 5回	掌握する事項 医療機器の選定に関すること
--------------	-----------	-------------------------

活動状況等

年5回開催しており、導入目的、導入時期、費用対効果の有益性等を審議し、次年度導入すべき医療器械について、優先順位を決めている。

医療器械が故障した際には、緊急的に委員会を開催し、修理すべきか購入すべきかを審議している。

CS・ES委員会

委員長 循環器内科部 長	開催数 1回	掌握する事項 患者及び職員満足度並びにコミュニケーションの向上に関すること
--------------------	-----------	--

活動状況等

CS部会及びES部会により1年間活動した内容を全職員に発表するための企画を立て、発表会を実施した

CS部会

委員長 循環器内科部長	開催数 12回	掌握する事項 患者サービスの向上
----------------	------------	---------------------

活動状況等

毎月第 2 木曜日に開催

3チーム(企画提案、接遇、アンケート)で構成

毎日の取り組み

・病院ボランティアさんへの支援・協力体制の維持

毎週の取り組み

・ご意見箱回収と改善に向けた取り組み

※毎週木曜日:ご意見箱のご意見を回収し、該当部署へ回答を依頼し回答を得ている。

また、患者さんからのご意見・各部署からの回答は、患者サポート相談会議にて報告。 毎

毎月の取り組み

・院内掲示板ラウンド、正面玄関の置き傘の整理整頓

・病院ボランティア活動報告

・ご意見箱に寄せられたご意見は、経過報告を医療安全委員会にて報告。また、患者さんへのフィードバックは、掲示希望があるものに対し紙面掲示にて公表している。

ご意見箱に寄せられたご意見:66 件/年、各部署からの回答:100%、掲示板での掲示更新は 3 回行った。

各月の取り組み

・6 月～7 月 七夕飾り 院内装飾、短冊の掲示

・9 月～令和 4 年 2 月迄 職員接遇スタンダードチェックシート記入の実施

・10 月 ハロウィン企画 院内装飾

患者満足度調査の実施

・外来患者対象)10 月 4 日(月)～10 月 8 日(金)

・入院患者対象)10 月 11 日(月)～11 月 12 日(金)

集計後、日本機能医療評価機構 患者満足度 職員やりがい度活用支援

2021 年度ベンチマークへ参加

・11 月 ボランティア交流会

ボランティアの健康診断・インフルエンザ予防接種を実施

・12 月 院内クリスマス開催 クリスマスツリーの展示、院内装飾、

各部署からメッセージ、院長サンタの小児科入院中の患児訪問等

・2 月～3 月 雛飾り

・3 月 感謝を伝えあい、笑顔につなげる企画 等を実施した。

その他の取り組み

・CS だよりを年間に 3 回発行した。

・病院ボランティアのお手伝い内容について、検討し院内職員向けに周知を促した。

・第 59 回全国自治体病院学会 IN 奈良にて、CS 部会の取り組みを発表した。

ES 部会		
委員長 小児科部長	開催数 12回	掌握する事項 職員満足度の向上に関すること
活動状況等 毎月第3火曜日に開催 3チーム(福利厚生アンケート、職員確保、業務改善)で構成 福利厚生に関するアンケート調査、ペーパーレス化の推奨、電子カルテ使い方説明会 を実施した。		

聴き上手広め隊		
委員長 循環器内科部長	開催数 9回	掌握する事項 コミュニケーション向上に関すること
活動状況等 イベントグループ ・ワールドカフェの実施 推進グループ ・褒め合いデーの実施 ・アンケートの実施 広報グループ ・広報誌の作成及び配布(年3回)		

倫理委員会		
委員長 院長	開催数 30回	掌握する事項 医療職員の高い資質の高揚及び臨床研究の審査に関する こと
活動状況等 臨床研究に係る必要な手続き等を行った。 講演会を1回実施した。		

臓器移植チーム会		
委員長 腎臓内科部長	開催数 2回	掌握する事項 臓器移植の体制整備と啓発に関すること
活動状況等 ・院内マニュアルの読み合わせを行った。 ・リーフレットの配布を実施した。		

薬事委員会		
委員長 診療部長 (内科系)	開催数 10回	掌握する事項 ・新規採用薬品に関すること ・採用薬品の統合整理に関すること ・その他薬事に関すること ・院内使用する後発薬剤採用に係る調査検討に関すること
活動状況等 毎月第1月曜日に回開催しており、新規採用医薬品導入についての審議、費用対効果の高い同種同効品への切り替え及び後発医薬品採用率の月次報告を行っている。		

DPC委員会		
委員長 事業管理者	開催数 4回	掌握する事項 DPCに関すること
活動状況等 コーディングテキストを用いて、適切なコーディングに向けた実務的な事例の報告と検討を行った。 DPCデータを活用し、当院の実績や医療の質の評価などの分析を行った。		

広報委員会		
委員長 小児科部長	開催数 12回	掌握する事項 広報に係る年次計画の企画立案と情報の発信に関すること 病院フェスタの開催、運営に関すること 市立敦賀病院のホームページの充実、更新に関すること 市民公開講座の開催、運営に関すること
活動状況等 (1) 広報誌の更新 院外向け広報誌の「きらめき」と、患者さん向け広報誌「ぬくもり」を合併した「きらめき」を年3回発行した。 (6月、12月、2月) (2) ホームページの更新 随時各部署の更新 病院フェスタ及び市民公開講座についてはコロナ禍のため中止となった。		

医療の質・経営改善推進室		
委員長 医療の質・経営改善推進室 長	開催数 11回	掌握する事項 ・医療の質の改善に関すること ・経営状況の情報収集、分析に関すること
活動状況等 施設基準の見直し・希望部署への模擬適時調査を実施した。 病床機能報告の作成及び報告を実施した。		

認知症サポート部会		
委員長 脳神経外科 部長	開催数 12回	掌握する事項 ・認知症ケアに関すること ・認知症ラウンドに関すること
活動状況等 認知症ケアマニュアルの改訂を行った。 認知症ケア加算1算定に向けた活動を行った。		

臨床研修管理委員会		
委員長 院長	開催数 1回	掌握する事項 臨床研修プログラムに関すること
活動状況等 臨床研修プログラム修了認定についての報告 臨床研修プログラムについての報告 臨床研修医予定者についての報告		

心臓リハビリテーション運営委員会		
委員長 循環器内科 部長	開催数 10回	掌握する事項 心臓リハビリテーションの充実化を図ること
活動状況等 看護師勤務体制の調整 心肺運動負荷試験導入基準を明確化 心臓カテーテルチームと合同開催を行い、心疾患チームとして情報共有を図った コロナウイルス感染対策として外来通院頻度の調整、体温確認、手指消毒、機器消毒など 日本心臓リハビリテーション学術集会がWEB開催となり、2名発表		

医療従事者修学資金貸与審査委員会		
委員長 院長	開催数 3回	掌握する事項 修学資金貸与の審査に関する事
活動状況等 新規申請者について随時審査を実施。		

診療材料管理業務委託検討委員会		
委員長 副院長	開催数 4回	掌握する事項 診療材料SPD委託の運用に関する事
活動状況等 令和元年度に契約満了となる診療材料SPD委託の運用について、各部署から意見を聞き仕様書に反映していく。 周辺病院を視察して業務効率化と診療材料費削減方法について検討を行い、仕様書策定を行った。		

医薬品管理業務委託検討委員会		
委員長 診療部長 (内科系)	開催数 4回	掌握する事項 医薬品SPD委託の運用に関する事
活動状況等 令和元年度に契約満了となる医薬品PD委託の運用について、各部署から意見を聞き仕様書に反映していく。 周辺病院を視察して業務効率化と委託範囲について検討を行い、仕様書策定を行った。		

地域包括ケア病棟運営委員会		
委員長 院長	開催数 12回	掌握する事項 地域包括ケア病棟の運営に関する事
活動状況等 ・月に1回開催 ・毎月の稼働状況、転入時期、個別の症例の検討をとおして、病棟運営の検証を行う。 ・医局会にて、ケア病棟運営についての勉強会も定期的に行った。 ・直接入院患者を積極的に受け入れ、前年度に比べ約80人増加した。 ・総入院患者数についても、前年度に比べ約70名増加した。		

地域医療連携委員会		
委員長 腎臓内科部長	開催数 12回	掌握する事項 1. 紹介、逆紹介に関する事 2. 入退院支援に関する事 3. 支援困難ケースに関する事
活動状況等 ・毎月第3水曜日に定期開催 ・紹介、逆紹介に関する報告 ・入退院支援に関する実績報告 ・支援困難ケースに関する情報共有・検討		

がん診療連携拠点病院推進委員会		
委員長 消化器外科部長	開催数 10回	掌握する事項 ・拠点病院の指定に必要な企画立案に関する事 ・その他拠点病院の指定に関し必要な事
活動状況等 ・拠点病院指定に必要な項目について分析を行い、整備できていない項目の確認。 ・カンサーボードの立ち上げ ・患者サロンの立案・計画		

V 業務の概要

1 患者の状況

(1) 入院・外来別患者数

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
入院	患者数(人)	96,742	89,538	89,844
	対前年度比(%)	103.5	92.6	100.3
	開院日(日)	366	365	365
	一日平均(人)	264.3	245.3	246.1
	病床稼働率(%)	79.6	73.9	74.1
	平均在院日数(日)	16.1	16.8	15.1
外来	患者数(人)	167,654	152,630	165,986
	対前年度比(%)	98.2	91.0	108.8
	開院日(日)	240	243	242
	一日平均(人)	698.6	628.1	685.9
合計	患者数(人)	264,396	242,168	255,830
	対前年度比(%)	100.1	91.6	105.6

※診療報酬の基本診療料の施設基準等の別表第2に規定する入院患者も含む。

(2) 患者数の推移

①入院患者数

	病床数				患者延数(人)	対前年度比(%)	1日平均患者数(人)
	一般	感染	ドック	無菌			
平成25年度	323	2	6	1	99,380	95.6	272.3
平成26年度	323	2	6	1	94,618	95.2	259.2
平成27年度	323	2	6	1	94,759	100.1	258.9
平成28年度	323	2	6	1	95,693	101.0	262.2
平成29年度	323	2	6	1	97,710	102.1	267.7
平成30年度	323	2	6	1	93,442	95.6	256.0
令和元年度	323	2	6	1	96,742	103.5	264.3
令和2年度	323	2	6	1	89,538	92.6	245.3
令和3年度	323	2	6	1	89,844	100.3	246.1

②外来患者数

	患者延数(人)	対前年度比(%)	1日平均患者数(人)
平成25年度	177,235	98.9	726.4
平成26年度	175,061	98.8	717.5
平成27年度	169,961	97.1	699.4
平成28年度	169,454	99.7	697.3
平成29年度	170,464	100.6	698.6
平成30年度	170,696	100.1	699.6
令和元年度	167,654	98.2	698.6
令和2年度	152,630	91.0	628.1
令和3年度	165,986	108.8	685.9

(3) 診療科別患者数

	入院				外来			
	令和元年度(人)	令和2年度(人)	令和3年度(人)	対前年度比(%)	令和元年度(人)	令和2年度(人)	令和3年度(人)	対前年度比(%)
内科	26,551	22,698	22,418	98.8	41,908	40,204	46,067	114.6
神経内科	0	0	0	—	1,745	1,829	1,682	92.0
消化器内科	6,840	9,195	9,433	102.6	6,470	6,822	7,230	106.0
循環器内科	8,730	5,386	5,714	106.1	14,095	11,623	11,620	100.0
小児科	2,348	1,591	1,860	116.9	9,015	5,624	10,133	180.2
外科	17,285	14,419	11,868	82.3	12,302	11,079	10,001	90.3
乳腺外科	0	114	1,143	—	—	358	2,909	—
整形外科	14,044	16,058	16,856	105.0	17,208	16,880	16,881	100.0
脳神経外科	9,123	9,741	11,234	115.3	7,201	6,559	6,880	104.9
皮膚科	1,328	993	904	91.0	10,342	8,995	9,109	101.3
形成外科	0	0	0	—	479	496	512	103.2
泌尿器科	4,469	5,007	4,127	82.4	15,388	14,960	15,129	101.1
産婦人科	5,649	3,586	3,489	97.3	5,433	4,721	4,964	105.1
眼科	172	109	139	127.5	4,661	4,052	4,070	100.4
耳鼻いんこう科	0	486	399	—	2,693	3,143	3,719	118.3
放射線科	0	0	0	—	981	893	1,017	113.9
神経科精神科	0	0	0	—	1,588	1,707	1,447	84.8
麻酔科	10	0	0	—	1,839	1,594	1,551	97.3
リハビリテーション科	0	0	0	—	5,816	4,021	3,580	89.0
歯科口腔外科	193	155	260	167.7	8,490	7,070	7,485	105.9
合計	96,742	89,538	89,844	100.3	167,654	152,630	165,986	108.8

(4) 市町村別患者数

		令和元年度						令和2年度						令和3年度					
		外来		入院		合計		外来		入院		合計		外来		入院		合計	
		延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)	延患者数 (人)	比率 (%)
県内	敦賀市	137,475	82.0%	75,207	77.7%	212,682	80.3%	124,593	81.6%	68,333	76.3%	192,926	79.7%	136,336	82.1%	68,211	75.9%	204,547	80.0%
	美浜町	15,811	9.4%	10,742	11.1%	26,553	10.0%	14,792	9.7%	11,080	12.4%	25,872	10.7%	15,586	9.4%	9,492	10.6%	25,078	9.8%
	若狭町	8,949	5.3%	6,879	7.1%	15,828	6.0%	8,491	5.6%	7,157	8.0%	15,648	6.5%	9,237	5.6%	7,374	8.2%	16,611	6.5%
	その他	2,143	1.3%	1,300	1.3%	3,443	1.3%	2,046	1.3%	1,237	1.4%	3,283	1.4%	2,273	1.4%	3,329	3.7%	5,602	2.2%
県外		3,276	2.0%	2,614	2.7%	5,890	2.2%	2,708	1.8%	1,731	1.9%	4,439	1.8%	2,554	1.5%	1,438	1.6%	3,992	1.6%
合計		167,654	100.0%	96,742	100.0%	264,396	100.0%	152,630	100.0%	89,538	100.0%	242,168	100.0%	165,986	100.0%	89,844	100.0%	255,830	100.0%

(5) 月別患者数

令和3年度

入院

単位:人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合 (%)
内 科	1,679	1,664	1,811	1,885	2,203	2,051	2,031	1,629	1,688	1,984	1,741	2,052	22,418	61.4	24.9
神 経 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
消 化 器 内 科	613	570	691	891	937	890	896	797	754	776	819	799	9,433	25.8	10.5
循 環 器 内 科	433	470	435	318	443	434	520	536	731	559	376	459	5,714	15.7	6.4
小 児 科	170	222	205	261	238	111	124	64	155	139	65	106	1,860	5.1	2.1
外 科	908	762	792	992	1,040	981	1,156	1,183	1,066	887	779	1,322	11,868	32.5	13.2
乳 腺 外 科	64	47	85	97	154	105	70	112	144	70	118	77	1,143	3.1	1.3
整 形 外 科	1,208	1,330	1,377	1,209	1,061	1,135	1,430	1,438	1,645	1,830	1,609	1,584	16,856	46.2	18.8
脳 神 経 外 科	830	1,018	1,026	799	951	771	585	818	1,101	1,162	1,108	1,065	11,234	30.8	12.5
皮 膚 科	66	50	46	81	91	97	110	98	56	60	34	115	904	2.5	1.0
形 成 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
泌 尿 器 科	261	460	473	538	411	245	261	234	331	311	326	276	4,127	11.3	4.6
産 婦 人 科	331	280	402	316	279	245	337	245	275	319	227	233	3,489	9.6	3.9
眼 科	8	12	16	12	8	13	11	12	14	12	10	11	139	0.4	0.2
耳 鼻 い ん こ う 科	65	38	30	48	58	24	38	21	7	28	31	11	399	1.1	0.4
放 射 線 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
神 経 科 精 神 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	15	17	25	24	21	18	24	22	20	18	29	27	260	0.7	0.2
合 計	6,651	6,940	7,414	7,471	7,895	7,120	7,593	7,209	7,987	8,155	7,272	8,137	89,844	246.1	100.0

外来

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均	構成割合 (%)
内 科	3,557	3,314	3,524	3,638	4,581	3,872	3,431	3,464	3,559	4,382	3,924	4,821	46,067	189.6	27.7
神 経 内 科	143	111	156	130	138	165	138	132	147	141	106	175	1,682	6.9	1.0
消 化 器 内 科	603	503	629	570	581	623	619	592	676	510	528	796	7,230	29.8	4.4
循 環 器 内 科	1,013	873	1,015	942	944	1,055	985	937	1,028	935	864	1,029	11,620	47.8	7.0
小 児 科	670	526	616	808	1,579	612	803	705	668	983	1,084	1,079	10,133	41.7	6.1
外 科	841	742	930	824	844	855	877	769	864	762	746	947	10,001	41.2	6.0
乳 腺 外 科	180	174	238	271	237	237	271	246	273	262	215	305	2,909	12.0	1.8
整 形 外 科	1,337	1,350	1,482	1,571	1,501	1,530	1,499	1,512	1,414	1,270	1,106	1,309	16,881	69.5	10.2
脳 神 経 外 科	520	499	609	596	496	618	607	576	627	547	537	648	6,880	28.3	4.1
皮 膚 科	726	653	789	900	815	802	820	774	746	655	600	829	9,109	37.5	5.5
形 成 外 科	44	38	31	42	49	41	34	58	49	36	38	52	512	2.1	0.3
泌 尿 器 科	1,222	1,095	1,330	1,277	1,309	1,254	1,298	1,286	1,257	1,271	1,146	1,384	15,129	62.3	9.1
産 婦 人 科	425	381	431	392	402	399	485	459	408	390	353	439	4,964	20.4	3.0
眼 科	344	305	390	334	313	376	327	348	334	333	282	384	4,070	16.7	2.5
耳 鼻 い ん こ う 科	325	303	333	285	290	322	325	305	332	307	277	315	3,719	15.3	2.2
放 射 線 科	78	60	74	81	71	78	86	115	112	87	67	108	1,017	4.2	0.6
神 経 科 精 神 科	135	100	127	130	104	129	114	125	123	114	118	128	1,447	6.0	0.9
麻 酔 科	127	130	149	143	133	133	145	129	131	118	101	112	1,551	6.4	0.9
リハビリテーション科	305	285	360	314	340	316	286	289	295	289	243	258	3,580	14.7	2.2
歯 科 口 腔 外 科	612	569	740	639	631	620	634	661	658	564	520	637	7,485	30.8	4.5
合 計	13,207	12,011	13,953	13,887	15,358	14,037	13,784	13,482	13,701	13,956	12,855	15,755	165,986	680.3	100.0

(6) 救急患者の取扱状況

令和元年度

単位:人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	399	412	342	421	442	386	296	347	452	642	368	261	4,768
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	7	20	8	15	15	16	9	4	9	13	7	14	137
循環器内科	20	30	19	17	18	17	16	20	19	27	15	24	242
小児科	203	161	162	109	132	119	86	104	154	199	108	52	1,589
外科	48	54	45	52	48	57	41	37	42	31	37	26	518
整形外科	102	118	121	119	147	126	117	128	120	81	88	86	1,353
脳神経外科	75	75	77	72	80	85	84	84	77	99	69	71	948
皮膚科	48	56	55	92	88	58	39	38	39	40	27	32	612
泌尿器科	30	33	36	30	26	24	22	31	22	27	11	20	312
産婦人科	34	39	58	45	44	43	26	26	38	55	35	24	467
眼科	10	9	5	1	4	9	7	7	4	4	4	1	65
耳鼻いんこう科	20	28	14	17	23	21	14	17	28	28	19	18	247
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
麻酔科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3
歯科口腔外科	3	2	1	0	3	2	1	2	1	0	0	0	15
救急科	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
合計	999	1,039	943	991	1,071	963	760	845	1,005	1,248	788	629	11,281
入院患者数(再掲)	165	167	181	191	175	185	162	127	162	195	136	145	1,991
救急車台数(台)	174	163	162	160	178	169	157	162	169	177	148	164	1,983

令和2年度

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	222	263	282	308	417	292	266	251	275	270	215	249	3,310
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	5	11	12	8	8	11	6	6	5	9	7	7	95
循環器内科	16	13	17	14	9	20	29	14	13	22	19	11	197
小児科	31	38	42	63	67	53	68	57	38	48	45	45	595
外科	10	34	25	39	27	42	34	26	35	38	32	36	378
整形外科	50	104	117	121	100	121	117	97	111	97	89	89	1,213
脳神経外科	76	64	74	75	58	72	88	76	77	67	65	73	865
皮膚科	18	61	64	87	81	74	60	44	35	39	42	36	641
泌尿器科	8	30	21	22	22	13	24	20	27	31	26	22	266
産婦人科	23	21	33	25	14	21	25	24	33	25	26	24	294
眼科	4	1	2	4	1	4	3	0	3	4	5	3	34
耳鼻いんこう科	9	16	24	25	20	22	13	23	25	24	23	20	244
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	1	0	1	0	2	0	1	0	2	0	0	2	9
救急科	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	1	5
合計	473	656	714	791	826	747	734	638	679	676	594	618	8,146
入院患者数(再掲)	115	139	161	144	147	130	148	110	171	147	135	132	1,679
救急車台数(台)	128	146	170	169	204	176	175	160	201	197	161	157	2,044

令和3年度

単位:人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	256	338	304	367	352	305	287	253	302	278	253	269	3,564
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	11	9	17	6	13	3	7	9	17	18	14	4	128
循環器内科	20	18	10	12	7	13	12	9	18	22	11	13	165
小児科	44	67	82	155	108	60	53	60	71	52	62	46	860
外科	39	41	24	31	43	22	36	49	57	36	34	34	446
乳腺外科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
整形外科	74	122	110	122	111	109	98	155	133	97	89	101	1,321
脳神経外科	65	89	87	93	53	75	89	90	85	91	74	76	967
皮膚科	46	60	68	109	79	73	71	47	52	40	33	42	720
泌尿器科	13	31	21	25	28	25	24	13	30	30	24	18	282
産婦人科	43	42	34	38	25	38	32	38	32	32	19	27	400
眼科	3	2	1	2	1	5	3	3	3	3	1	0	27
耳鼻いんこう科	23	21	22	22	12	14	29	19	26	23	12	22	245
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経科精神科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3
歯科口腔外科	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	6
救急科	0	0	1	3	11	1	5	1	0	0	2	1	25
合計	638	842	781	985	844	743	747	746	829	722	630	655	9,162
入院患者数(再掲)	160	140	156	172	159	149	144	147	158	153	128	126	1,792
救急車台数(台)	153	187	209	210	194	187	182	211	200	203	179	188	2,303

(7) 患者搬送の状況

単位: 件

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		周産期医療 関係搬送数		周産期医療 関係搬送数		周産期医療 関係搬送数
市 内	2		5		7	
県 内	101	11	82	4	85	9
石川県					2	
京都府					1	
滋賀県	2				2	
兵庫県			1		0	
大阪府	1		1		2	
秋田県	1				0	
合計	107	11	89	4	99	9

2 人間ドックの状況

単位：件、円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
元年度	1日ドック	19	35	39	45	42	34	35	24	25	25	19	17	359
	2日ドック	1	0	2	1	2	2	1	1	0	1	2	0	13
	脳ドック単独		2	2	7	5	5	1	5	5	3	3		38
	オプション検査	42	43	77	77	51	43	48	57	55	35	39	58	625
	けんぽ一般	95	139	135	161	144	137	165	158	146	140	115	177	1,712
	けんぽ付加	4	5	4	1	2	6	7	4	1	10	9	6	59
	乳がん	8	12	12	15	18	19	23	24	14	19	19	26	209
	子宮がん	4	13	11	15	18	17	23	25	13	18	18	21	196
	子宮がん(20～40歳)	1	7	2	5	4	5	7	2	5	1	0	0	39
	肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	174	256	284	327	286	268	310	300	264	252	224	305	3,250
金額	3,288,972	5,000,459	5,810,606	5,841,002	5,169,912	5,380,639	5,631,969	4,839,918	4,393,195	4,425,815	4,302,286	4,704,887	58,789,660	
2年度	1日ドック	14	0	16	18	34	52	48	44	26	34	13	25	324
	2日ドック	1	0	1	1	1	0	0	1	1	4	2	8	20
	脳ドック単独	0	0	0	3	6	2	3	5	5	1	3	3	31
	オプション検査	29	0	64	67	64	50	64	27	40	39	34	67	545
	けんぽ一般	39	0	151	168	141	152	172	124	119	108	157	165	1,496
	けんぽ付加	3	0	5	5	0	7	9	10	3	18	6	7	73
	乳がん	2	0	18	18	6	18	25	19	8	11	11	29	165
	子宮がん	0	0	18	17	8			14	9	12	8	20	106
	子宮がん(20～40歳)	4	0	7	4	3	1	1	1	1	3	3	1	29
	肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	92	0	280	301	263	282	322	245	212	230	237	325	2,789
金額	1,526,426	0	4,001,664	4,513,863	4,625,672	5,549,741	6,073,640	5,337,886	4,003,879	4,484,245	3,946,855	6,120,125	50,183,996	
3年度	1日ドック	14	28	52	27	33	34	34	33	21	20	22	16	334
	2日ドック	1	1	2	1	3	1	1	2	1	4	5	5	27
	脳ドック単独	2	1			9	3	3	4	8	3	8	7	48
	オプション検査	26	41	60	40	45	36	38	47	45	80	45	46	549
	けんぽ一般	129	129	148	160	153	139	129	137	136	116	121	126	1,623
	けんぽ付加	2	3	0	0	1	2	6	7	1	4	9	9	44
	乳がん	10	20	11	18	13	20	20	10	18	5	14	12	171
	子宮がん	5	18	10	17	19	19	22	10	19	6	13	12	170
	子宮がん(20～40歳)	5	3	3	4	3	1	5	4	3	1	4	2	38
	肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計件数	194	244	286	267	279	255	258	254	252	239	241	235	3,004
金額	3,417,559	4,167,061	6,081,392	4,966,171	5,439,486	4,775,032	5,178,366	4,984,983	4,301,733	4,154,436	4,288,263	3,991,767	55,746,249	

3 中央手術室業務の状況

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
内科	45	34	30
神経内科			
消化器内科			
循環器内科			
小児科	2	0	0
外科	597	550	568
整形外科	393	381	352
脳神経外科	41	44	62
皮膚科	68	69	52
泌尿器科	203	290	244
産婦人科	108	98	93
眼科	82	58	72
耳鼻いんこう科	0	13	5
放射線科	0	0	0
神経科精神科	0	0	0
麻酔科	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0
歯科口腔外科	47	51	87
合計	1,586	1,588	1,565

4 種類別麻酔件数

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
全身麻酔	811	810	853
腰椎麻酔・硬膜外麻酔	296	348	279
局所麻酔	444	386	394
その他	35	40	39
合計	1,586	1,584	1,565

5 内視鏡検査件数

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
食道・胃・十二指腸	3,774	3,335	3,632
膵・胆道	163	166	178
大腸	1,105	1,011	1,054
気管支	100	109	110
合計	5,142	4,621	4,974

6 周産期医療の状況

(1) 月別出産等の状況

令和3年度

単位：件

()内休日

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	経膈分娩	28(11)	15(8)	29(4)	20(5)	16(11)	16(4)	24(6)	15(4)	22(3)	23(11)	14(3)	15(2)	237(72)
	帝王切開	3(1)	6(1)	5(0)	3(0)	5(2)	3(1)	4(1)	4(1)	3(0)	4(1)	0(0)	5(0)	45(8)
	計	31(12)	21(9)	34(4)	23(5)	21(13)	19(5)	28(7)	19(5)	25(3)	27(12)	14(3)	20(2)	282(80)
時間内	経膈分娩	13(3)	7(3)	9(3)	8(2)	5(2)	9(1)	6(1)	5(2)	3(1)	9(5)	6(1)	6(0)	86(24)
	帝王切開	1(1)	5(1)	5(0)	2(0)	5(2)	1(1)	4(1)	4(1)	2(0)	4(1)	0(0)	3(0)	36(8)
	計	14(4)	12(4)	14(3)	10(2)	10(4)	10(2)	10(2)	5(2)	7(1)	13(6)	6(1)	9(0)	122(32)
時間外	経膈分娩	11(6)	4(3)	12(0)	7(3)	4(3)	5(1)	4(2)	5(2)	7(1)	9(2)	3(1)	4(2)	75(26)
	帝王切開	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(0)
	計	11(6)	5(3)	12(0)	8(3)	4(3)	5(1)	4(2)	5(2)	8(1)	9(2)	3(1)	4(2)	78(26)
深夜等	経膈分娩	6(2)	4(2)	8(1)	5(0)	7(6)	4(2)	14(3)	5(0)	12(1)	5(4)	5(1)	5(0)	80(22)
	帝王切開	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	2(0)
	計	6(2)	4(2)	8(1)	5(0)	7(6)	4(2)	14(3)	5(0)	12(1)	5(4)	5(1)	7(0)	82(22)

時間内：平日 8:30～17:00

時間外：平日 6:00～ 8:30、17:00～22:00

深夜等：平日22:00～ 6:00、土曜日、日曜日、祝日

令和2年度

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
経膈分娩		16(7)	19(6)	17(5)	17(3)	15(4)	16(4)	18(5)	14(5)	17(8)	20(8)	11(7)	17(5)	197(67)
帝王切開		9(0)	3(0)	8(1)	5(1)	2(0)	7(1)	4(0)	1(0)	5(0)	5(0)	7(2)	5(0)	61(5)
計		25(7)	22(6)	25(6)	22(4)	17(4)	23(5)	22(5)	15(5)	22(8)	25(8)	18(9)	22(5)	258(72)

令和元年度

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
経膈分娩		21(2)	18(7)	21(7)	17(2)	26(5)	31(13)	15(3)	23(11)	20(8)	21(10)	21(10)	25(7)	259(85)
帝王切開		5(0)	5(1)	6(1)	9(1)	2(0)	7(1)	6(1)	8(1)	5(0)	7(1)	5(0)	3(0)	68(7)
計		26(2)	23(8)	27(8)	26(3)	28(5)	38(14)	21(4)	31(12)	25(8)	28(11)	26(10)	28(7)	327(92)

(2) 母乳育児外来の状況(延件数)

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度		44	42	33	46	27	29	35	56	37	28	22	37	436
令和2年度		39	43	61	59	43	38	51	57	44	39	13	39	526
令和元年度		88	74	80	80	95	60	58	50	44	61	57	58	805

(3) 新生児聴覚検査実施状況(延件数)

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度		31	21	34	23	21	19	29	18	25	27	13	20	281
令和2年度		24	21	25	22	17	22	22	15	22	25	17	20	252
令和元年度		26	23	25	26	28	37	21	30	25	28	25	28	322

7 薬剤室業務の状況

(1) 調剤業務の状況

単位: 件

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
調 剤 数	外 来	13,624	9,018	10,512
	入 院	90,241	87,990	90,001
	合 計	103,865	97,008	100,513
処 方 箋 枚 数	外 来	7,427	3,710	4,525
	入 院	37,819	27,327	27,788
	合 計	45,246	31,037	32,313

(2) 服薬指導の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
服 薬 指 導 患 者 数 (人)	1,739	1,165	1,191
服 薬 指 導 延 回 数 (回)	2,199	1,775	1,741

(3) 注射剤調製の状況

単位: 件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
外 来 注 射 (化 学 療 法)	1,626	1,625	1,785
外 来 注 射 (レミケード注他抗リウマチ薬)	120	110	100
入 院 注 射 (化 学 療 法)	300	406	519
入 院 注 射 (レミケード注他抗リウマチ薬)	5	8	1

(4) 後発医薬品採用率

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
採 用 率 (%)	23.4	24.9	26.4
当 院 採 用 の 後 発 医 薬 品 数	312	333	351
当 院 採 用 の 全 医 薬 品 数	1,331	1,336	1,331

採用率(%) = 当院採用の後発医薬品数 / 当院採用の全医薬品数

8 人工透析の状況

単位: 人

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
多 人 数 用 装 置	12,985	13,541	13,196
単 身 用 装 置	357	380	232
合 計	13,342	13,921	13,428

令和3年度末現在

患者数(定期) 90人

多人数用装置設置台数 22台(透析センター)

単身用装置設置台数 3台(透析センター1台、MEセンター 1台、HCU 1台)ア

フェレシスモニタ 3台(MEセンター 2台、HCU 1台)

9 放射線科（室）の状況

（1）撮影の状況

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一般撮影	33,259	31,022	33,075
尿路撮影（DIP）	2	0	1
透視撮影	987	1,121	1,072
血管造影撮影	690	572	559
CT（2台）	14,023	13,513	14,782
MRI（1台）	3,794	3,651	3,796
超音波診断	4,847	4,914	5,461
R I	631	581	534
放射線治療	576	588	769
骨密度	923	940	1,069
マンモグラフィ	1,609	1,665	1,993
合計	61,339	58,567	63,111

（2）紹介患者の取り組み

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
紹介患者データ取り込み	3,316	3,186	3,677
当院データコピー	2,576	2,348	2,737
合計	5,892	5,534	6,414

（3）血管撮影検査の状況

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
脳神経外科	67	87	94
循環器科	443	295	333
放射線科	143	133	102
その他の診療科	37	57	30
合計	690	572	559

（4）MRI検査の状況

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
院内件数	3,450	3,333	3,472
院外件数	344	318	324
合計	3,794	3,651	3,796
頭頸部・脊椎件数	2,673	2,633	2,811
体部・他件数	1,121	1,018	985
合計	3,794	3,651	3,796

（5）CT検査の状況（令和2年度より320列CTの件数をCT①としています）

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
MDCT（CT室①）	5,166	8,319	8,900
MDCT（CT室②）	8,857	5,197	5,972
合計	14,023	13,516	14,872
院外件数	430	360	421
合計	14,023	13,513	14,872

(6) 核医学検査の状況

単位:件

		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
脳神経系	脳血流	143	163	139	151	147	169
	脳血流(負荷)	1		2		0	
	脳	19		10		22	
	脳槽	0		0		0	
	シャントフロー	0		0		0	
循環器系	心筋血流(同期)	1	160	0	179	1	150
	心筋脂肪酸代謝	0		1		0	
	心筋交感神経	14		30		31	
	急性心筋梗塞	2		2		5	
	代謝+血流同時	30		50		18	
	負荷心筋(運動)	15		5		4	
	負荷心筋(薬剤)	98		90		91	
	心ブール	0		0		0	
	四肢血流(上肢)	0		0		0	
	四肢血流(下肢)	0		1		0	
	静脈血栓	0		0		0	
循環血漿流量	0	0	0				
呼吸器系	肺血流	7	13	1	2	1	2
	肺換気	6		1		1	
	静脈血栓	0		0		0	
消化器系	肝	0	2	0	3	0	0
	胆道	0		0		0	
	唾液腺	0		0		0	
	メッケル憩室	1		0		0	
	蛋白漏出試験	1		2		0	
	異所性胃粘膜	0		2		0	
	胃排泄能試験	0		0		0	
	門脈循環短絡	0		0		0	
消化管出血	0	3	3				
内分泌系	甲状腺	5	6	3	7	6	8
	副甲状腺	1		4		2	
腎尿路系	レノグラム	8	14	19	30	3	16
	レノグラム(負荷)	1		6		12	
	腎	3		4		1	
	副腎	2		1		0	
	精巣	0		0		0	
全身検索系	骨	233	273	179	206	166	190
	腫瘍・炎症	40		26		23	
	骨髄	0		1		0	
	リンパ節	0		0		1	
	筋血流	0		0		0	
合計		631		582		535	

(7) 放射線治療の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新患者数(人)	26	28	37
延治療件数(件)	576	588	769

(8) マンモグラフィーの状況

単位: 件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
ドック	375	303	391
外科	449	711	984
検診外科	791	651	618
合計	1,615	1,665	1,993

(9) 骨密度検査の状況

単位: 件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
延件数	923	940	1,069

(10) エコー検査の状況

単位: 件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
頸部	496	478	602
頸部血管	432	466	473
乳腺	1,280	1,169	1,280
腹部	2,151	2,288	2,382
その他 (四肢/生検/血管等)	488	513	724
合計	4,847	4,914	5,461

(11) 透視検査の状況

単位: 件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
ドッグ、健診外科胃透視	213	208	260
外科系	237	348	174
内科系(消化器科)	190	201	222
内科系(呼吸器科)	42	96	112
胸部、IVH挿入	14	2	17
腎尿路系	96	57	116
整形領域	16	23	34
その他	179	186	137
合計	987	1,121	1,072

(12) 血管造影の状況

単位: 件

循環器科 (3) 血管撮影検査の状況とは件数が異なります

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
冠動脈造影	375	215	242
冠動脈 ステント留置術	82	91	88
心筋灼熱術	0	0	0
下肢動脈	9	7	7
体外式ペースメーカー	25	10	18
その他	8	7	0
合計	490	330	355

脳神経外科

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
頭部血管造影	47	59	62
経皮的脳血管内手術 (脳動脈瘤)	7	11	17
経皮的脳血管内手術 (脳腫瘍)	1	2	0
経皮的脳血管内手術 (脳動静脈奇形)	0	3	4
脳血栓・塞栓溶解術	4	6	6
脳血管ステント留置術	8	6	5
合計	67	87	94

放射線科

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
肝動脈塞栓術	61	70	54
経皮的肝胆管 ステント挿入術	9	13	6
経皮的胆管 ドレナージ術	24	22	11
経皮的肝膿瘍 ドレナージ術	14	12	7
シャント拡張術	31	13	21
その他	4	3	3
合計	143	133	102

10 臨床検査の状況

(1) 各種検査件数

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
病 理 検 査	5,422	5,461	5,653
細 菌 検 査	9,289	8,104	11,012
生 化 学 ・ 免 疫 検 査	77,662	68,504	70,286
血 液 検 査	67,324	63,150	65,268
一 般 検 査（ 検 尿 ・ 検 便 ）	45,744	42,844	45,374
そ の 他（ 院 内 検 査 ）	62,575	46,795	55,411
輸 血 検 査	3,319	3,020	2,800
生 理 学 的 検 査	28,591	26,843	28,463
そ の 他（ 外 部 委 託 検 査 ）	13,516	13,038	13,369
合 計	313,442	277,759	297,636

(2) 生理機能検査件数

単位：件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
12 誘 導 心 電 図 検 査	14,577	12,021	11,922
3 分 間 心 電 図	159	138	199
マ ス タ ー 負 荷 心 電 図	347	322	499
ト レ ッ ド ミ ル 検 査	13	4	5
ホ ル タ ー 心 電 図	266	253	260
心 臓 超 音 波	3,595	3,381	3,701
そ の 他 循 環 器 領 域 超 音 波 検 査	117	98	114
経 食 道 心 臓 超 音 波	8	3	16
脳 波 検 査	169	152	159
神 経 伝 導 検 査	167	186	186
聴 性 脳 幹 反 応	7	13	20
ス パ イ ロ メ ト リ ー	1,592	1,598	1,575
可 逆 性 試 験	132	132	132
精 密 肺 機 能 検 査	50	110	143
ABI/PWV	616	610	618
CVR-R	25	64	76
心 臓 カ テ ー テ ル	455	303	332
OD テ ス ト	97	78	106
終 夜 睡 眠 ポ リ グ ラ フ ィ（ 簡 易 ）	39	28	42
終 夜 睡 眠 ポ リ グ ラ フ ィ	28	21	22
聴 力（ 検 査 室 で 施 行 ）	2,263	2,283	2,243
耳 鼻 咽 喉 科 依 頼 聴 力 検 査	539	817	1,012
自 動 ABR（ 新 生 児 聴 力 検 査 ）	282	228	260
残 尿 超 音 波 検 査	2,833	3,731	4,553
尿 素 呼 気 試 験（ UBT ）	161	141	125
小 腸 通 過 性 試 験（ パ テ ン シ ー ）	1	5	0
カ プ セ ル 内 視 鏡	12	5	7
そ の 他 生 理 機 能 検 査	41	102	136
合 計	28,591	26,827	28,463

(3) 血液製剤使用量 (単位数)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
赤血球	1,438	1,846	1,522
血小板	650	1,610	1,000
新鮮凍結血漿	204	282	118
自己血	2	4	4
アルブミン	2,313	3,175	3,029
合計	4,607	6,917	5,673

1.1 リハビリテーションの状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
理学療法【単位】	57,537	52,643	51,579
作業療法【単位】	26,996	28,001	34,017
言語聴覚療法【単位】	9,144	10,325	10,180
摂食機能療法(30分未満)【件数】	600	656	295
摂食機能療法(30分以上)【件数】	3,330	1,876	1,626
合計	97,607	93,501	97,697

1 2 患者給食及び栄養指導の状況

単位：食

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一般食	106,797	100,692	106,287
特別食	111,584	104,258	97,601
特別食割合	51.1%	50.9%	47.9%
経管栄養食	9,797	7,020	7,701
合計	228,178	211,970	211,589

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
栄養指導 (件)	入院指導	1,200	540	1,138
	外来指導	277	175	249
	集団指導	13	0	0
	N S T	678	315	486
	合計	2,168	1,030	1,873

1 3 死亡患者数及び病理解剖件数

	死亡患者数(人)			病理解剖件数(件)			病理解剖検査率(%)		
		男	女		男	女		男	女
平成20年度	300	199	101	12	10	2	4.0	5.0	2.0
平成21年度	252	156	96	12	9	3	4.8	5.8	3.1
平成22年度	226	142	84	10	8	2	4.4	5.6	2.4
平成23年度	212	118	94	4	2	2	1.9	1.7	2.1
平成24年度	222	129	93	10	4	6	4.5	3.1	6.5
平成25年度	204	126	78	4	3	1	2.0	2.4	1.3
平成26年度	236	145	91	12	6	6	5.1	4.1	6.6
平成27年度	292	173	119	3	2	1	1.0	1.2	0.8
平成28年度	285	163	122	11	8	3	3.9	4.9	2.5
平成29年度	300	178	122	2	2	0	0.7	1.1	0.0
平成30年度	270	175	95	10	9	1	3.7	5.1	1.1
令和元年度	301	185	116	10	9	1	3.3	4.9	0.9
令和2年度	333	201	132	7	5	2	2.1	2.5	1.5
令和3年度	337	196	141	5	4	1	1.5	2.0	0.7

1 4 患者相談の状況

(1) 患者相談の状況

単位：件

	令和元年度
診療に関する事	298
療養生活に関する事	4,407
医療費に関する事	13
制度について	58
セカンドオピニオン	1
その他	53
合計	4,830

※「療養生活に関する事」は退院支援の相談を含む

(2) 病院に対するご要望の状況

単位：件

	令和元年度
診療に関する事	55
職員の対応に関する事	39
設備・システムに関する事	2
医療費に関する事	3
その他	5
合計	104

相談内容件数

単位：件

項目	令和2年度	令和3年度
診療に関する事	211	190
療養生活に関する事	54/3121(MSW)	62/2948(MSW)
職員の対応に関する事	15	63
医療費に関する事	4	10
設備・システムに関する事	10	13
制度について	26	24
セカンドオピニオン	1	0
その他	38	33
合計	3480	3343

※「療養生活に関する事」は退院支援の相談を含む

令和2年より相談件数内に要望を統合し、内容を分類する方法に変更しました。

(3) 入院説明・案内の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入院説明をした患者数(人)	5,212	4,574	4,181
全入院に対する割合(%)	92.3	90.6	75.4
病棟案内をした患者数(人)	1,994	1,746	1,808
全入院に対する割合(%)	35.3	34.6	32.6

(4) ボランティアの活動状況

(令和3年度)

○活動人数 12名

○活動時間 午前8時～午後13時

○活動状況

・活動延べ人数 463人(R2年度393人)

・活動延べ日数 237日(R2年度175日)

・一日平均活動人数 1.9人

○活動内容

- ・新規患者受付の案内
- ・再診受付機の案内
- ・自動精算機の案内
- ・再診受付機・自動精算機の除菌清掃
- ・車椅子の整備(空気入れ等)
- ・各科外来、検査室への案内
- ・入院時の病棟への案内
- ・正面玄関フロア、病院前バス停の清掃
- ・エレベータ昇降時の見守り
- ・子ども連れの方への受診の手伝い
- ・タッチパネルの除菌清掃
- ・緩和ケア用 乳房補整パット制作

1 5 地域医療連携の状況

(1) 紹介及び逆紹介の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
全診療情報提供書受理数	5,659	5,677	6,777
紹介患者(初診) A	3,369	3,001	3,560
初診料算定患者 B	13,921	11,272	15,387
救急車搬送患者(初診のみ) C	931	1,090	1,192
外来時間外患者(初診のみ) D	4,594	3,058	3,483
逆紹介数(診療情報料算定) E	4,765	4,781	5,290
紹介率(%) ※1	40.1	42.1	33.2
逆紹介率(%) ※2	56.8	67.1	49.4

※1 紹介率(%)=[A/{B-(C+D)}]*100

※2 逆紹介率(%)=[E/{B-(C+D)}]*100

(2) 開放型病床(20床)の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用医師数(実人数)	188(24)	202(24)	189(25)
利用患者数(実人数)	6,995(536)	6844(502)	6653(507)
利用率(%)(*3)	95.8	93.8	91.1

(*3)利用率=((開放型病床利用延べ入院患者数)/(開放型病床数×365日))

(3) 地域包括ケア病棟の状況

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
地域包括ケア病棟(71床)	延日数(日)	22,052	21,094	
	利用率	84.8%	82.5%	

(4) 退院支援の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
退院支援介入人数(年間)	1,829	1,733	1,699
退院支援人数(月平均)	284	270	268
退院支援算定数	1,004	481	387
退院前カンファレンス(回)	424	404	466

(5) 地域連携パスの状況

単位:人

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
大腿頸部骨骨折連携パス	3	0	0
脳卒中地域連携パス	9	26	10
急性心筋梗塞・狭心症連携パス	1	0	0

(6) ふくいメディカルネット運用件数

単位:件

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
二州地区閲覧病院	301(66)	206(41)	153(21)
その他地区閲覧病院	5(1)	3(0)	4(0)
開示病院	324(189)	282(124)	315(118)
合計	630(256)	491(165)	472(139)

()は当院の同意取得件数

1.6 医療安全の状況

(1) インシデント・アクシデントレポートの提出状況

単位:枚

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
薬剤	647	676	843
輸血	169	160	186
治療・処置	82	66	44
ドレイン・チューブ	118	121	123
検査	228	309	362
療養上の世話	88	74	191
医療機器等	102	230	424
転倒	76	42	74
転落	5	18	13
その他	277	360	377
合計	1,792	2,056	2,637

17 院内がん登録の状況（令和3年1月～12月）

(1) 部位別院内がん登録状況

単位:件

部位	総数	治療開始後	初発	性別		STAGE別										治療の有無		
				男	女	0	I	II	III	IV	その他	該当せず	治療終了後	外科的	体腔的	内視鏡的		
全 部 位	557	74	483	284	273	32	178	74	69	85	15	30	74	104	32	63		
口 唇 - 咽 頭	5	2	3	3	2	0	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0		
食 道	13	1	12	12	1	3	5	1	1	2	0	0	1	0	0	7		
胃	46	0	46	41	5	0	31	4	4	6	1	0	0	10	3	18		
結 腸	58	2	56	31	27	4	15	10	10	8	9	0	2	13	20	14		
直 腸 - 肛 門	25	1	24	16	9	1	6	4	7	5	1	0	1	12	4	4		
肝 臓	17	3	14	11	6	0	8	1	2	1	0	2	3	2	0	0		
胆 嚢 - 胆 管	15	0	15	10	5	0	8	4	1	2	0	0	0	3	0	0		
膵 臓	19	1	18	7	12	0	1	3	3	11	0	0	1	2	0	0		
鼻腔・中耳・副鼻腔	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		
喉 頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
肺 - 気管 支	53	5	48	37	16	0	8	2	9	29	0	0	5	1	0	0		
骨 - 軟 部 組 織	3	0	3	0	3	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0		
皮 膚	7	1	6	6	1	0	5	1	0	0	0	0	1	2	0	0		
乳 房	135	33	102	1	134	8	42	29	15	7	1	0	33	49	0	0		
子 宮 頸 部	6	0	6	0	6	2	2	1	1	0	0	0	0	2	0	0		
子 宮 体 部	6	0	6	0	6	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
卵 巢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
前 立 腺	60	9	51	60	0	0	27	5	11	7	1	0	9	1	0	1		
腎	5	3	2	3	2	0	0	0	0	1	1	0	3	0	0	0		
腎 盂 - 尿 管	5	0	5	3	2	1	1	2	1	0	0	0	0	0	4	0		
膀 胱	21	1	20	18	3	13	2	3	1	1	0	0	1	1	0	19		
脳 - 神 経	16	2	14	3	13	0	0	0	0	0	0	14	2	1	0	0		
甲 状 腺	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0		
リンパ腫・骨髄腫	14	4	10	6	8	0	4	2	1	1	0	2	4	1	0	0		
白 血 病	5	2	3	4	1	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0		
骨髄増殖性疾患	7	1	6	1	6	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0		
原発部位不明	4	0	4	2	2	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0		
そ の 他	9	0	9	8	1	0	6	0	2	1	0	0	0	4	1	0		

※院内がん登録は、当院初発がん患者を対象としており、性別、入院の有無、ステージ別及び治療の有無については、初発がん患者の内訳となっている。

(2) 経緯別院内がん登録の状況

単位: 件

来院経路	登録数
自 主 的 受 診	110
他 施 設 か ら の 紹 介	287
自施設での他疾患経過観察中	160
そ の 他	0
不 明	0
合 計	557

発見経緯	登録数
がん検診・健康診断・人間ドック	37
他疾患の経過観察中の偶然発見	210
剖検発見（A i を含む）	0
そ の 他	257
不 明	53
合 計	557

症例区分	登録数
診 断 の み	74
自施設診断・自施設初回治療開始	331
自施設診断・自施設初回治療継続	0
他施設診断・自施設初回治療開始	26
他施設診断・自施設初回治療継続	47
初 回 治 療 終 了 後	74
そ の 他	5
合 計	557

VI DPCの概要

1 DPC係数の状況

(令和4年4月時点)

係数	内訳	係数	
機能評価係数I	急性期一般入院料4	0.0218	
	診療録管理体制加算	0.0031	
	医師事務作業補助体制加算1(15:1)	0.0365	
	急性期看護補助体制加算(25:1)5割以上	0.0610	
	看護職員夜間配置加算(16:1)	0.0178	
	医療安全対策加算1	0.0030	
	医療安全対策地域連携加算1	0.0017	
	感染対策向上加算(1 感染対策向上加算1)	0.0247	
	感染対策向上加算(1 指導強化加算)	0.0010	
	後発医薬品使用体制加算(2 後発医薬品使用体制加算2)	0.0013	
	検体検査管理加算IV	0.0130	
	データ提出加算2	0.0052	
	地域医療体制確保加算	0.0216	
		小計	0.2117
機能評価係数II	保険診療係数	0.01764	
	効率性係数	0.02006	
	複雑性係数	0.01554	
	カバー率係数	0.01257	
	地域医療係数		0.02851
		体制評価係数	0.01024
		定量評価係数(小児)	0.00823
		定量評価係数(小児以外)	0.01004
	救急医療係数	0.01445	
		小計	0.1088
基礎係数	DPC標準病院群	1.0395	
医療機関別係数		1.3600	

2 DPC/PDPSにおけるMDC2桁分類(令和3年度) *地域包括ケア病棟直接入院分は含まず

MDC2桁コード	件数	平均在院 日数(日)	入院期間率				DPC 1日当り 平均(円)	
			入院期間Ⅰ	入院期間Ⅱ	入院期間Ⅲ	入院期間Ⅲ超		
01	神経系疾患	352	20.1	23.9%	33.8%	34.9%	4.5%	47,689
02	眼科系疾患	4	2.0	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	99,891
03	耳鼻咽喉科系疾患	86	5.2	8.1%	59.3%	32.6%	0.0%	43,582
04	呼吸器系疾患	695	13.4	18.6%	44.5%	27.8%	2.6%	42,725
05	循環器系疾患	472	10.0	11.9%	59.7%	26.5%	1.5%	69,373
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	1,147	12.1	11.4%	39.8%	43.2%	3.9%	50,529
07	筋骨格系疾患	217	18.9	18.4%	45.6%	29.0%	6.5%	65,545
08	皮膚・皮下組織の疾患	43	9.6	9.3%	48.8%	30.2%	0.0%	41,052
09	乳房の疾患	123	9.8	22.0%	36.6%	35.8%	4.1%	60,440
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	142	11.3	20.4%	43.7%	34.5%	1.4%	37,834
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	681	9.7	12.9%	52.4%	30.4%	3.4%	49,515
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	299	7.1	34.1%	24.1%	39.8%	2.0%	50,947
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	38	14.0	34.2%	23.7%	39.5%	2.6%	53,485
14	新生児疾患、先天性奇形	94	9.4	12.8%	59.6%	25.5%	2.1%	38,022
15	小児疾患	22	5.5	13.6%	50.0%	36.4%	0.0%	50,663
16	外傷・熱傷・中毒	389	15.0	18.0%	41.4%	37.3%	2.8%	52,882
17	精神疾患	8	4.4	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%	45,139
18	その他	230	10.7	6.1%	7.4%	7.4%	0.0%	71,493
統計		5,042	12.2	16.1%	42.3%	33.1%	3.0%	52,026

VII 研究業績

1 診療部

内科

(論文)

- 1, Predictive value of 3' -deoxy-3' -¹⁸F-fluorothymidine PET in the early response to anti-programmed death-1 therapy in patients with advanced non-small cell lung cancer
Masayuki Sato, Yukihiro Umeda, Tetsuya Tsujikawa, Tetsuya Mori, Miwa Morikawa, Masaki Inzai, Yuko Waseda, Maiko Kadowaki, Yasushi Kiyono, Hidehiko Okazawa, Tamotsu Ishizuka
Journal for immunotherapy of cancer. 2021; 9: e003079.
- 2, Successful Re-administration of nivolumab for a Non-small-cell Lung Cancer Patient after Cardiac Tamponade Development as a Manifestation of Pseudo-progression Induced by Combination Treatment with nivolumab and Cytotoxic Chemotherapy.
Nakashima K, Demura Y, Sato M, Fujii Y, Igarashi K, Ishizuka T.
Intern Med. 2021 Sep 15;60(18):3009-3013.
- 3, nivolumab case of non-small cell lung cancer presenting anti-amphiphysin antibody-positive paraneoplastic neurological syndrome.
Nakashima K, Fujii Y, Sato M, Igarashi K, Kobayashi M, Ishizuka T.
Respir Med Case Rep. 2021 Oct 7;34:101525.

(学会発表)

- 1, 腹膜透析の導入により交通性陰嚢水腫を認めた 1 例
松田優治、小林元夫、清水和朗
第 51 回日本腎臓学会西部学術大会, 2021 年 10 月, 福井市 WEB
- 2, Effects of eicosapentaenoic acid on serum levels of selenoprotein P and organ-specific insulin sensitivity in humans with dyslipidemia and type 2 diabetes
Takehita Y, Teramura C, Kamoshita K, Takayama H, Nakagawa H, Enyama Y, IshiiKA, Tanaka T, Goto H, Nakano Y, Osada S, Tanaka Y, Tokuyama K, Takamura T.
J Diabetes Investig. 2022 Mar;13(3):532-542.
- 3, 当院における糖尿病医療連携の有用性と連携継続に影響する因子の検討
中田 竜介, 古村 芳樹, 中川 浩実, 赤堀 弘
第 64 回 日本糖尿病学会年次学術集会, 2021 年 5 月, WEB
- 4, SGLT2 阻害薬内服中にフルニエ壊疽を発症した高齢寝たきり 2 型糖尿病の 1 例
林 萌乃果、横山 拓也、中川 浩実、岡田 昌裕、太田 肇、米島 学
第 245 回 日本内科学会北陸地方会, 2021 年 9 月, 石川県
- 5, Bronchiolitis obliterans after bone marrow transplantation diagnosed by ultrathin bronchoscopy: nivolumab case report

Masayuki Sato, Yuko Waseda, Tomoaki Sonoda, Koji Yamaoka, Satomi Kimura, Ryo Chikazawa, Kousuke Kurokawa, Miho Mitsui, Shikazu Shimada, Makiko Yamaguchi, Chisato Honjo, Maiko Kadowaki, Yukihiko Umeda, Masaki Enzai, Shihiko Tanizawa, Harumi Itoh, Motohiro Kobayashi, Tamiko Takemura, Tamotsu Ishizuka

THE 25th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology. 2021 年 10 月

6, mixed HHS and DKA syndrome で発症した高齢劇症 1 型糖尿病の 1 例 林

萌乃果、中川 浩実、横山 拓也、太田 肇、米島 學

第 246 回 日本内科学会北陸地方会, 2022 年 3 月, 富山県

消化器内科

(論文)

1, Lenvatinib-induced tumor lysis syndrome in a patient with advanced hepatocellular carcinoma: a case report

Yoshiaki Shimizu, Hajime Sunagozaka, Koki Yamagata, Hirokazu Hirai, Miyabi Miura, Yuichiro Yonemoto, Yoshihide Naito, Kenkei Hasatani, Jun Yoshikawa, Hiroyuki Aoyagi, Shuichi Kaneko.

Clin J Gastroenterol 2021;14(2):645-649

2, Hideo Takayama, Takuya Komura, Takashi Kagaya, Saiho Sugimoto, Noriaki Orita, Yoshiro Asahina, Masashi Nishikawa, Hajime Ohta, Shuichi Kaneko, and Masashi Unoura.

Canadian Journal of Gastroenterology and Hepatology Volume 2021, Article ID 3259833, 8 pages

(学会発表)

1, 脾動脈浸潤により大量の吐血を来した進行胃癌の 1 例

熊井達男、宮澤正樹、川上巧、原田憲一、太田肇、米島學

第 131 回消化器病学会北陸支部例会, 2021 年 6 月, 富山県

2, 食道ステント破損を合併した進行バレット食道癌の 1 例 酒

井悟臣、清水吉晃、熊井達男、川上巧、太田肇、米島學

第 116 回消化器内視鏡学会北陸支部例会, 2021 年 6 月, 富山県

3, 術前に範囲診断が困難であったPanIN の一例

川上巧、清水吉晃、熊井達男、太田肇、米島學、永野秀樹 第

132 回消化器病学会北陸支部例会, 2021 年 10 月, 石川県

(講演)

1, 第 1 部 「カメラでみつけてカメラで治す胃がんの新時代」

清水吉晃

日本消化器病学会北陸支部第 81 回市民公開講座, 2021 年 12 月, WEB

2, 第 3 部「膵臓がんの診断と治療の最前線～正しく知って備えよう～」

川上巧

日本消化器病学会北陸支部第 81 回市民公開講座, 2021 年 12 月, WEB

- 3, 第4部 「肝臓がんはもう怖くない、正しい予防と治療」

太田肇

日本消化器病学会北陸支部第 81 回市民公開講座、2021 年 12 月, WEB

小児科

(論文)

- 1, 再発急性リンパ性白血病に対する骨髄移植の 3 か月後に発症した治療関連心機能障害の
診療経験

佐野正太郎、吉川利英、有賀譲、鈴木孝二、谷澤昭彦、田村知史、大嶋勇成

日本小児血液・がん学会雑誌

(学会発表)

- 1, 福井県の小中学校心電図検診の実態調査～福井県小児科医会学校心電図ワーキンググル
ープの活動報告～

福井県小児科医会学校心電図ワーキンググループ西田公一、岡崎新太郎、田村知史、酒
井武彦、石原靖紀、大中正光、笠原善仁

第 25 回日本小児心電学会学術集会, 2022 年 2 月, 新潟

- 2, 福井県の小中学校心電図検診の実態調査結果

福井県小児科医会心電図検診ワーキンググループ西田公一、岡崎新太郎、田村知史、
酒井武彦、石原靖紀、原慶和、森夕紀子、木村学

第 68 回福井県小児保健協会学術集会, 2022 年 4 月, 福井3,

- ロミプロスチムが奏功した難治性免疫性血小板減少症の男児

佐野正太郎、吉川利英、有賀 譲、鈴木孝二、谷澤昭彦、田村知史、大嶋勇成

第 334 回日本小児科学会北陸地方会, 2022 年 3 月, 富山

(講演)

- 1, こどもの急病時の対処法について

安藤徹

こどもの急病時の対処法についての講習会, 2021 年 11 月, 敦賀市

外科

(学会発表)

- 1, 関節リウマチに対しトシリズマブ投与中、炎症反応上昇を伴わない回腸穿孔をきたし
た一例

眞柄里衣、呉林秀崇、田海統之、澤井利次、森川充洋、小練研司、玉木雅人、村上真、
廣野靖夫、五井孝憲

第76回日本消化器外科学会総会, 2021 年 7 月, 京都市

- 2, 大腸癌手術の術前 DVT screening におけるD-dimer の有用性
山田起三子、森川充洋、田海統之、呉林秀崇、澤井利次、小練研司、玉木雅人、村上真、廣野靖夫、五井孝憲
 第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都市
- 3, 大腸癌における GRHL2 発現と臨床病理学的因子や予後との関連性
浅井いづみ、田海統之、呉林秀崇、澤井利次、森川充洋、小練研司、玉木雅人、村上真、廣野靖夫、五井孝憲
 第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都市
- 4, 直腸癌切除後異時性右腋窩リンパ節転移巣に異所性骨化を生じた1例
永野秀樹、戸川保、渡邊剛史、大西顕司、木村俊久、飯田敦、法木左近、今村好章、佐藤保則、五井孝憲
 第76回日本消化器外科学会総会, 2021年7月, 京都市
- 5, MDCT, oblique MPR 画像が診断に有用であった transmesosigmoidhernia の一例
小野秀樹、林泰生、上藤聖子、嶋田通明、福岡秀哲、木船孝一、五井孝憲
 第19回日本消化器外科学会大会 (JDDW2021), 2021年11月, 神戸市
- 6, 大腸癌手術における術前 D-dimer 測定の意義と DVT に対する対応
山田起三子、森川充洋、嶋田通明、田海統之、呉林秀崇、澤井利次、小練研司、玉木雅人、村上真、廣野靖夫、前田浩幸、五井孝憲
 第83回日本臨床外科学会総会, 2021年7月, 東京都

乳腺外科

(学会発表)

- 1, Watchful waiting を選択した乳房デスモイド型線維腫症の1例
矢尾祥子、横井繁周、上藤聖子、前田浩幸、五井孝憲
 第29回日本乳癌学会学術総会, 2021年7月, 横浜市

整形外科

(論文)

- 1, The Utility of the Energy Subtraction Method for Thoracic Spine Radiography in Clinical Practice
Shimizu T, Sasagawa T, Kawamura N, Masuyama S, Tachibana N, Emori H, Iizuka M, Ishikura H, Suzuki K, Kuwabara T, Tsuchiya H, Kunogi J.
 An Analysis of 25 Patients With Multiple Myeloma. Orthopedics 2021; 44: e31-e35
- 2, Protective Function of the Spinal Meninges in a Mouse Model of Tumor-induced Spinal Cord Compression
Shimizu T, Demura S, Kato S, Shinmura K, Yokogawa N, Yonezawa N, Oku N, Kitagawa R, Handa M, Annen R, Nojima T, Murakami H, Tsuchiya H.
 Radiation Disrupts the. Clin Orthop Relat Res 2021; 479: 163-176
- 3, 脊椎転移診療における放射線照射のリスク

清水貴樹

臨整外 2021 ;56: 1257-1261

(学会発表)

- 1, びまん性特発性骨増殖症を合併した腰部脊柱管狭窄症患者におけるロコモおよび運動機能評価 強直部位別比較
清水貴樹、加藤仁志、出村諭、新村和也、横川文彬、黒川由貴、半田真人、安念遼平、小林源哉、山田遥平、土屋弘行
第 50 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2021 年 4 月, 京都
- 2, 放射線照射による硬膜バリア機構の破綻 腫瘍脊髄圧迫モデルマウスを用いた検討清水貴樹、出村諭、加藤仁志、新村和也、横川文彬、半田真人、安念遼平、野島孝之、村上英樹、土屋弘行
第 94 回日本整形外科学会学術総会, 2021 年 5 月, 東京都
- 3, Radiation Disrupts the Protective Function of the Spinal Meninges in a Mouse Model of Tumor-induced Spinal Cord Compression
Shimizu T, Demura S, Kato S, Shinmura K, Yokogawa N, Tsuchiya H
2022 Annual Meeting of the American Academy of Orthopedic Surgeons, Chicago, US
2022 年 4 月, サンディエゴ アメリカ
- 4, Factors influencing instrumentation failure after total en bloc spondylectomy
Shimizu T, Demura S, Kato S, Shinmura K, Yokogawa N, Tsuchiya H
2022 Annual Meeting of the American Academy of Orthopedic Surgeons, Chicago, US
2022 年 3 月, シカゴ アメリカ
- 5, The influence of irradiation on protective function of spinal dura mater in mice
Shimizu T, Demura S, Kato S, Shinmura K, Yokogawa N, Tsuchiya H
2022 Annual Meeting of the American Academy of Orthopedic Surgeons, Chicago, US
2022 年 3 月, シカゴ アメリカ
- 6, アキレス腱部皮膚欠損に逆行性浅腓腹動脈皮弁を行った際の除圧を目的とした ” やぐらいらす ” の有用性
石原由基、山内大輔
第 136 回中部日本整形災害外科学会, 2021 年 4 月, WEB
- 7, 若年者の大腿骨顆上部に生じた疲労骨折の 1 例
本田宗一郎、清水貴樹、山本崇史、田尻和八
第 136 回中部日本整形災害外科学会, 2021 年 4 月, WEB
- 8, 若年者の大腿骨顆上部に生じた疲労骨折の 1 例
柳下信一
第 13 回 JOSKAS 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2021 年 6 月, 札幌市 (Web 発表)

脳神経外科

(学会発表)

- 1, くも膜下出血後の脳血管攣縮の3例
細田哲也、山田慎太郎、荒井大志、新井良和
第242回福井脳神経疾患談話会, 2021年5月, WEB開催
- 2, 硬膜動静脈瘻に対し、選択的経静脈的塞栓術を施行した2例
山田慎太郎、荒井大志、細田哲也、新井良和
第13回福井脳神経外科歳末研究会, 2021年12月, 福井市

(講演)

- 1, 心原性脳塞栓症と医療連携～二次予防の立場から～
新井良和
福井脳卒中連携 Web セミナー, 2022年2月, 福井市

耳鼻咽喉科

(学会発表)

- 1, 頸部に発生したランゲルハンス細胞肉腫の1例
宮本大輔、成田憲彦、菅野真史、意元義政、岡本昌之、藤枝重治
第31回日本頭頸部外科学会総会, 2022年3月, 大阪市
- 2, 頸部の排膿と抗菌薬で軽快したBezold膿瘍の経験
青木由宇
第83回耳鼻咽喉科臨床学会, 2021年6月, 札幌市
- 3, Epstein-Barr viruses (EBV) infection is prevalent in adenoid and palatine tonsils of adults and children
Yoshitaka Aoki, Noriko Seishima, Harue Mizokami, Eiji Kobayashi, Satoru Kondo, Tomokazu Yoshizaki.
The 19th International Symposium on Epstein-Barr Virus and associated diseases, 2021年7月, 旭川市

皮膚科

(論文)

- 1, The first case report of multiple familial trichoepitheliomas responding successfully to topical benzoyl peroxide: A possible therapeutic action underlying structural turnover and antiinflammation.
Sayuri Okamura, Noritaka Oyama, Minoru Hasegawa.
Indian Journal of Dermatology. 2022 ;67 67-68

神経科精神科

(論文)

- 1, Paradoxical changes in mood-related behaviors on continuous social isolation after weaning
Hiyori Matsumoto, Naoto Omata, Yasushi Kiyono, Tomoyuki Mizuno, Kayo Mita, Hiroataka Kosaka.
Exp Brain Res 2021; 239(8): 2537-2550.

歯科口腔外科

(学会発表)

- 1, 超音波エラストグラフィーを用いた健常者における咬筋の機能評価
篠島 悠、大井一浩、川野晃誠、山下耀子、植木皓介、定梶 嶺、伊藤達郎、麩谷圭昭、小林一彦、吉田 完、長谷剛志、小山岳海、川尻秀一
第 34 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会, 2021 年 7 月, WEB 2,
顎関節症との鑑別を必要とした咀嚼筋痛を伴う放射線性下顎骨骨髓炎の 1 例
定梶 嶺、大井一浩、川野晃誠、篠島 悠、山下耀子、植木皓介、伊藤達郎、麩谷圭昭、小林一彦、吉田 完、小山岳海、川尻秀一
第 34 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会, 2021 年 7 月, WEB 3,
当院における周術期口腔機能管理の現状と今後の課題
吉田 完、箱田京介、長谷剛志、高塚茂行、大井一浩、川尻秀一
第 46 回(公社)日本口腔外科学会中部支部学術大会, 2021 年 10 月, 金沢

麻酔科

(学会発表)

- 1, 肥満患者における肺胸郭コンプライアンスのトレンド表示の有用性
田中克弥、松木悠佳、藤永菜摘、西川 緑、三橋梓実、重見研司第
68 回日本麻酔科学会総会, 2021 年 6 月, WEB
- 2, ロボット麻酔システムと麻酔科医によるロクロニウム持続投与の調節精度と筋弛緩拮抗薬投与からの回復の比較
青木 緑、松木悠佳、長田 理、松田修子、萩野芳弘、重見研司
第 68 回日本麻酔科学会総会, 2021 年 6 月, WEB
- 3, 妊娠後期に急性大動脈解離を発症した Marfan 症候群疑い患者の麻酔経験
青木 緑、松木悠佳、神澤聖一、次田佳代、齋藤律子、重見研司
東海・北陸支部第 19 回学術集会, 2021 年 10 月, WEB

2 医療支援部

(学会発表)

- 1, with コロナ時代の患者満足度向上を目的としたイベント企画開催への取り組み 今井裕子、川田拓、安野静、吉本千鶴、荒木隆一、三田村康仁
第59回自治体病院学会In 奈良, 2021年11月, 奈良県
- 2, 家族の思いをチーム医療へ反映できず望む暮らしに対し十分な支援に至らなかった
ケース～認知症高齢者の事例～
中根奈見子、田辺靖晶、山崎貴代美、荒木隆一、細田哲也
第59回自治体病院学会In 奈良, 2021年11月, 奈良県
- 3, やりたいカンファレンスから求められるカンファレンスへ
～退院前カンファレンスにおける事前準備と『つなぐシートの活用』～ 加
土千紘、田辺靖晶、山崎貴代美、荒木隆一
医療マネジメント学会 福井支部大会, 2022年2月, 福井県 WEB
- 4, 地域医療連携を考える 2025年そして2040年を見据えて
荒木隆一
第25回中国病院薬学研究会, 2022年2月, WEB

(講演)

- 1, 2040年を見据えた地域医療連携を考える
荒木隆一
長野県薬剤師会病診部会, 2021年10月, WEB
- 2, 薬業連携セミナー入門編～連携により働き方が変わる！～
2025年そして2040年を見据えた地域医療連携を考える
荒木隆一
新潟県薬剤師会, 2021年10月, WEB
- 3, 地域包括ケア時代における病院薬剤師の役割
荒木隆一
Shiribeshi Pharmacy Director Seminar, 2021年11月, WEB
- 4, 2025年と2040年 2つのミライを見据えた医療連携を考える
荒木隆一
宮城県病院薬剤師会, 2021年10月, WEB
- 5, 医療機関と薬局の連携体制の構築(心不全の薬物療法を軸に)
荒木隆一
日本薬剤師会, 2022年2月, WEB
- 6, 薬剤師連携の目指すべき未来
荒木隆一

在宅医療推進室

(学会発表)

- 1, A病院の退院支援における医療材料提供体制構築に向けての取り組み

近江谷未幸・服部祥子・田辺里江

第 37 回福井県看護学会, 2021 年 9 月, 福井県

3 医療技術部

放射線室

(学会発表)

- 1, 症例報告「頭頸部」

蓮本 享佑

福井県診療放射線技師会 第 10 回読影の補助セミナー, 2021 年 9 月, WEB

- 2, 福井県放射線管理士部会活動報告

～原子力災害活動について～

山崎 巖

福井県診療放射線技師会

特別講演会「復興と福島第一原発の廃炉の現状」, 2021 年 10 月, WEB

- 3, 知っておこう！乳がん検診から精密検査まで」検診施設での乳がん検診について

野竹 葵

福井県診療放射線技師会 第 11 回読影の補助セミナー, 2021 年 11 月, WEB

- 4, 症例報告「Aquilion One を用いた当院頭頸部3DCTA プロトコル」

松山 聡

画論 29th The Best Image, 2021 年 12 月, WEB

検査室

(論文)

- 1, 便培養コロニーを用いたClostridioides difficile 特異抗原および毒素検出における
C. DIFF QUIK CHEK コンプリートの多施設臨床性能評価

原稔典, 鈴木広道, 大柳忠智, 小柳紀人, 宇敷明人, 川端直樹, 後藤美紀, 飛田征男, 矢口勇治, 玉井清子, 野竹重幸, 上村桂一, 檜山誠也, 南木融, 鈴木諭, 山崎洋, 木村秀樹, 國島広之, 大毛宏喜

日臨微生物会誌 2021;31:38-43

(著書)

- 1, 耐性菌迅速検出を目的としたスクリーニング培地の利用方法
川端直樹,堀内美里
検査と技術 2021;49:800-806

(学会発表)

- 1, 全自動遺伝子分析装置 GENECUBE を用いた Clostridioides difficile 毒素遺伝子検出試薬の多施設性能評価試験
川端直樹, 原稔典, 大柳忠智, 上村桂一, 宇敷明人, 後藤美紀, 飛田征男, 矢口勇作, 櫻山誠也, 鈴木広道, 國島広之, 大毛宏喜
第 50 回日本嫌気性菌感染症学会, 2021 年 5 月, WEB
- 2, 心エコー図検査にて心サルコイドーシスの炎症初期を捉えその後経時的な変化を観察し得た一例
河野裕樹, 寺島美佳子, 坊直美, 川端直樹, 深川浩史, 岡部佳孝, 三田村康仁
第 142 回日本循環器学会 北陸地方会, 2021 年 6 月, WEB
- 3, 心臓カテーテル治療における記録の充実と情報共有 ～診療報酬算定に貢献できた取り組み～
河野裕樹, 山本拓未, 寺島美佳子, 坊直美, 川端直樹, 深川浩史, 岡部佳孝, 三田村康
第 59 回全国自治体病院学会, 2021 年 11 月, WEB
- 4, 検査室のチーム力向上を目的とした目標管理制度への取り組み
川端直樹, 秋山綾子, 増井正清, 新井良和
第 59 回全国自治体病院学会, 2021 年 11 月, WEB
- 5, チーム医療における次世代育成の為の工夫
河野裕樹
第 60 回日臨技近畿支部医学検査学会シンポジウム, 2021 年 11 月, WEB 6,
効果的な Antimicrobial stewardship に繋げる Diagnostic stewardship
川端直樹
第 60 回日臨技近畿支部医学検査学会シンポジウム, 2021 年 11 月, WEB

(講演)

- 1, 心血管エコー検査 Q&A
河野裕樹
第 2 回 京滋福 web セミナー, 2021 年 6 月, WEB
- 2, 検査機器導入にあたり検討すべきこと ～自施設で試薬検討できますか?～
東正浩
第 5 回 臨床免疫化学検査部門研修会, 2021 年 9 月, WEB
- 3, これだけは知ってほしい!～抗原検査キットの基礎知識～
川端直樹

福井県薬剤師会【緊急企画】抗原検査に関する研修会 福井県薬剤師会【緊急企画】抗原検査に関する研修会, 2021年10月, 福井市

- 4, 血管エコー症例検討会(高血圧心不全の1症例)

河野裕樹

第7回 京滋福 web セミナー, 2022年1月, WEB

- 5, ジーンキューブ® マイコプラズマ・ニューモニエ ～臨床への有用性～

川端直樹

第8回 GC研究会, 2022年3月, WEB

リハビリテーション室

(学会発表)

- 1, 当院リハビリテーション職員の個人目標は役職に応じているか ～カツのマネジメントモデルを用いた検討～

増井正清、高井悦子

第58回日本リハビリテーション医学学会, 2021年6月, WEB

- 2, 当院外来心臓リハビリテーションの実績と10年の経験から感じる心不全管理の現状と課題

高木隆幸

福井県心不全治療研究会, 2021年10月, 福井市

- 3, 運動習慣の有無と各種臨床指標との関連 ～高齢2型糖尿病患者における検討～

増井正清、道野将也

第59回全国自治体病院学会, 2021年11月, 奈良市

- 4, 心臓リハビリテーションチームを病院内委員会として設立した効果について

高木隆幸

第59回全国自治体病院学会, 2021年11月, 奈良市

- 5, 終末期がん患者に対する緩和的理学療法の有効性の検討

森田圭

第59回全国自治体病院学会, 2021年11月, 奈良市

- 6, 作業療法士の新入職員教育における指導方法が新入職員の自信の変化に与える影響について

道野将也、増井正清

第59回全国自治体病院学会, 2021年11月, 奈良市

(講演)

- 1, 1)福井県心筋梗塞連携パス報告

2)コロナ禍における当院外来心リハの取り組みと課題

森田圭

福井冠疾患治療を考える会 2021, 2021年6月, 福井市

2, 摂食嚥下障害者のケアと食事介助

中澤久夫

令和3年度 介護職員等訪問指導研修, 2021年7月, 坂井市3,

摂食嚥下障害者のケアと食事介助

中澤久夫

令和3年度 介護職員等訪問指導研修, 2021年8月, 坂井市4,

運動療法

増井正清

第22期 福井糖尿病療養指導担当者教育講習会, 2021年10月, 福井市5,

当院外来心臓リハビリテーションにおける効果と課題

高木隆幸

第5回福井心不全治療研究会, 2021年10月, 福井市6,

糖尿病療養指導における当院リハ室の立ち位置と役割

増井正清

Diabetes Relationship Seminar in 福井, 2021年12月, 福井市

薬剤部

(論文)

1, Association of methicillin resistance with mortality of hospital-acquired Staphylococcus aureus bacteremia

Aratani T, Tsukamoto H, Higashi T, Kodawara T, Yano R, Hida Y, Iwasaki H, Goto N.

J Int Med Res. 2021 Nov;49(11):1-12

(学会発表)

1, 中小病院における薬剤アシスタントへのタスクシフトの現状と課題佐

藤友美、新谷智則、竹田美佳、高橋真祐子、川勝美紀、荒木隆一第

59回全国自治体病院学会, 2021年1月, 奈良

2, 抗がん剤遠隔監査システムの構築とその有用性

新谷智則、佐藤友美、山本佳穂、渡辺弘彬、窪田いつみ、竹田美佳、高橋真祐子、川勝美紀、荒木隆一

第59回全国自治体病院学会, 2021年1月, 奈良

(講演)

1, 病棟活動で生かせる抗菌薬のあれこれ

新谷智則

福井県病院薬剤師会第10回学術講演会, 2021年3月, WEB

2, 当院における院外処方疑義照会について

佐藤友美

4 看護部

(学会発表)

- 1, A病院の退院支援における医療材料提供体制構築に向けての取り組み

近江谷未幸

福井県看護学会, 2021 年 9 月, 福井

- 2, COPD終末期にある在宅療養患者～一事例からの学び～

近江谷未幸

第 29 階福井県呼吸器ケア研究会, 2021 年 10 月, 福井

- 3, 「災害活動実習」を受け入れる実習病院としての課題

～ホームページ情報からの分析～

井上ひろみ

日本災害看護学会第 23 回年次大会, 2021 年 9 月, 新潟WEB

令和3年度剖検一覧

	剖検番号	性別	依頼科	主治医	臨床診断	病理診断	執刀医	CPC実施日	CPC会場
1	13744	M	内科	松田 優治	1. 廃用症候群 2. アルツハイマー型認知症 3. 神経性膀胱炎	誤嚥性肺炎	松田 優治	2021/6/23	金沢大学人体病理学教室
2	13750	M	内科	中嶋 康貴	1. 肺癌(腺癌) 2. 傍腫瘍性神経症候群	肺癌	中嶋 康貴	2022/6/24	金沢大学人体病理学教室
3	13752	M	消化器科	清水 吉晃	1. 出血性ショック 2. 上部消化管出血 3. 膵癌・多発肝転移	膵体尾部癌	清水 吉晃	2021/7/27	金沢大学人体病理学教室
4	13762	M	内科	中嶋 康貴	来院時心肺停止	陳旧性心筋梗塞	中嶋 康貴	2021/10/14	市立敦賀病院 東診療棟3階 医局
5	13769	F	消化器科	清水 吉晃	膵頭部癌、多発肝転移、 肺転移	膵癌	清水 吉晃	2022/1/27	市立敦賀病院 東診療棟3階 医局

令和3年度 臨床病理検討会(CPC)一覧

No.	開催日	開催場所	症例	臨床診断名	病理診断名	発表者	参加人数
1	2021年6月23日 水曜日	金沢大学人体病理学教室	70代男性	廃用症候群	誤嚥性肺炎	臨床医 松田優治 谷圭馬 病理医 佐々木素子	5名
2	2021年7月27日 火曜日	金沢大学人体病理学教室	60代男性	甲状腺クリーゼ	急性肝不全	臨床医 岡部佳孝 病理医 吉村かおり 佐々木素子	6名
3	2021年7月27日 火曜日	金沢大学人体病理学教室	60代男性	出血性ショック	膵体尾部癌	臨床医 清水吉晃 病理医 佐々木素子	6名
4	2021年9月28日 火曜日	金沢大学人体病理学教室	70代女性	肺胞出血の疑い	顕微鏡的多発血管炎	臨床医 中嶋康貴 病理医 吉村かおり 佐々木素子	6名
5	2021年10月14日 木曜日	市立敦賀病院医局	70代男性	来院時心肺停止	陳旧性心筋梗塞	臨床医 酒井悟臣 中嶋康貴 病理医 佐藤保則	10名
6	2022年1月27日 木曜日	市立敦賀病院医局	80代女性	膵頭部癌、 多発肝転移、肺転移	膵癌	臨床医 大野幸太 清水 吉晃 病理医 佐藤保則	13名

VIII 臨床研修プログラムの概要

<令和3年度 市立敦賀病院臨床研修プログラム概要と実績>

1. プログラムの名称

市立敦賀病院臨床研修プログラム

2. プログラムの目的と特徴

プライマリー・ケアを中心に、医師として必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を身に付け、患者とのコミュニケーションやチーム医療など医療人としての人格を涵養することがこの研修プログラムの目的です。

当院の卒後臨床研修は、協力型(金沢大学附属病院、福井大学医学部附属病院)および基幹型臨床研修病院として、病院群を形成し連携をとりながら研修を行います。また、地域医療における療養型病院、診療所などの研修をはじめとして、本院で行う各診療科のプログラムの一部を担当するため、豊富な研修協力施設を設けています。

なお、当院の協力型研修は、金沢大学附属病院および福井大学医学部附属病院と各々たすきがけ方式を採用していますので、研修のコース選択によっては両大学病院の研修プログラムと全く同じか一部重複するところがあります。

3. 研修方式および研修内容

当院、敦賀温泉病院、つるが生協診療所などにおいて研修を行う。

(1) オリエンテーション

研修開始直後の数日間はオリエンテーションを行います。研修を円滑に実施できるよう、カルテの記載、インフォームド・コンセント、医療事故、院内感染、チーム医療、保険医療など、医療を行うために必要な事項を学びます。

(2) 基本科目研修

基本科目研修では、内科6ヶ月、救急3ヶ月(うち1ヶ月麻酔科可)、外科1ヶ月、小児科1ヶ月、産婦人科1ヶ月、精神科1ヶ月、地域医療1ヶ月の研修を行います。

①内科研修では、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、透析の内科領域の到達目標を達成できるようローテート研修します。

②救急研修では、救急初期診療の実践訓練を主体とします。全ての救急患者に対して、電話連絡の時点からの情報収集、患者や家族、救急隊へのアドバイスを含めて、救急室における初期診療全般に関して、救急・内科・麻酔科医師等の監督・指導のもとに実践します。また、ローテーション中に心肺蘇生のミニ訓練コース、外傷初期診療のミニ訓練コースを受講していただきます。

救急研修内で1ヶ月研修可である麻酔科研修では、麻酔科医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

・患者の全身状態の把握の仕方と患者との接し方を会得する。

・呼吸、循環、代謝などの全身管理学の基本を手術麻酔管理を通じて身に付ける。

・手術室での研修を基本として、重症患者管理、救急蘇生、救急処置が速やかに行える技術を修得する。

・疼痛を中心とした神経管理・除痛、調整、回復蘇生の技術を外来、手術室、病室において研修する。

③外科研修では、外科的疾患に対する診断法・手術手技・術後管理の基本と外科的救急疾患へのプライマリー・ケアが修得できるよう研修します。

④小児科研修では、小児医療を適切に行うために必要な最低限の基礎知識、技能、態度を修得します。

・小児および小児期の疾患の特性を学び、小児の診療の特性を学ぶ。

- ・検診などを通して発育、発達についての知識を深める。
- ・年齢による検査値や薬用量の違いを知る。
- ・母親など保護者との信頼関係の確立とコミュニケーションの保持に努める。

- ⑤産婦人科研修では、一般患者全般を診るために必要な産科婦人科診療を体験し学びます。具体的には、妊娠に関連する症状や異常、婦人科疾患による諸症状を、他の異常と見誤らない能力と知識を身につけます。
- ⑥精神科研修では、精神疾患に対する診断、治療、予防についての健全な臨床的判断とそれに必要な知識を修得します。
- ⑦地域医療では、「かかりつけ医」として必要な技能と判断力のうち最低限度のものを身につけることを研修します。

(3) 選択科目研修

選択科目研修は、それまでの研修で不十分であった部分を補ったり、将来の進路に合わせて研修医の自由選択により、本院の次の診療科等から選択して研修を行います。

内科(消化器、循環器、血液、アレルギー・膠原病、感染症、神経、脳血管障害、内分泌代謝、腎・透析・高血圧、呼吸器)、小児科、呼吸器外科、消化器外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、神経科精神科、救急・麻酔科・地域保健(二州健康福祉センター・福井県赤十字血液センター)

4. 研修協力病院・施設

地域の研修協力病院や研修協力施設と連携をとりながら効果的な研修を行います。これらの病院や施設には特色あるプログラムが用意されています。

- ・協力型臨床研修病院
 - 医療法人積善会 猪原病院(精神科)
 - 福井大学医学部附属病院救急部(救急)
 - 福井県立病院救急部(救急)
 - 金沢大学附属病院(内科)
 - 医療法人 敦賀温泉病院(精神科)
- ・臨床研修協力施設
 - 医療法人保仁会 泉ヶ丘病院(地域医療)
 - 美浜町東部診療所(地域医療)
 - 福井県医療生活協同組合つるが生協診療所(地域医療)
 - 福井県二州健康福祉センター(地域保健)
 - 福井県赤十字血液センター(地域保健)

5. 研修指導体制

研修の管理責任者は市立敦賀病院事業管理者であり、病院長のもとに研修管理委員会を置き、研修の計画から修了認定までを管理します。また研修期間中、プログラムおよび研修医の指導・管理を担当するプログラム責任者、研修医を直接指導し評価を行う研修指導医を置きます。

(1) 研修管理委員会

研修管理委員会は、事業管理者、病院長、プログラム責任者、各診療科研修実施責任者および臨床研修協力病院、地域保健・医療を含めた研修協力施設の代表者および事務責任者で組織し、臨床研修プログラムおよび研修医の管理、評価等を行います。

(2) プログラム責任者(臨床研修センター長 米島 學)

プログラム責任者は、研修プログラム全体を統括し、全研修期間を通して研修医の指導・管理を行います。また各診療科および各臨床研修協力病院に研修実施責任者を置き、当該診療科等の研修期間中プログラムを管理し、研修医の指導・管理を行います。

(3) 研修指導医

指導医は、研修プログラムに基づき直接研修医を指導し、研修医に対する評価を行います。

指導医は臨床経験7年以上の指導医講習会受講済者で、プライマリ・ケアを中心とした指導を行える十分な能力を有する者とし、診療科長の推薦により病院長が任命します。なお、研修協力病院および研修協力施設の指導医はその病院または施設の長に委ねます。

(4) 臨床研修の評価と修了認定

- ①指導医は担当する診療科での研修期間中、研修目標の到達状況を適宜把握し、研修実施責任者に報告します。
- ②各診療科の研修実施責任者は、当該研修期間が終了したとき、研修医の目標到達状況をプログラム責任者および研修管理委員会に報告します。
- ③研修管理委員会は、研修終了時に、勤務記録、行動目標や経験目標の到達度などで総合的な評価を行います。病院長は、研修管理委員会が臨床研修を修了したと認めるときは臨床研修修了証書を交付します。また、臨床研修を修了したと認めないときは、その理由を文書で研修医に通知します。

6. 研修医の募集人員および選抜方法

基幹型研修プログラムを全国に公開し、マッチング方式により全国から募集します。大学病院との協力型研修の場合は、全国公募はありません。応募の窓口は臨床研修センターとします。

(1) 募集人員

6名

(2) 選抜方法

研修医の選抜は、書類審査および面接により行います。面接は夏季休暇期間中に複数回実施します。出願書類、選抜期日など詳細は決定次第発表します。

(3) 選考結果通知

医師臨床研修マッチングの結果により決定し、速やかに本人に通知します。

7. 処遇

処遇については以下のとおりです。なお、研修協力病院における処遇は、当該病院の定めるところによります。

身分	フルタイム会計年度任用職員
給与	1年次 468,255円(令和2年4月1日現在) 2年次 484,995円(令和2年4月1日現在) (医師手当を含む。)
その他手当	超過勤務手当、宿日直手当等
賞与	1年次 計 885,153円(令和2年4月1日現在) 2年次 計 1,376,760円(令和2年4月1日現在)
勤務時間	8時30分～17時15分
休日・休暇	土・日曜日、祝日、夏期休暇、年次休暇、特別休暇等 (正規職員に準ずる。)
宿舎	あり
社会保険等	社会保険、厚生年金、労災保険、雇用保険適用
医師賠償責任保険	施設として加入
その他	学会、研修会の旅費および負担金の支給あり

8. 臨床研修ローテーション表

- 1年次 基本研修科目(基本パターン)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科			救急			内科			外科	小児科	産婦人科

* 必修科目は、内科6ヶ月、救急3ヵ月（うち1ヶ月麻酔科可）、外科、小児科、産婦人科、精神科の中から3科目を各1ヶ月とし、研修を行っていない科目については2年次に1ヶ月研修

* 外科は外科、整形外科、脳神経外科等より全身を管理する科目を研修医の希望により選択可

* 内科研修時に4週以上の一般外来を研修（2年次でも可）

* 内科又は外科研修時に在宅医療（訪問診療）を研修（2年次でも可）

- 2年次 必修科目および選択科目（基本パターン）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域医療	精神科	選択科目									

* 1年次に研修を行っていない必修科目（外科、小児科、産婦人科、精神科）1ヶ月

* 選択科目のうち9ヶ月以上は、市立敦賀病院における研修とする。

* 2年次に1週間、福井県赤十字血液センター研修を行う。

<初期研修医の採用状況>

年度	定員 (基幹型)	採用数 (協力型含む)	出身大学
平成16年度	4	1	福井大学
平成17年度	4	4	福井大学(3)、金沢大学
平成18年度	4	3	福井大学(3)
平成19年度	6	2	福井大学、兵庫医科大学
平成20年度	6	6	福井大学(2)、金沢大学、山梨大学 昭和大学、慶應義塾大学
平成21年度	6	3	金沢大学、関西医科大学、広島大学
平成22年度	6	6	福井大学、金沢大学、東京大学 滋賀医科大学(2)、島根大学
平成23年度	6	8	金沢大学(2)、北海道大学、高知大学 大阪市立大学、熊本大学、佐賀大学、三重大学
平成24年度	6	4	金沢大学、高知大学、三重大学 関西医科大学
平成25年度	6	5	福井大学、金沢大学、新潟大学、 大阪医科大学、関西医科大学
平成26年度	6	5	福井大学(2)、金沢大学、 旭川医科大学、大阪市立大学
平成27年度	6	3	福井大学(2)、大阪市立大学
平成28年度	6	5	福井大学(2)、京都府立大学、 近畿大学、旭川医科大学
平成29年度	6	3	山口大学、大阪市立大学、信州大学
平成30年度	6	3	福井大学、金沢大学、近畿大学
平成31年度	6	7	福井大学(6)、金沢大学
令和2年度	6	2	福井大学(2)
令和3年度	6	5	福井大学(4)、金沢大学(1)
令和4年度	6	2	福井大学(2)

参 考 资 料

第2次市立敦賀病院中期経営計画（改定版）の概要

1 策定の経緯

第2次市立敦賀病院中期経営計画は、第1次の計画の進捗状況及び「第6次福井県医療計画」など医療制度の方向性をふまえて策定した。

また、平成29年3月には「新公立病院改革ガイドライン」及び「福井県地域医療構想」を受けて、見直しを行い改訂した。

国は病院における入院治療を中心とする医療から在宅医療への移行を推進するとともに、介護制度などを含め地域全体で医療・介護をする地域包括ケアシステムの構築を目指している。

当院は、このように医療制度が大きく変化する中、新たな事業計画及び経営指標の達成に向けて経営改善を発展的に継続し「地域の医療をささえ、信頼され、温もりのある」病院づくりを推進し市民の医療ニーズに対応するものとする。

2 事業計画（計画期間中の取組目標）

（1）人材の確保、定着及び育成

ア 医師の確保

- ・関係機関の協力と実践的な臨床研修プログラムによる研修医の確保により、医師の増員を図る。
- ・医師の事務負担を軽減し診療に専念できる環境づくりのため、医師事務作業補助者を増員する。

イ 看護師等の確保

- ・敦賀市立看護大学の実習病院として良好な学習、実習環境を提供する。
- ・継続的に認定看護師を養成する。
- ・看護補助者の採用による看護業務の負担軽減を図る。

ウ 薬剤師の確保

- ・修学資金制度を継続運用するとともに、大学薬学部への広報を強化する。

エ その他の医療職の確保

- ・理学療法士等の適正な人員を確保し、祝日等のリハビリを含めた機能の充実を図る。

オ 事務職

- ・地域がん診療連携拠点病院及び地域医療支援病院の指定・承認に向けて、地域医療連携体制及び医療福祉相談体制の充実に必要な医療ソーシャルワーカーの人員を確保する。

カ 問題解決力の向上と活力ある職場づくり

- ・各部署の年次計画（アクションプラン）の設定を継続する。
- ・目標管理制度や人事考課制度を医師及び医療技術職員に拡大し、職員の意欲向上と能力開発を促進する。
- ・院内保育所について利用状況に応じて拡充を検討する。

(2) 医療機能の充実と情報発信

ア 救急医療、災害時医療の充実

- ・関係機関との連携により医師を確保し救急医療体制の充実を図る。
- ・災害拠点病院として防災訓練を定期的実施するとともに、災害医療チーム（DMAT）の人員確保と研修・訓練による技能向上を図る。

イ 地域医療確保のために果たすべき役割

- ・高度医療機器の計画的な整備と、地域の医療機関への広報により利用を促進する。
- ・地域がん診療連携拠点病院及び地域医療支援病院の指定・承認を目指す。

ウ 医療の質、医療安全の推進

- ・医療安全大会の開催を継続する。
- ・クリティカルパスの作成数の増加と利用率の増加を図る。
- ・電子カルテシステムを更新する。
- ・病院機能評価など外部機関の審査制度により医療の質の確保と患者サービスの向上を図る。

エ 患者サービスの向上

- ・患者アンケートの実施と改善活動への反映を継続する。
- ・職員接遇研修の継続的に実施する。

オ 地域医療連携の推進

- ・ふくいメディカルネットの運用を推進する。
- ・紹介率、逆紹介率を向上させ地域医療支援病院の指定を目指す。
- ・地域連携クリティカルパスの作成と利用を促進する。

カ 当院の取組みの情報発信

- ・ホームページ、院内掲示、広報紙による情報発信を強化する。
- ・市民公開講座、出前講座、病院フェスタを継続開催する。

(3) 収入増加と経費削減への取組み

ア DPC請求病院としての効率的・効果的な医療の提供

- ・平均在院日数の短縮を図る。

- ・診療科別損益分析・検証により効率的・効果的診療を実施する。

イ 手術体制の維持

- ・手術室等における体制を維持し、効率化を図ります。

ウ 新規施設基準等の取得

- ・地域がん診療連携拠点病院の指定及び地域医療支援病院の承認を目指す。
- ・新規の施設基準の取得を継続的に目指す。

エ 自費診療

- ・人間ドックの利用増加を目指す。
- ・オプション検査等の利用増加を目指す。

オ 委託化の推進、経費の縮減、業務の質の確保

- ・後発医薬品の採用率数量ベース80%を目指す。
- ・委託業務の指導・監督の強化により、業務の適正運用と質を確保する。
- ・高額の未収金回収を強化するとともに、新たな未収金の発生の抑制を図る。

(4) 経営形態の見直し

- ・地方公営企業法全部適用病院として、当面の間経営形態を維持しながら安定かつ健全な経営を目指す。

(5) 地域包括ケアについて

- ・県、市町、医療・福祉・介護の関係機関等の協議の場に参画する。

3 主要経営指標(数値目標)

事業計画を推進し、安定的な経営を継続するため次の数値目標を設定する。

項目		H27年度実績	R2年度目標	備考
経常収支比率		103.8%	101.1%	黒字経営を維持する。
医業収支比率		95.7%	96.0%	更なる医業費用の削減を図る。
職員給与費対医業収益比率		45.8%	52.5%	人材確保等による給与増
病床利用率	計(332床)	78.0%	79.7%	地域包括ケア病棟の効果的な活用を図る。
	急性期	77.0%	76.0%	
	包括ケア	88.3%	93.0%	
患者1人1日 当たり診療収入	入院(急性期)	45,067円	50,305円	平成27年度の水準から約10%の増加を図る。
	入院(包括ケア)	32,053円	29,391円	
	外来	13,367円	13,018円	
平均在院日数	急性期	16.1日	14.3日	退院支援を強化し、平成27年度の水準から約10%の短縮を図る。
	包括ケア	23.4日	40.0日	
材料費対医業収益比率		25.9%	24.5%	H27年度の水準から約5%低下させる。
後発医薬品採用率		67.7%	80.0%	厚生労働省が目指す数量ベース80%以上とする。
紹介率		39.3%	50.0%※	地域医療支援病院の承認を目指す。
逆紹介率		47.5%	70.0%※	

※診療報酬改正により基準が変更となったが、地域医療支援病院の承認を得られる水準を目指すものとする。

4 主要経営指標(令和3年度報告)

項 目		R3年度実績	R4年度目標
経常収支比率		112.3%	101.1%
医業収支比率		93.4%	96.0%
職員給与費対医業収益比率		57.7%	52.5%
病床利用率	計(332床)	69.5%	79.7%
	急性期	65.3%	76.0%
	包括ケア	85.0%	93.0%
患者1人1日 当たり診療収 入	入院(急性期)	58,456円	53,000円
	入院(包括ケア)	35,730円	33,000円
	外来	14,970円	13,000円
平均在院日数	急性期	13.0日	13.0日
	包括ケア	24.0日	25.0日
材料費対医業収益比率		22.8%	23.8%
後発医薬品採用率		88.2%	85.0%
紹介率		33.2%	50.0%
逆紹介率		49.4%	70.0%

市立敦賀病院の患者権利章典

患者さんは、人間としての尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は患者さんと医療従事者との互いの信頼関係の上に成り立つものであり、患者さんに主体的に参加していただくことが必要です。

当院では、このような考え方にに基づき、ここに「市立敦賀病院の患者権利章典」を制定します。

患者さんの権利

1 良質な医療を公平に受ける権利

社会的な地位、信条、障害の有無などに関わらず、良質な医療を公平に受ける権利があります。

2 個人の人格が尊重される権利

個人の人格、価値観などが尊重され、医療従事者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

3 個人の情報やプライバシーが守られる権利

診療に関する個人情報やプライバシーは厳正に保護される権利があります。

4 病気、検査、薬、治療方法などについて、十分な説明、情報提供を受ける権利

自分が受ける治療や検査の効果や危険性、薬の効果や副作用、他の治療方法の有無などについて、理解できるまで十分な説明を受ける権利があります。

5 治療方法などを自らの意思で選択する権利

十分な説明、情報提供を受けた上で、自分の治療計画を立てる過程に参加し、治療法などを自らの意思で選択する権利があります。その際、別の医療機関の意見（セカンド・オピニオン）を聞きたいというご希望も尊重します。

6 自分が受けている医療について知る権利

自分が受けている医療について不明なことがあれば、医療従事者に質問することができ、自分の診療記録の開示を求める権利があります。

患者さんにしていただきたいこと

- 7 医療に関する説明に対し、十分理解できるまで質問してください
納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについては、十分理解できるまで質問してください。
- 8 自身の健康に関する情報を正確に提供してください
良質な医療を実現するために、医療従事者に対し、患者さん自身の健康に関する情報(家族歴、既往歴、アレルギーの有無など)をできるだけ正確に提供してください。
- 9 必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください
治療効果の向上のために、医療従事者とともに病気を治していくという姿勢で、必要な治療や検査などに意欲的に取り組んでください。
- 10 他の患者さんが適切な治療を受けられるように配慮してください
患者さんは通常の社会生活にはない制約を受けざるを得ない場合もあります。病院の規則などを守り、他の患者さんの治療や病院職員による業務などに支障を与えないよう配慮してください。

市立敦賀病院 職業倫理規程

医学及び医療は、病める人の治療はもとより人々の健康の維持・増進を図るものであり、すべての職員が病院理念及び基本方針に基づき、意欲と誇りをもってその使命を果たすことを目的として、次のとおり 職業倫理に関する規程を定める。

- 1 職員は、質の高い医療の提供を目指し、知識と技術の習得に努めます。
- 2 職員は、患者さんの人権及び人格を尊重し、良心をもって医療を提供します。
- 3 職員は、互いの尊敬と理解のもと、協力して医療を提供します。
- 4 職員は、公務員としての責任を自覚し、医療の公共性を重んじ、医療を通じ社会の発展に貢献するとともに、法規範の遵守及び法秩序の形成に努めます。
- 5 職員は、より質の高い医療の提供のため、自己の心身健康の保持増進に努めます。

医療事故防止のための8カ条

- 第1条 医療従事者は、医療事故はいつでも起こりうるものであるという「危機意識」を常に持ち業務にあたる。
- 第2条 患者さん最優先の医療を徹底し、患者さん本位の医療を実践する。
- 第3条 業務にあたっては基本的事項の遵守と確認、再確認を徹底する。
- 第4条 患者さんとのコミュニケーションには十分配慮し、患者さんや家族への説明は、その内容が十分理解されるよう心がける。
- 第5条 診療に関する諸記録は正確かつ丁寧に記載するとともに、相互チェックを実施する。
- 第6条 自己の健康管理には十分留意し、万全の体制で業務にあたる。
- 第7条 職員の具体的、実践的な教育・研修を実施する。
- 第8条 病院管理者、所属長が率先して医療事故防止に対する意識改革を実践する。

病院年報編集委員会

編集委員長 太田 肇

編集委員 新井 良和 竹内 一雄

高橋 秀房 山岸 茂樹

小堀 和美 増井 正清

吉田 聡 川本 義之

森田 定善 谷元 亮友

市立敦賀病院年報（令和3年度）

令和5年3月発行

編集 病院年報編集委員会

発行 市立敦賀病院

〒914-8502 福井県敦賀市三島町1-6-60

TEL (0770)22-3611 FAX (0770)22-6702